

令和7年度 第1回市民意識調査 報告書

調査期間：令和7年6月20日（金）～7月6日（日）

テーマ

- 1 札幌市民の自転車利用について
- 2 雪対策に関する取り組みについて
- 3 災害への備えや厳冬期の考え方、防災啓発について
- 4 第2次札幌市 ICT 活用戦略について
- 5 障がい者コミュニケーション条例等について
- 6 さぼーとほっと基金について

札幌市

目 次

1 調査実施の概要

(1) 目 的-----	2
(2) 項 目-----	2
(3) 設 計-----	2
(4) 回収結果-----	2
(5) 回答者の特性-----	2
(6) 集計・分析上の注意事項-----	3

2 調査結果の詳細

(1) 札幌市民の自転車利用について

自転車に関する法令等のうち、知っているもの-----	5
自転車を利用する頻度-----	6
自転車の利用目的-----	7
自転車利用時に、実際走行する機会の多い場所-----	8
自転車損害賠償保険に加入しているか否か-----	9
自転車利用時のヘルメットの有無-----	10
ヘルメットを着用していない理由-----	11
自転車で歩道を走行する理由-----	12
自転車を利用しない理由-----	13
歩道を走行する自転車利用者について	
ア 走行する自転車と接触した経験の有無-----	14
イ 歩道を走行する自転車のスピード-----	15
ウ 歩行者への配慮-----	16

(2) 雪対策に関する取り組みについて

新雪除雪の際、各世帯が雪の処理を行っていることの認知度-----	17
新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理の負担感-----	18
「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度の認知度-----	19
「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度を利用しているか--	20
排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めているこ との認知度-----	21
冬期間の生活道路の状況で最も重視すべきだと思うもの-----	22
今後特に除排雪に力を入れてほしいと思う道路-----	23
大雪時や大雪が想定される時の行動-----	24
特異な気象による交通混雑や公共交通機関運休などによる影響-----	25
これまでに取り組んだことがある除雪ボランティア活動-----	26
各種除雪ボランティア活動を推進するため、どのような取組が重要になるか-----	27
民間企業などの有料除排雪サービスを利用の有無-----	28
冬の暮らしに関する情報で見たことがあるもの-----	29

(3) 災害への備えや厳冬期の考え方、防災啓発について

災害対策として行っていること-----	30
災害に備えて用意している備蓄品-----	31
厳冬期における災害用備蓄品の用意について-----	35
厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難場所-----	36
厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難理由-----	37
防災に関する知識、情報の取得方法-----	38
防災に関するセミナーやイベントの参加経験の有無-----	39
今後、防災にかかるセミナーやイベントに参加しようと思うか-----	40
防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思わない理由-----	41
防災に関して知りたいと思う項目-----	42

(4) 第2次札幌市ICT活用戦略について

行政手続、行政サービス等を利用したことがあるか-----	43
行政手続、行政サービスを活用していない理由-----	44
スマートフォンを利用する際の目的-----	45

(5) 障がい者コミュニケーション条例について

障がい者コミュニケーション条例の認知度-----	46
障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけ-----	47
障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳)の保有状況-----	48
障害のある方が使用するコミュニケーション手段で、知っているもの-----	49
障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、学んでみたい、または、知りたいと思うか-----	50
障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいか-----	51
コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、取り組みたいこと-----	52
コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいこと-----	53

(6) さぼーとほっと基金について

さぼーとほっと基金の認知度-----	54
さぼーとほっと基金を知ったきっかけ-----	55
さぼーとほっと基金への寄付の有無-----	56
今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思うか-----	57
寄付する際に重要だと思うこと-----	58
寄付をする際の決済方法-----	59
寄付をしたいと思う分野・テーマ-----	60

資料: 令和7年度第1回市民意識調査票-----

調査実施の概要

1 調査実施の概要

1) 目的

この調査は、昭和49年度から毎年実施しており、市政や市民生活に関して、市民の意識、関心、要望の傾向などを測定し、市政の参考とするものである。令和7年度第1回調査では、「札幌市民の自転車利用について」「雪対策に関する取り組みについて」などをテーマとして設問を構成している。

(2) 項目

札幌市民の自転車利用について
雪対策に関する取り組みについて
災害への備えや厳冬期の考え方、防災啓発について
第2次札幌市 ICT 活用戦略について
障がい者コミュニケーション条例等について
さぼーとほっと基金について

(3) 設計

調査地域	札幌市内
調査対象	満18歳以上の男女個人
標本数	5,000人
調査方法	調査票を郵送し、返信用封筒で回収
調査期間	令和7年(2025年)6月20日(金)～7月6日(日)
抽出方法	住民基本台帳から「等間隔無作為抽出」 (対象者の抽出は、本市の電算システムにて行う。)

(4) 回収結果

発送数	5,000
回収数(率)	2,488 (49.8%)

(5) 回答者の特性

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,488	100.0	1,035	41.6%	1,419	57.0%	14	0.6%	20	0.8%	2,488	100.0%
【性別】												
男性	1,035	41.6	1,035	100.0	—	—	—	—	—	—	1,035	100.0
女性	1,419	57.0	—	—	1,419	100.0	—	—	—	—	1,419	100.0
その他	14	0.6	—	—	—	—	14	100.0	—	—	14	100.0
無回答	20	0.8	—	—	—	—	—	—	20	100.0	20	100.0
【年代】												
20～29歳	161	5.5	56	34.8%	102	63.4%	2	1.2%	1	0.6%	161	100.0%
30～39歳	281	11.3	105	37.4%	172	61.2%	2	0.7%	2	0.7%	281	100.0%
40～49歳	311	12.5	129	41.5%	177	56.9%	2	0.6%	3	1.0%	311	100.0%
50～59歳	478	19.2	159	33.3%	312	65.3%	2	0.4%	5	1.0%	478	100.0%
60～69歳	489	19.7	223	45.6%	259	53.0%	3	0.6%	4	0.8%	489	100.0%
70歳以上	751	10.8	356	47.4%	387	51.5%	3	0.4%	5	0.7%	751	100.0%
無回答	17	0.7	7	41.2%	10	58.8%	—	—	—	—	17	100.0%
【居住区】												
中央区	307	12.3%	115	37.5%	190	61.9%	—	—	2	0.7%	307	100.0
北区	356	14.3%	151	42.4%	198	55.6%	3	0.8%	4	1.1%	356	100.0
東区	316	12.7%	142	44.9%	170	53.8%	4	1.3%	—	—	316	100.0
白石区	253	10.2%	92	36.4%	159	62.8%	—	—	2	0.8%	253	100.0
厚別区	156	6.3%	59	37.8%	93	59.6%	1	0.6%	3	1.9%	156	100.0
豊平区	282	11.3%	113	40.1%	169	59.9%	—	—	—	—	282	100.0
清田区	149	6.0%	65	43.6%	82	55.0%	1	0.7%	1	0.7%	149	100.0
南区	175	7.0%	88	50.3%	87	49.7%	—	—	—	—	175	100.0
西区	281	11.3%	119	42.3%	157	55.9%	2	0.7%	3	1.1%	281	100.0
手稲区	188	7.6%	76	40.4%	107	56.9%	3	1.6%	2	1.1%	188	100.0
無回答	25	1.0%	15	60.0%	7	28.0%	—	—	3	12.0%	25	100.0

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,488	100.0	1,035	41.6%	1,419	57.0%	14	0.6%	20	0.8%	2,488	100.0
【職業】												
会社員	734	29.5%	299	40.7%	425	57.9%	4	0.5%	6	0.8%	734	100.0
公務員	103	4.1%	41	39.8%	60	58.3%	2	1.9%	—	—	103	100.0
自営業	108	4.3%	47	43.5%	61	56.5%	—	—	—	—	108	100.0
パート・アルバイト	416	16.7%	168	40.4%	243	58.4%	2	0.5%	3	0.7%	416	100.0
主婦・主夫	399	16.0%	160	40.1%	234	58.6%	2	0.5%	3	0.8%	399	100.0
学生	48	1.9%	32	66.7%	16	33.3%	—	—	—	—	48	100.0
無職	552	22.2%	231	41.8%	311	56.3%	3	0.5%	7	1.3%	552	100.0
その他	99	4.0%	45	45.5%	52	52.5%	1	1.0%	1	—	99	100.0
無回答	29	1.2%	12	41.4%	17	58.6%	—	—	—	—	29	100.0
【同居家族】												
配偶者	1,507	60.6%	602	39.9%	885	58.7%	8	0.5%	12	0.8%	1507	100.0
乳幼児（0～2歳程度）	76	3.1%	30	39.5%	45	59.2%	—	—	1	1.3%	76	100.0
就学前児童（3～5歳程度）	90	3.6%	31	34.4%	57	63.3%	1	1.1%	1	1.1%	90	100.0
小学生（6～12歳程度）	178	7.2%	72	40.4%	104	58.4%	1	0.6%	1	0.6%	178	100.0
中学生（13～15歳程度）	126	5.1%	50	39.7%	74	58.7%	1	0.8%	1	0.8%	126	100.0
高校生（16～18歳程度）	120	4.8%	42	35.0%	76	63.3%	1	0.8%	1	0.8%	120	100.0
大学（院）・専門学校生	110	4.4%	35	31.8%	73	66.4%	1	0.9%	1	0.9%	110	100.0
65歳以上の高齢者	301	12.1%	135	44.9%	162	53.8%	2	0.7%	2	0.7%	301	100.0
上記「1」～「8」以外の方	457	18.4%	190	41.6%	260	56.9%	3	0.7%	4	0.9%	457	100.0
いない	488	19.6%	103	21.1%	378	77.5%	3	0.6%	4	0.8%	488	100.0
無回答	24	1.0%	10	41.7%	14	58.3%	—	—	—	—	24	100.0
【居住形態】												
戸建住宅	1,148	46.1%	378	32.9%	757	65.9%	4	0.3%	9	0.8%	1148	100.0
集合住宅（アパート、マンション等）	1,280	51.4%	627	49.0%	632	49.4%	10	0.8%	11	0.9%	1280	100.0
その他	17	0.7%	7	41.2%	10	58.8%	—	—	—	—	17	100.0
無回答	43	1.7%	23	53.5%	20	46.5%	—	—	—	—	43	100.0

(6) 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で標記している。また、図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。

なお、個々の選択肢比率を合算する場合（「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計など）は、個々の回答者数の合計をNで除して百分率を求め、小数第2位を四捨五入した。このため、本文やグラフの比率を単純合計したものにはならない場合がある。

調査結果の詳細

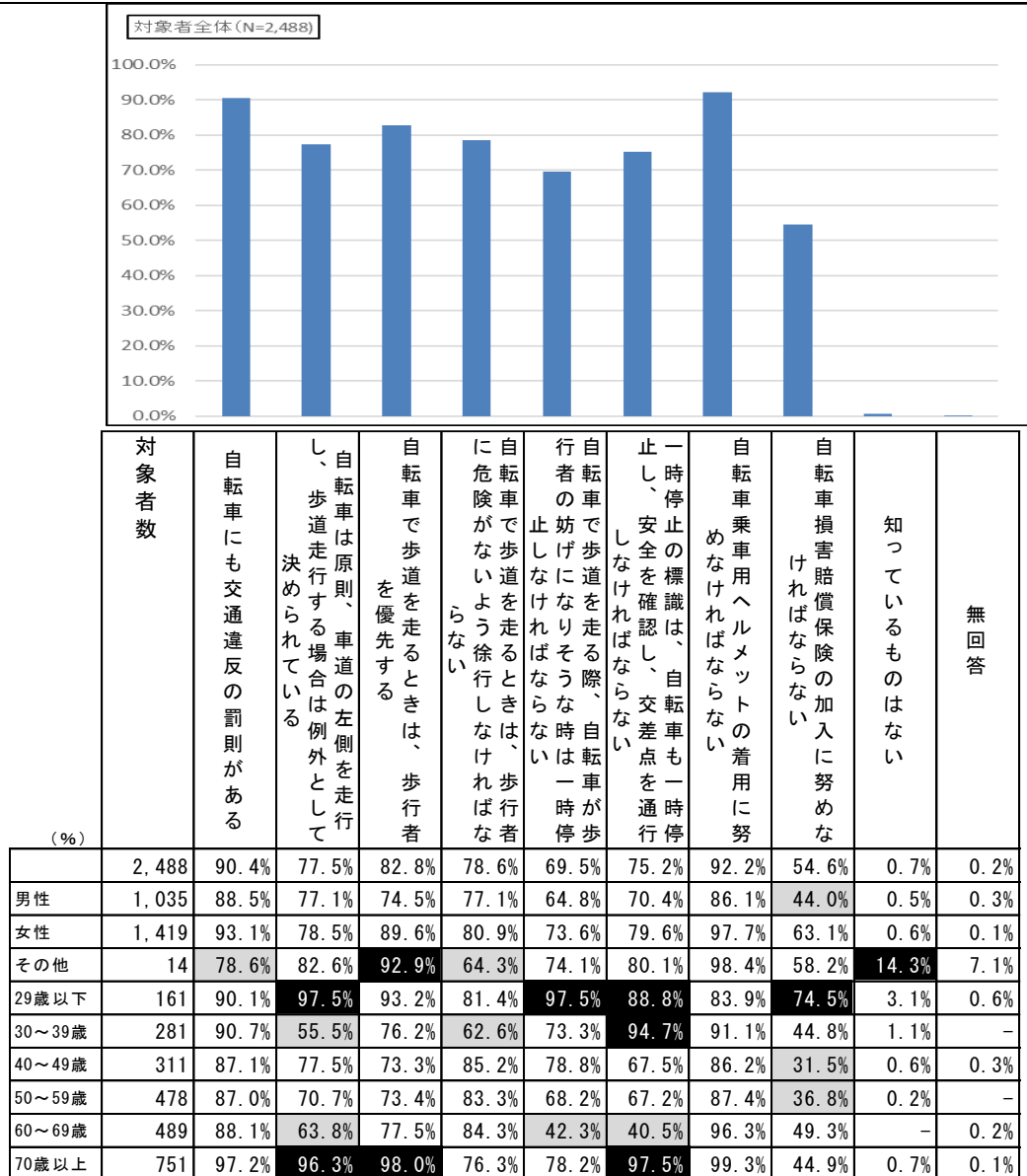
2 調査結果の詳細

(1)札幌市民の自転車利用について

◇自転車に関する法令等のうち、知っているもの

問1 自転車の安全利用についてお聞きします。以下に示した自転車に関係する法令等のうち、あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

自転車に関する法令等で知っているものは「自転車乗車用ヘルメットの着用に努めなければならない」と回答した人が92.2%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い

対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自転車に関する法令等で知っているものは「自転車乗車用ヘルメットの着用に努めなければならない」が92.2%、「自転車にも交通違反の罰則がある」が90.4%、「自転車では歩道を走るときは歩行者を優先する」が82.8%となっている。

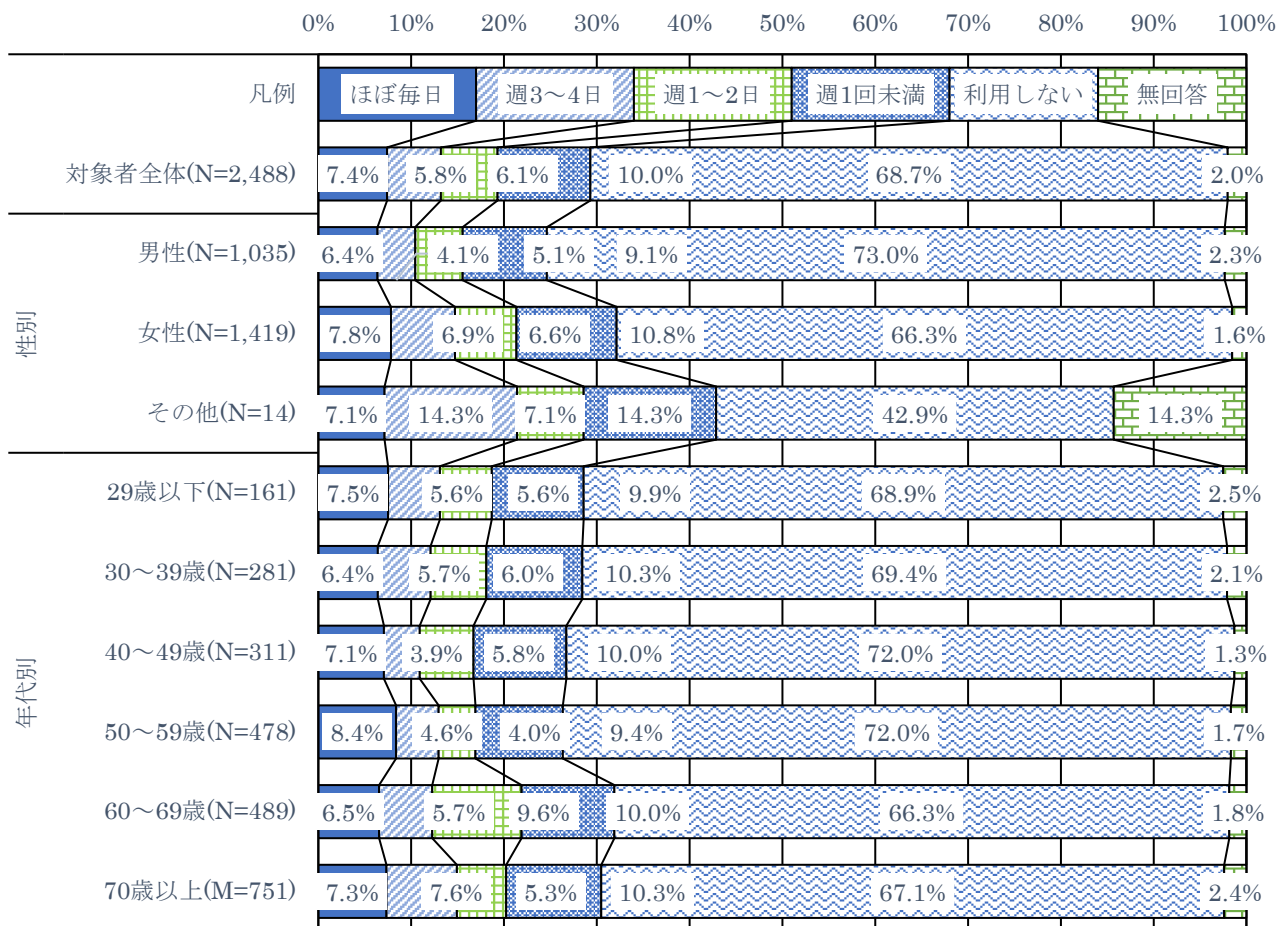
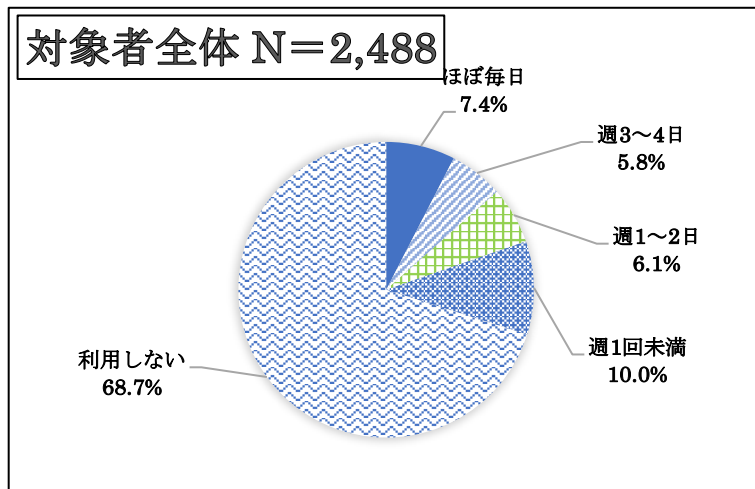
【性別】「自転車では歩道を走るときは、歩行者を優先する」「自転車が歩行者の妨げになりそうな時は一時停止しなければならない」「自転車乗車用ヘルメットの着用に努めなければならない」は女性が男性より11.6ポイント以上高くなっている。

【年代別】「自転車は原則、車道の左側を走行し、歩道走行する場合は例外として決められている」が29歳以下(97.5%)で最も高く、最も低い30歳代(55.5%)と比べると42.0ポイントの差となっている。

◇自転車を利用する頻度

問2 あなたが自転車を利用する頻度はどのくらいですか。夏期(4月～10月)の状況について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車を利用する頻度は、「利用しない」人が68.7%



【全 体】自転車を利用する頻度は、「利用しない」が68.7%、「週1回未満」が10.0%、「ほぼ毎日」が6.4%となっている

【性 別】「利用しない」は男性で73.0%と、女性の66.3%より6.7ポイント高くなっている。

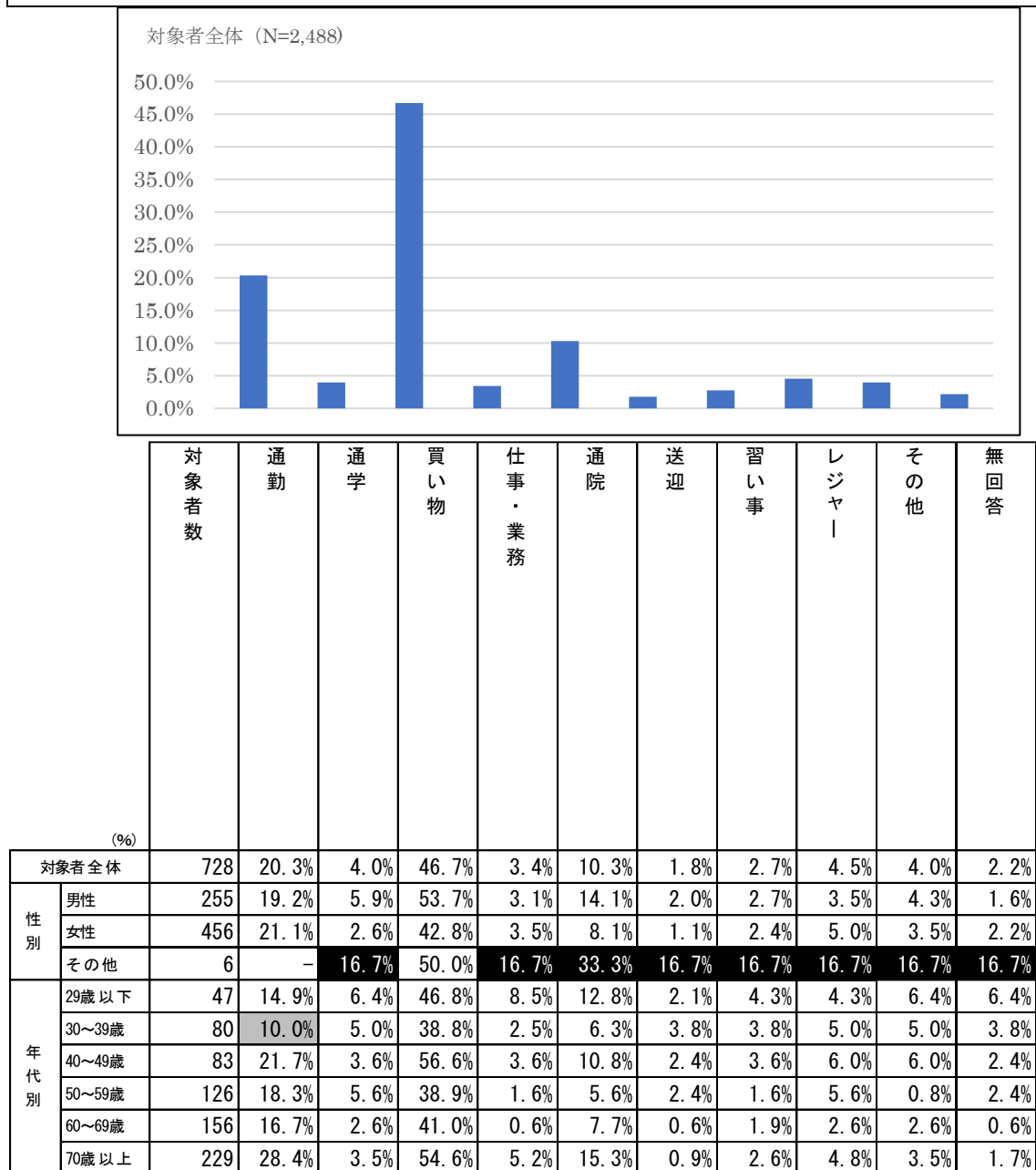
【年代別】「ほぼ毎日」が50歳代(8.4%)で最も高く、次いで29歳以下(7.5%)、70歳以上(7.3%)となっている。

◇自転車の利用目的

「問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。」

問3 あなたの自転車の利用目的について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自転車の利用目的は、「買い物」が46.7%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】自転車の利用目的は、「買い物」が46.7%、「通勤」が20.3%、「通院」が10.3%と、この3項目で約8割を占めている。

【性 別】「買い物」「通院」は男性が女性より6.0ポイント以上高くなっている。

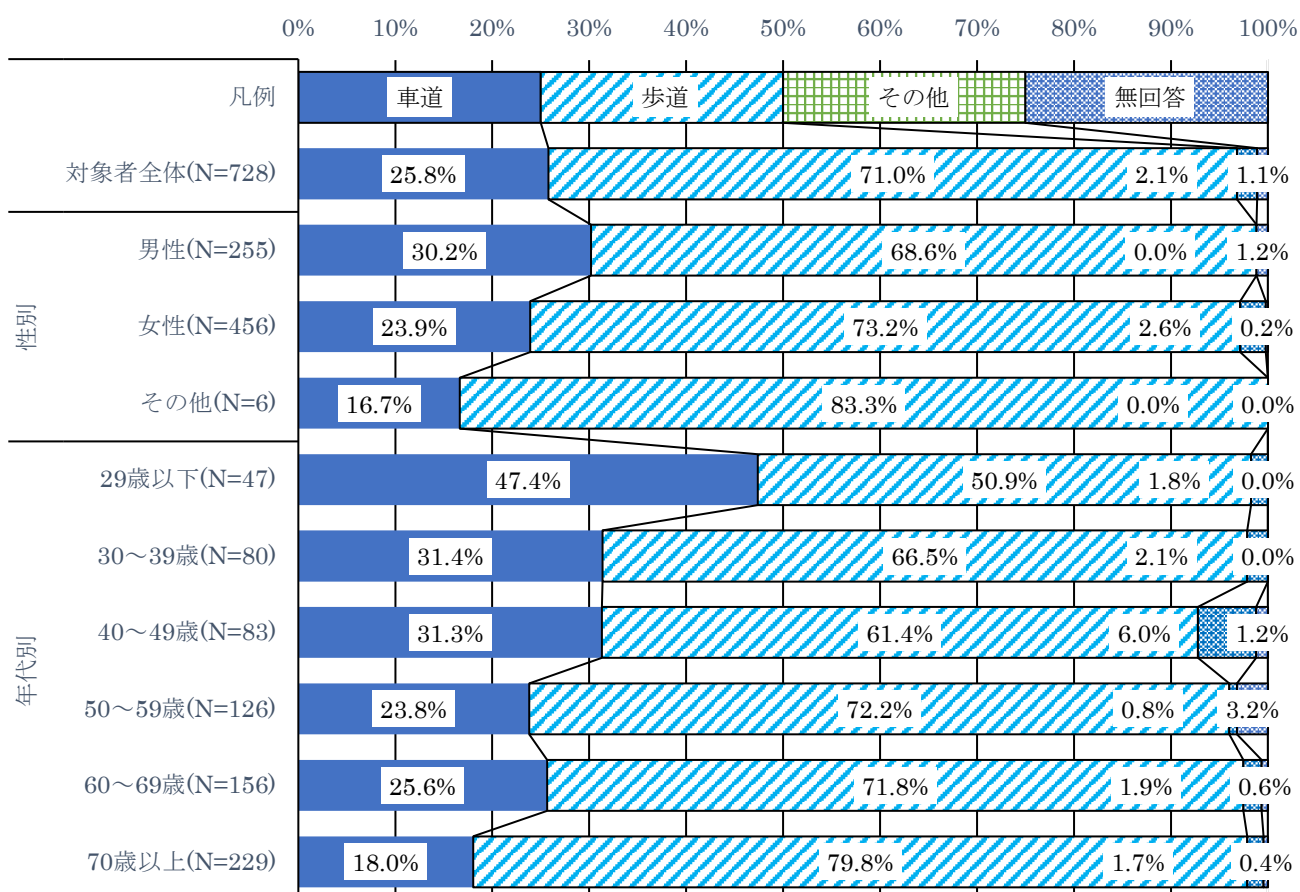
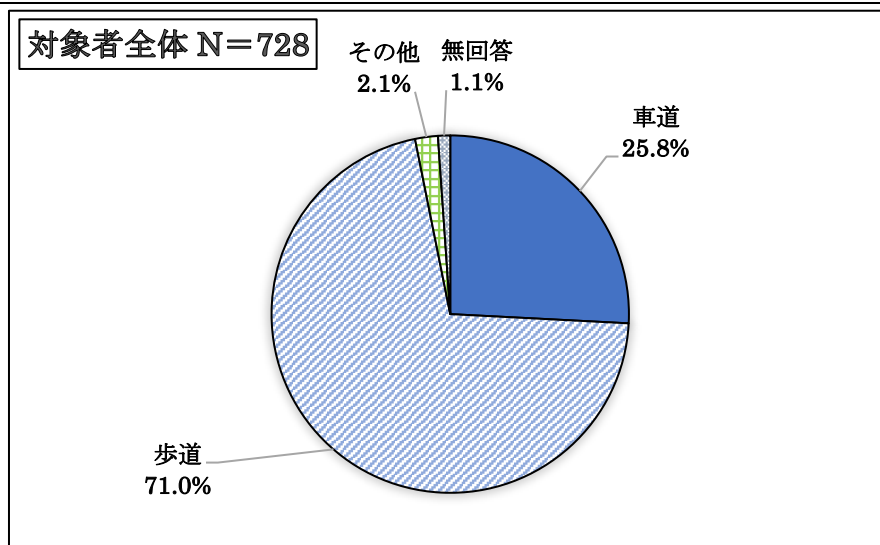
【年代別】「買い物」が70歳以上(54.6%)で最も高く、最も低い30歳代(38.8%)と比べると15.8ポイントの差となっている。

◇自転車利用時に、実際走行する機会の多い場所

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。》

問4 あなたが自転車利用時に、実際に走行する機会の多い場所はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車利用時に走行する機会の多い場所は、「歩道」が71.0%



【全 体】自転車利用時に走行する機会の多い場所は、「歩道」が71.0%、「車道」25.8%、となっている。

【性 別】「車道」は男性で30.2%と女性の23.9%より6.3ポイント高くなっている。

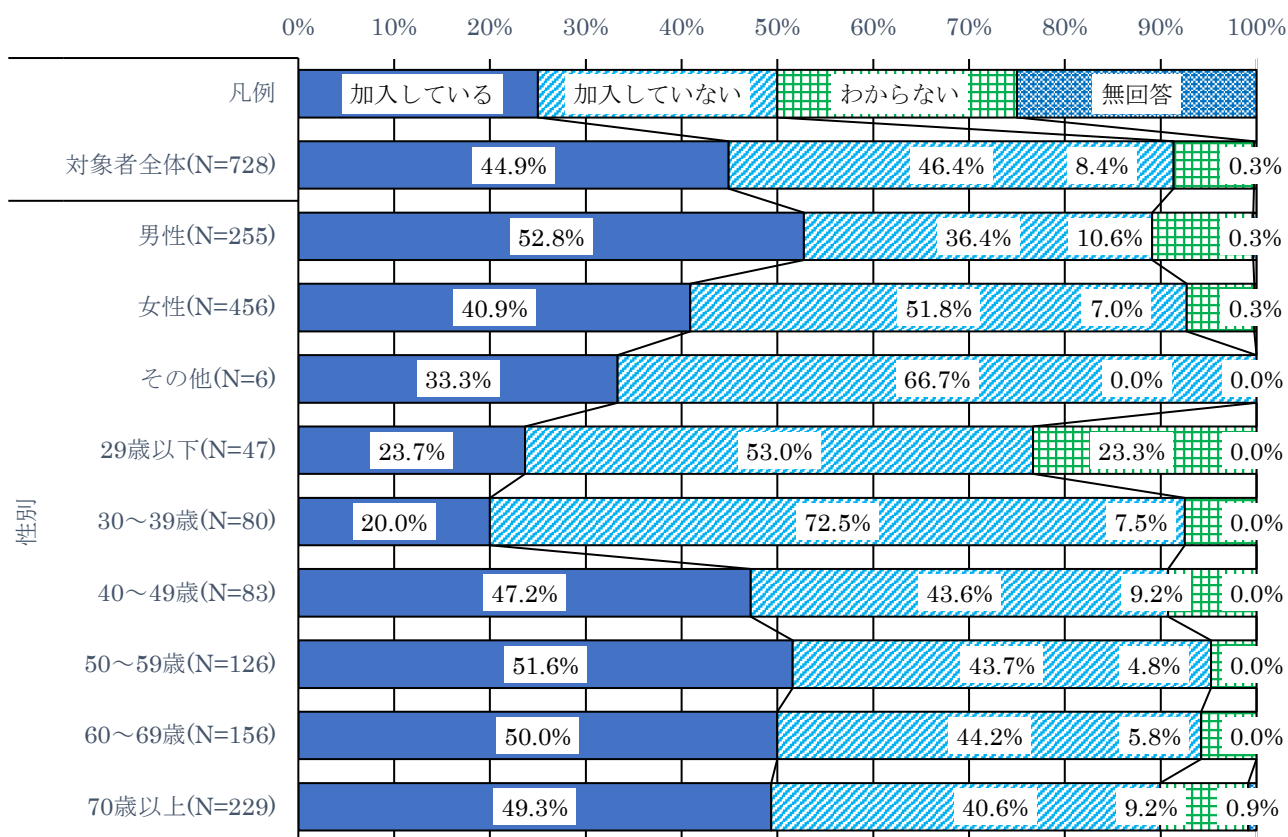
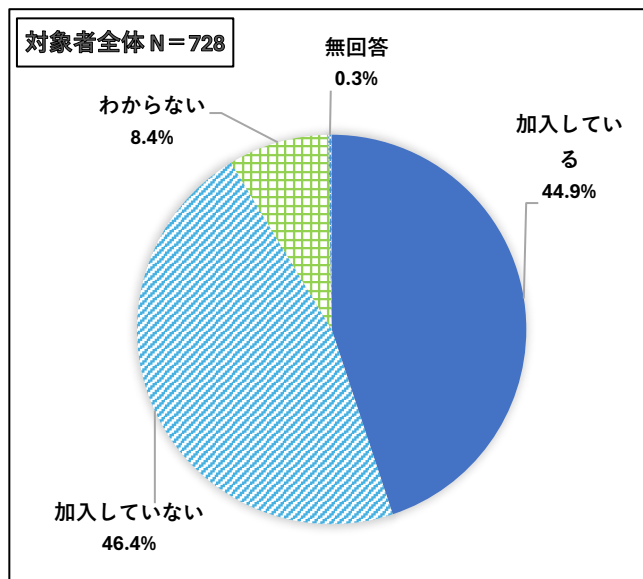
【年代別】「車道」が29歳以下(47.4%)で最も高く、次いで30歳代(31.4%)、40代(31.3%)となっている。

◇自転車損害賠償保険に加入しているか否か

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。》

問5 あなたは自転車損害賠償保険(他の保険に付帯されているものも含む)に加入していますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車損害賠償保険は、「加入していない」人が46.4%



【全 体】自転車損害賠償保険は、「加入していない」が46.4%、「加入している」が44.9%となっている。

【性 別】「加入している」は男性で52.8%と女性の40.9%より11.9ポイント高くなっている。

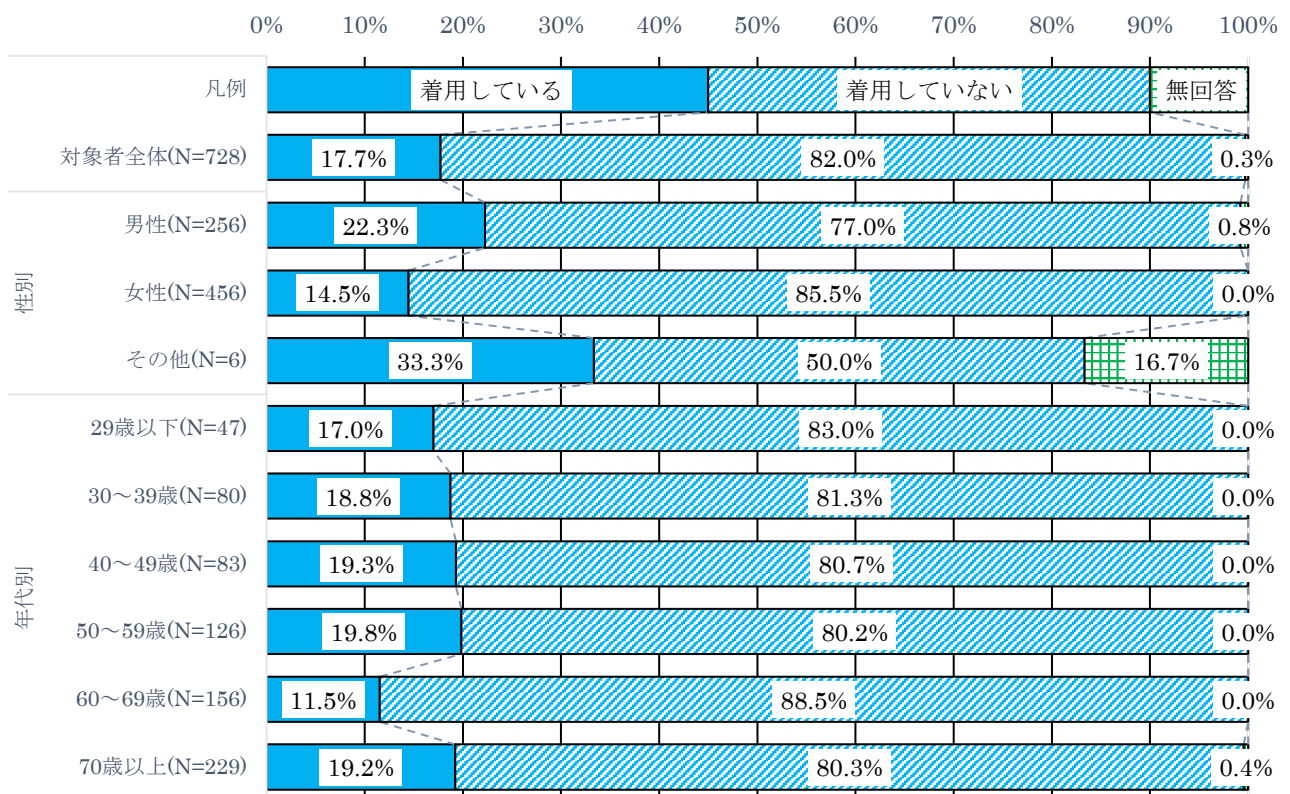
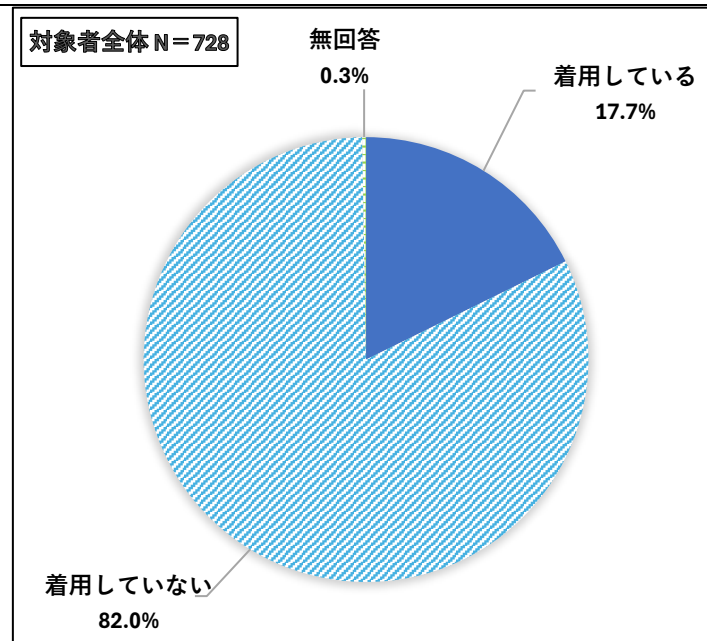
【年代別】「加入している」が50歳以上(51.6%)で最も高く、最も低い30歳代(20.0%)と比べると21.6ポイントの差となっている。

◇自転車利用時のヘルメットの有無

「問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。」

問6 あなたは、自転車の利用時にヘルメットを着用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車利用時にヘルメットを「着用している」人は17.7%



【全 体】 自転車利用時にヘルメットを「着用している」と回答した人は17.7%となっている。

【性 別】 「着用している」は男性で22.3%と女性の14.5%より7.8ポイント高くなっている。

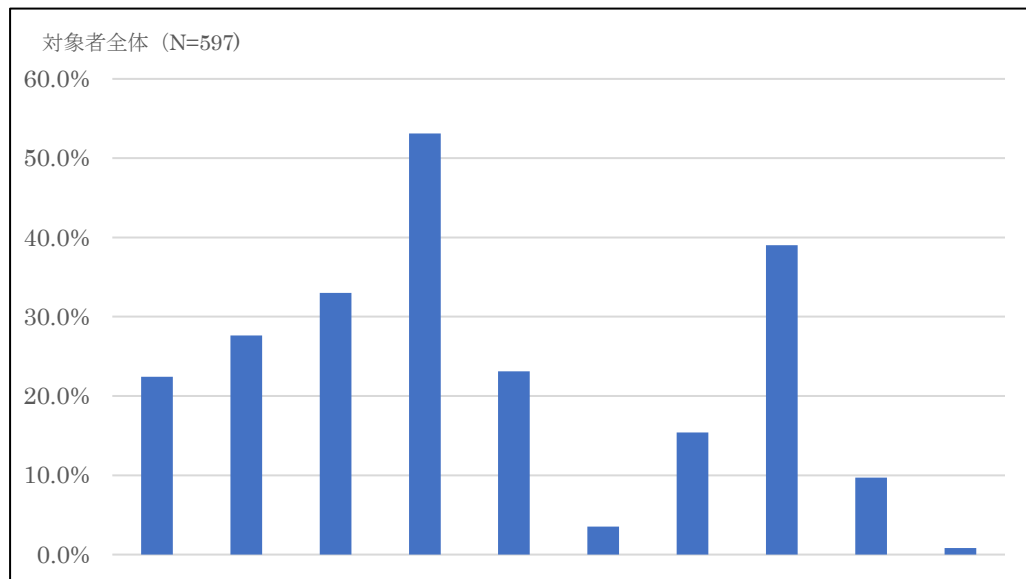
【年代別】 「着用している」が50歳代(19.8%)で最も高く、次いで40歳代(19.3%)、70歳以上(19.2%)となっている。

◇ヘルメットを着用していない理由

「問6で「2 着用していない」と答えた方にお聞きます。」

問6-1 あなたがヘルメットを着用していない理由としてあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

ヘルメットを着用しない理由は「持ち歩くのが面倒なため」と回答した人が53.1%



		対象者数	必要性を感じないため	販売価格が高いため	頭髮が乱れるため	持ち歩くのが面倒なため	周りの人が着用していないため	着用の努力義務化を知らなかったため	気に入ったデザインがないため	移動時間が短いから	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		597	22.4%	27.6%	33.0%	53.1%	23.1%	3.5%	15.4%	39.0%	9.7%	0.8%
性別	男性	197	28.4%	35.0%	41.6%	67.0%	28.9%	4.6%	19.3%	49.2%	12.2%	1.0%
	女性	390	19.5%	24.1%	28.7%	46.4%	20.3%	3.1%	13.3%	34.1%	8.5%	0.8%
	その他	3	33.3%	33.3%	33.3%	66.7%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%
年代別	29歳以下	39	20.5%	28.2%	33.3%	51.3%	23.1%	2.6%	15.4%	38.5%	10.3%	0.0%
	30～39歳	65	23.1%	29.2%	33.8%	55.4%	24.6%	3.1%	15.4%	40.0%	10.8%	1.5%
	40～49歳	67	25.4%	31.3%	37.3%	59.7%	25.4%	4.5%	17.9%	43.3%	10.4%	1.5%
	50～59歳	101	25.7%	31.7%	37.6%	60.4%	26.7%	4.0%	17.8%	44.6%	10.9%	1.0%
	60～69歳	138	18.8%	23.5%	23.2%	44.9%	19.6%	2.9%	13.0%	33.3%	8.0%	0.7%
	70歳以上	184	21.7%	27.2%	32.1%	51.6%	22.8%	3.3%	15.2%	38.0%	9.2%	1.1%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】ヘルメットを着用しない理由は、「持ち歩くのが面倒なため」が53.1%、「移動時間が短いから」が39.0%、「頭髮が乱れる」が33.0%となっている

【性 別】「持ち歩くのが面倒なため」は男性が女性より20.6ポイント高くなっている。

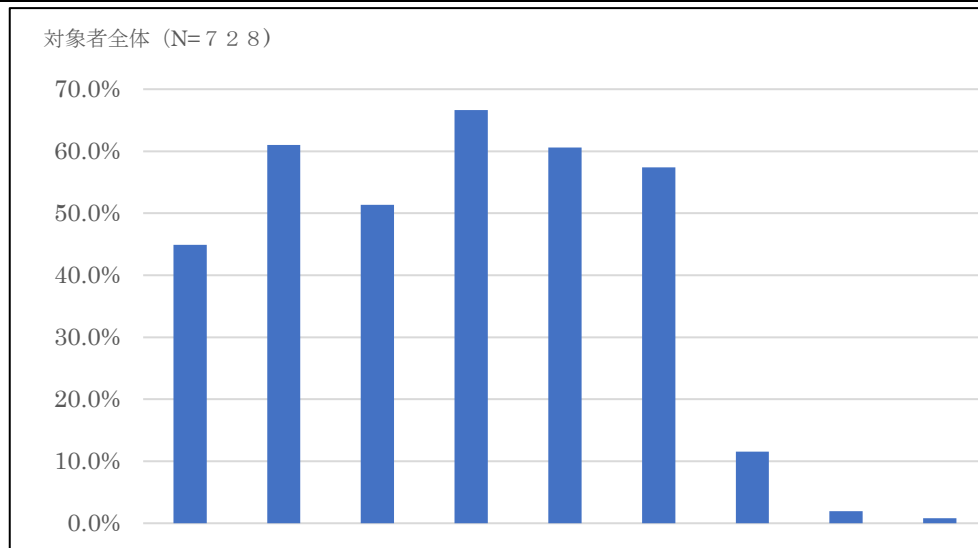
【年代別】「持ち歩くのが面倒なため」が50歳代(60.4%)で最も高く、次いで40歳代(59.7%)、30歳代(55.4%)となっている。

◇自転車で歩道を走行する理由

「問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。」

問7 自転車で歩道を走行する理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自転車で歩道を走行する理由は、「車道の交通量が多いから」と回答した人が 66.6%



		対象者数	工事や駐停車する車両があるから	自転車走行帯が狭いから	車のスピードが速いから	車道の交通量が多いから	車道走行自体が怖いと思うから	歩道のほうが安全だと思うから	その他	歩道を走行することはない	無回答
		(%)									
対象者全体		728	44.9%	61.0%	51.4%	66.6%	60.6%	57.4%	11.5%	1.9%	0.8%
性別	男性	255	53.3%	72.2%	60.8%	78.8%	71.8%	67.8%	13.3%	2.0%	0.8%
	女性	456	41.2%	55.5%	46.7%	60.5%	55.0%	52.2%	10.3%	1.5%	0.7%
	その他	6	16.7%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	33.3%	-	-	-
年代別	29歳以下	47	44.7%	59.6%	48.9%	63.8%	59.6%	57.4%	8.5%	-	-
	30～39歳	80	45.0%	62.5%	52.5%	67.5%	61.3%	58.8%	11.3%	1.3%	-
	40～49歳	83	48.2%	66.3%	55.4%	72.3%	66.3%	62.7%	12.0%	1.2%	-
	50～59歳	126	49.2%	67.5%	56.3%	73.8%	66.7%	63.5%	12.7%	1.6%	0.8%
	60～69歳	156	41.0%	55.8%	46.8%	60.9%	55.1%	52.6%	10.3%	1.3%	0.6%
	70歳以上	229	42.8%	58.5%	48.9%	63.3%	57.6%	54.6%	10.9%	1.3%	0.4%

	対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
	対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自転車で歩道を走行する理由は、「車道の交通量が多いから」が 66.6%、「自転車走行帯が狭いから」が 61.0%、「車道走行自体が怖いと思うから」が 60.6%となっている。

【性別】「自転車走行帯が狭いから」「車道の交通量が多いから」「車道走行自体が怖いと思うから」は男性が女性より 16.7 ポイント以上高くなっている。

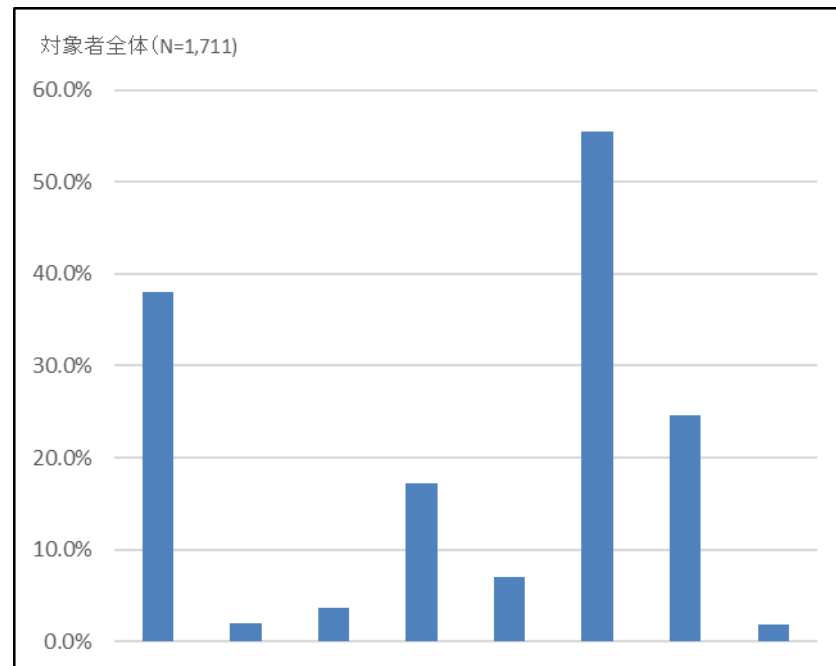
【年代別】「車道の交通量が多いから」は 50 歳代(73.8%)で最も高く、次いで 40 歳代(72.3%)、30 歳代(67.5%)となっている。

◇自転車を利用しない理由

「問2で「5 利用しない」に○をつけた方にお聞きします。」

問8 あなたが自転車を利用しない理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自転車を使用しない理由は、「自転車を持っていないから」と回答した人が55.5%



		対象者数	公共交通機関が充実しているなど、必要性を感じないから	自転車の交通ルールが分からないから	ヘルメットを被りたくないから	事故の危険が高いから	自転車に乗れないから	自転車を持っていないから	その他	無回答
		(%)								
対象者全体		1,711	38.0%	2.0%	3.6%	17.2%	7.0%	55.5%	24.6%	1.9%
性別	男性	756	35.7%	1.9%	3.3%	16.1%	6.5%	52.2%	23.5%	1.9%
	女性	941	39.7%	1.9%	3.8%	18.3%	7.2%	58.2%	25.4%	1.9%
	その他	6	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	83.3%	33.3%	0.0%
年代別	29歳以下	111	35.1%	0.9%	2.7%	16.2%	6.3%	55.0%	24.3%	0.9%
	30～39歳	195	37.4%	4.1%	3.6%	17.9%	9.7%	54.9%	21.5%	1.5%
	40～49歳	224	40.6%	1.8%	2.7%	15.2%	9.4%	69.2%	21.9%	1.3%
	50～59歳	344	29.1%	0.3%	3.2%	13.4%	6.4%	55.8%	21.8%	2.0%
	60～69歳	324	38.0%	2.2%	3.7%	11.4%	4.0%	42.9%	23.1%	1.9%
	70歳以上	504	42.7%	2.2%	4.2%	23.4%	6.7%	56.7%	29.0%	1.8%

	対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
	対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】自転車を利用しない理由は、「自転車を持っていないから」が55.5%、「公共交通機関が充実しているなど、必要性を感じないから」が38.0%、「事故の危険が高いから」が17.2%となっている。

【性 別】「自転車を持っていないから」は、女性が58.2%と男性の52.2%に比べ6.0ポイント高くなっている。

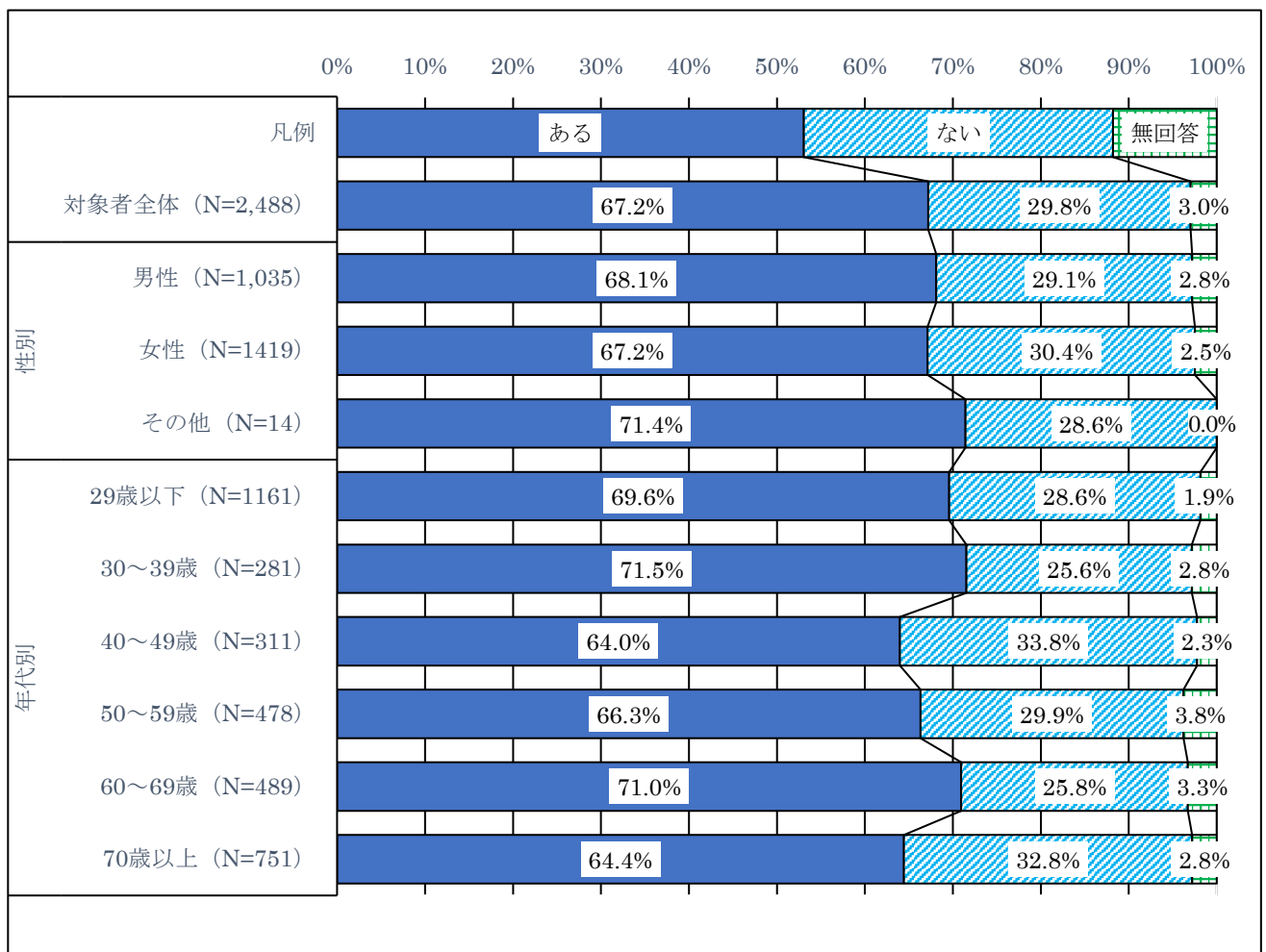
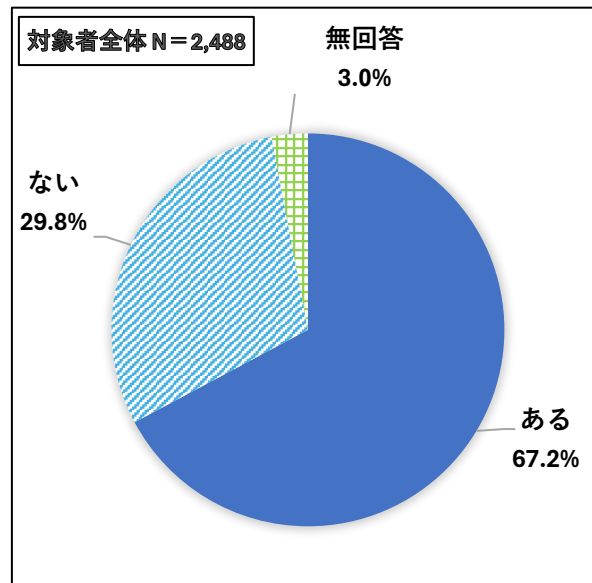
【年代別】「自転車を持っていないから」は40歳代(49.8%)で最も高く、最も低い60歳代(28.4%)と比べると21.4ポイントの差となっている。

◇歩道を走行する自転車利用者について

問9あなたが歩道を歩いているとき、歩道を走行する自転車利用者についてどのように感じていますか。それぞれの項目について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ア 走行する自転車と接触したり、接触しそうになったことがありますか。

走行する自転車と接触したり、接触しそうになった経験が「ある」人が67.2%



【全 体】走行する自転車と接触したり、接触しそうになった経験は「ある」が67.2%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

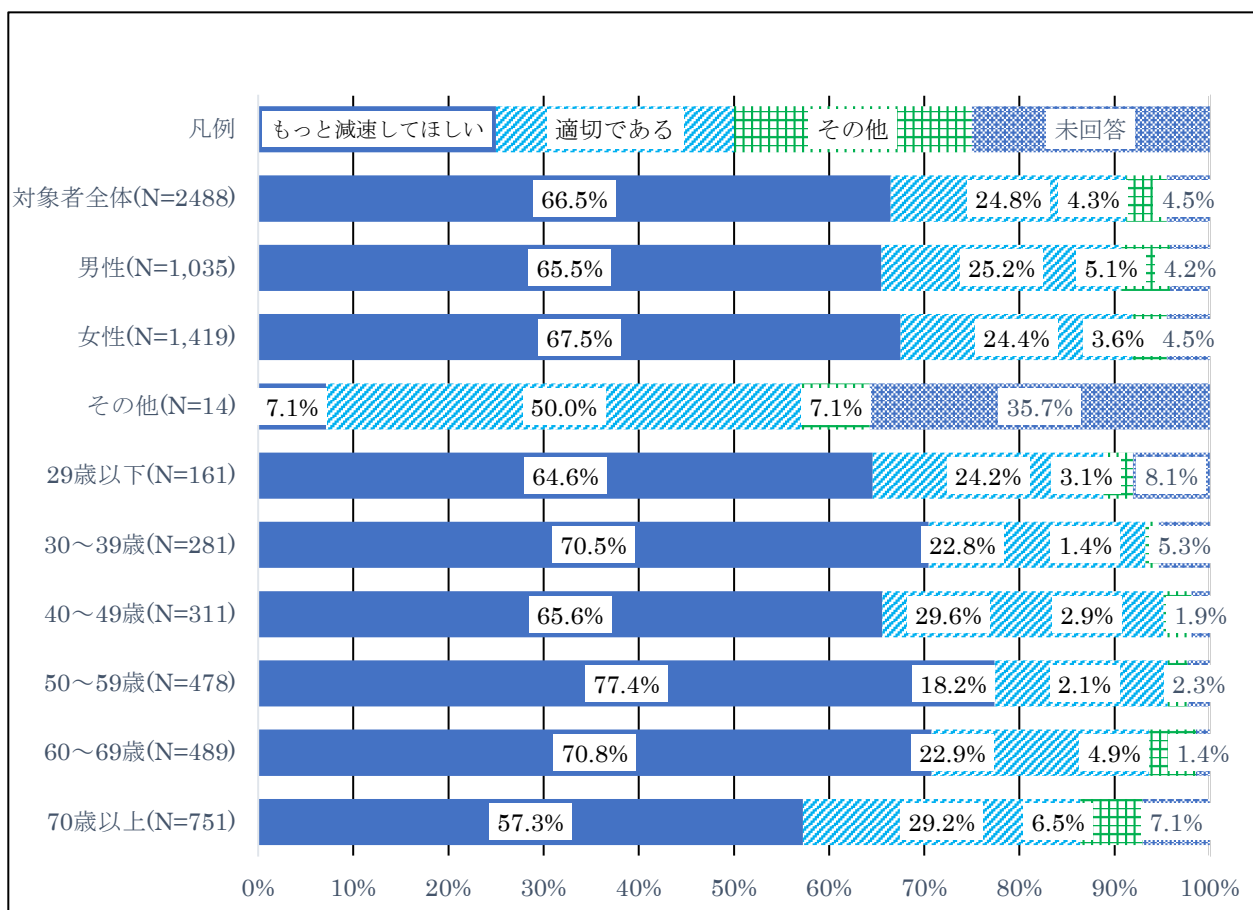
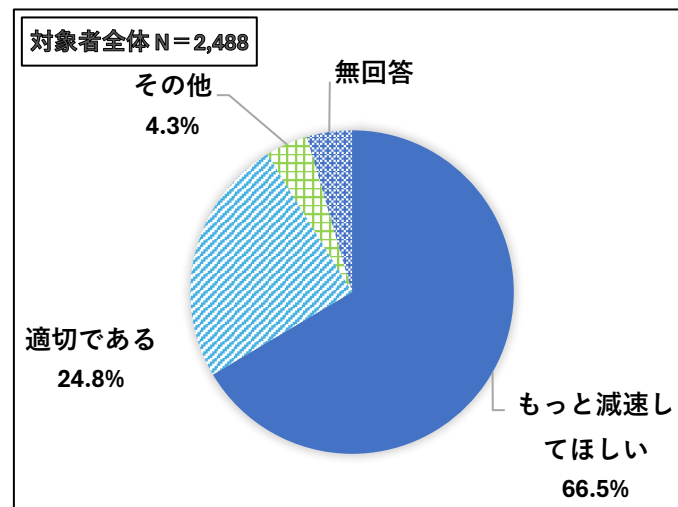
【年代別】走行する自転車と接触したり、接触しそうになった経験は「ある」が30歳代(71.5%)で最も高く、次いで60歳代(71.0%)、29歳以下(69.6%)となっている。

◇歩道を走行する自転車利用者について

問9あなたが歩道を歩いているとき、歩道を走行する自転車利用者についてどのように感じていますか。それぞれの項目について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

イ 自転車のスピードについて

歩道を走行する自転車のスピードは「もっと減速してほしい」が66.5%



【全 体】自転車のスピードについて「もっと減速してほしい」が66.5%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

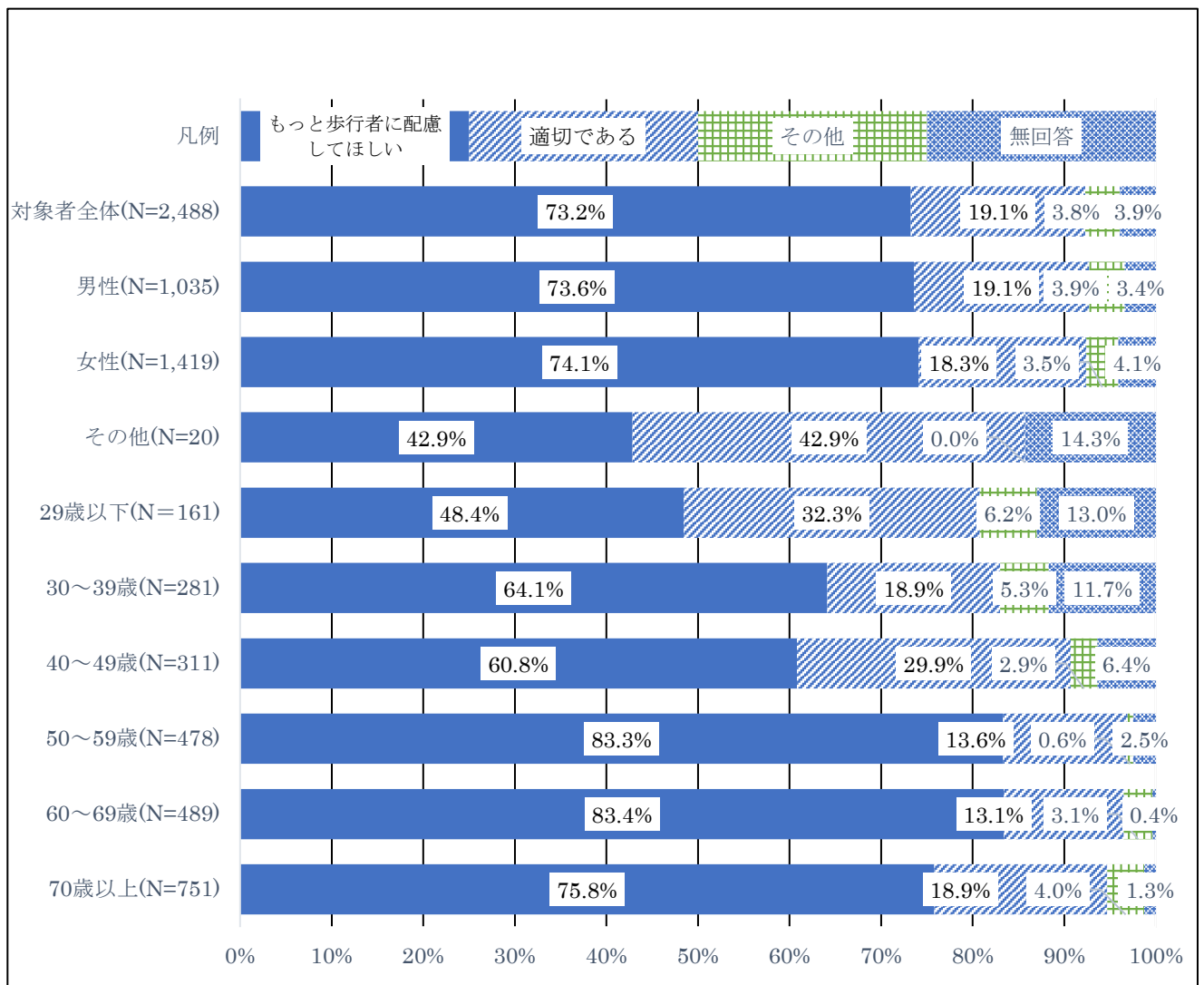
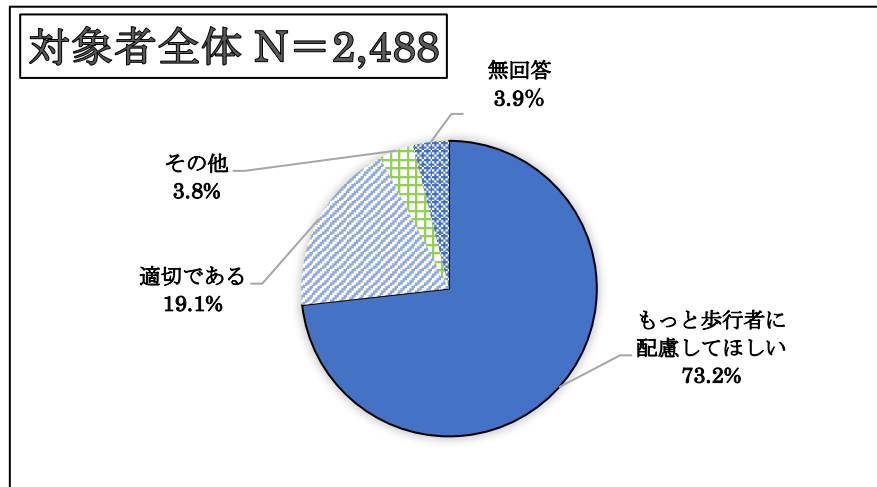
【年代別】「もっと減速してほしい」が50歳代(77.4%)で最も高く、最も低い70歳以上(57.3%)と比べると20.1ポイントの差となっている。

◇歩道を走行する自転車利用者について

問9あなたが歩道を歩いているとき、歩道を走行する自転車利用者についてどのように感じていますか。それぞれの項目について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ウ 歩行者への配慮について

歩行者への配慮については「もっと配慮してほしい」が73.2%



【全 体】歩道を走行する自転車利用者は「もっと歩行者に配慮してほしい」が73.2%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

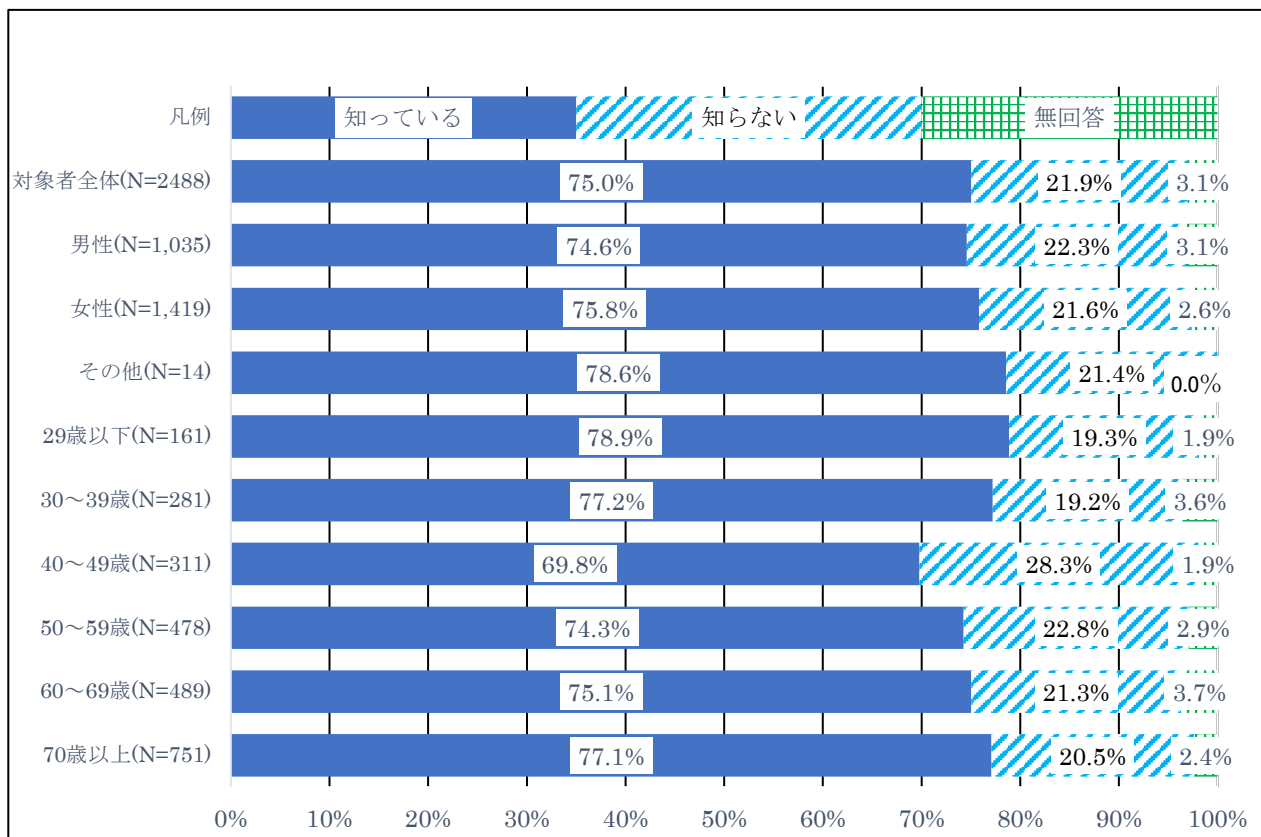
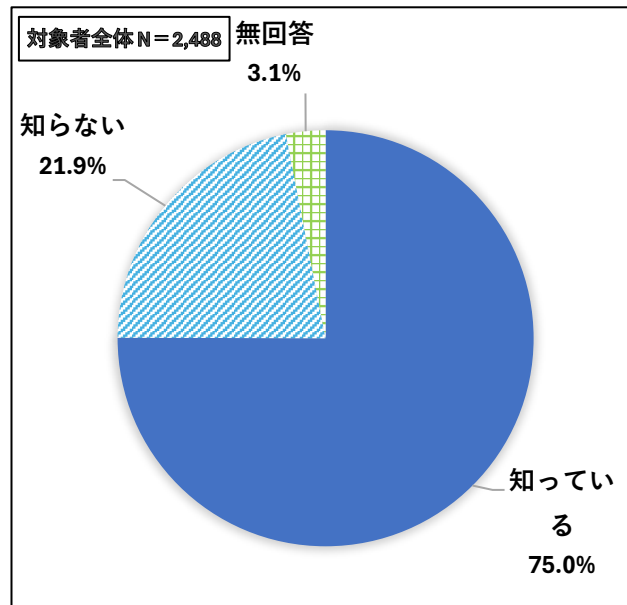
【年代別】「もっと歩行者に配慮してほしい」は60歳以上(83.4%)で最も高く、次いで50歳代(83.3%)、50歳以上(75.8%)となっている。

(2)雪対策の取り組みについて

◇新雪除雪の際、各世帯が雪の処理を行っていることの認知度

問10 あなたは、札幌市の新雪除雪により、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)を各世帯に行っていることを知っていますか。

新雪除雪の自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)を各世帯に行っていることを「知っている」人は75.0%。



【全 体】新雪除雪の自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)を各世帯に行っていることについて、「知っている」が75.0%、「知らない」が21.9%となっている。

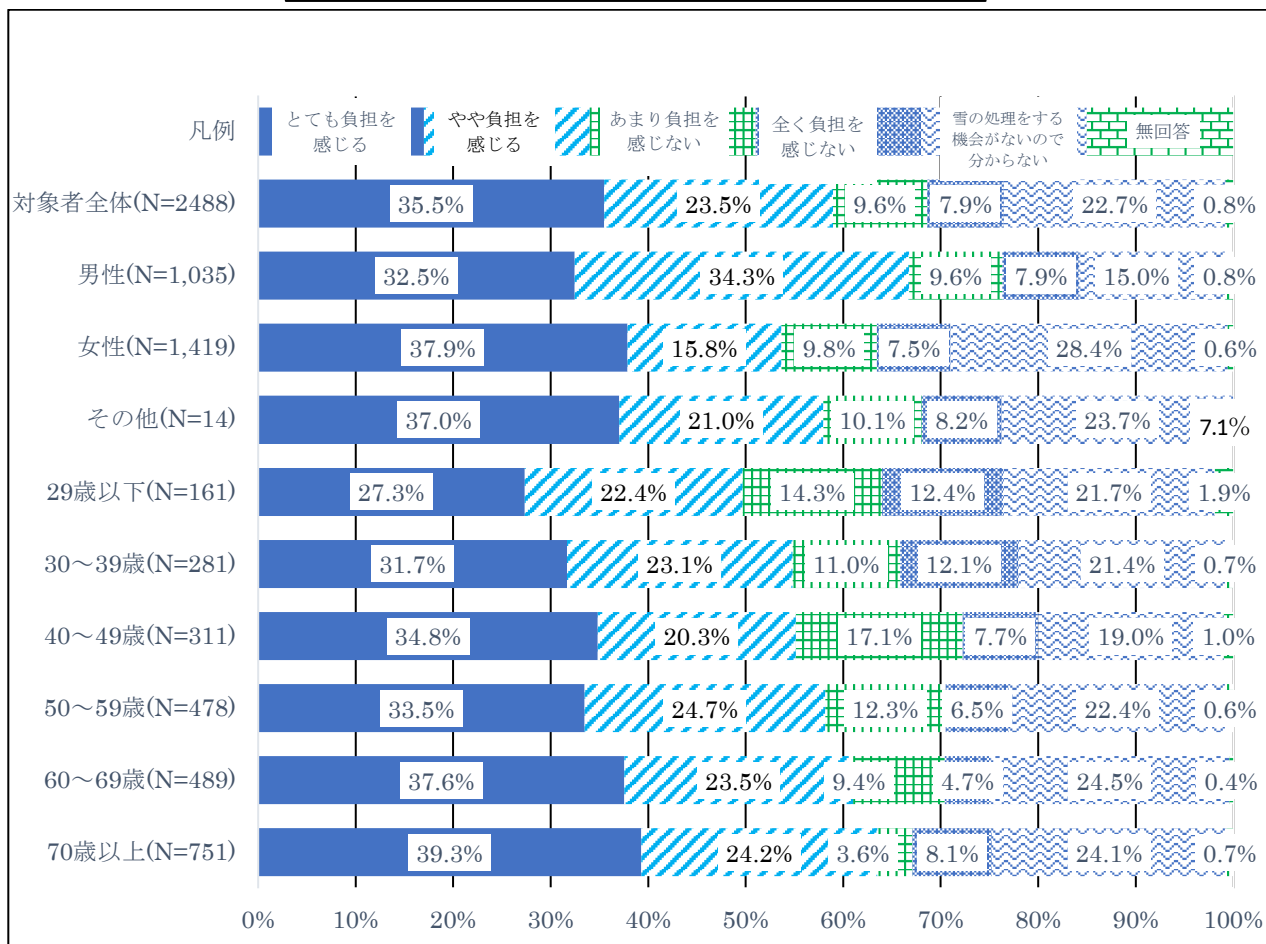
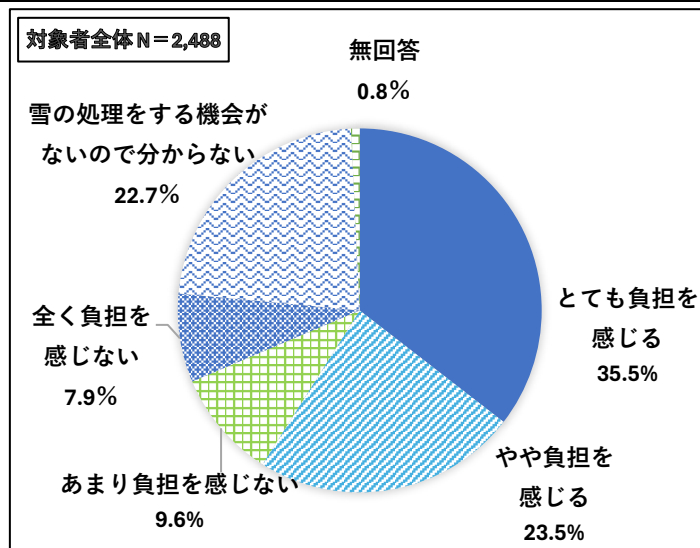
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知っている」は29歳以下(78.9%)で最も高く、次いで30歳代(77.2%)、70歳以上(77.1%)となっている。

◇新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理の負担感

問11 札幌市の新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)の負担感について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

札幌市の新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)の負担感については、「とても負担に感じる」人が35.5%



【全 体】札幌市の新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)の負担感については、「とても負担に感じる」が35.5%、「やや負担に感じる」が23.5%となっている。

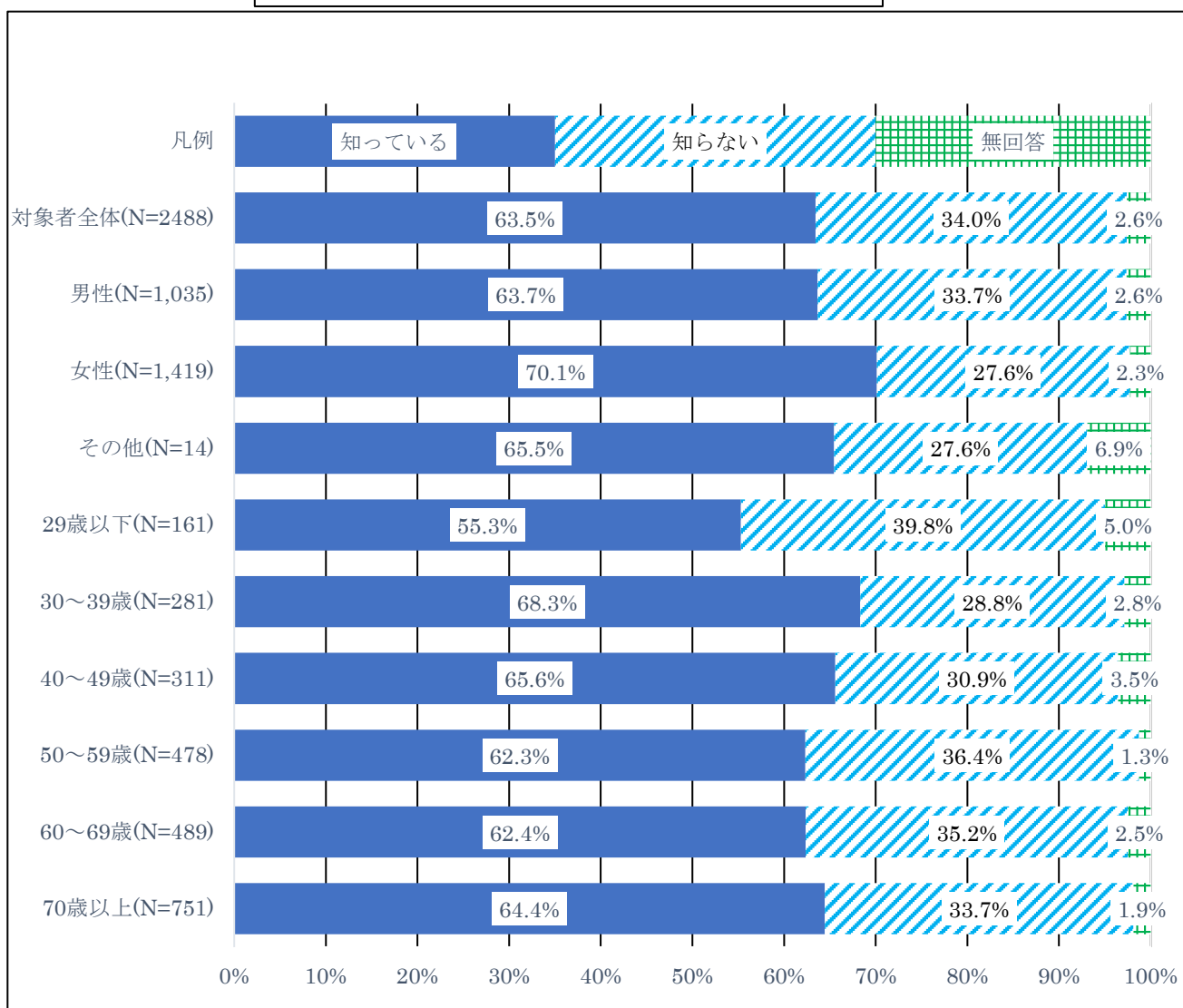
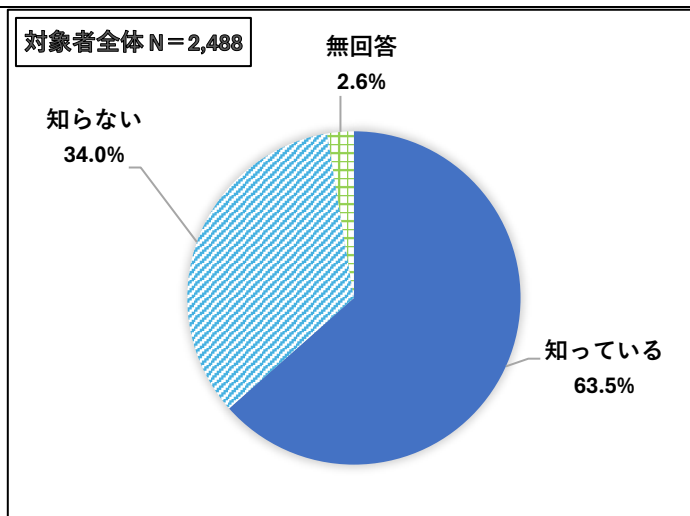
【性 別】「とても負担を感じる」が女性で37.9%と、男性の32.5%より5.4ポイント高くなっている。また「やや負担を感じる」は男性で34.3%と、女性の15.8%より18.5ポイント高くなっている。

【年代別】「とても負担に感じる」は70歳以上(39.3%)で最も高く、最も低い29歳以下(27.3%)と比べると12ポイントの差となっている。

◇「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度の認知度

問12 あなたは、地域等の団体が生活道路の排雪を希望する場合、「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度が利用できることを知っていますか。

排雪支援制度の認知度は、「知っている」が63.5%



【全 体】排雪支援制度の認知度は、「知っている」が63.5%、「知らない」が34.0%となっている。

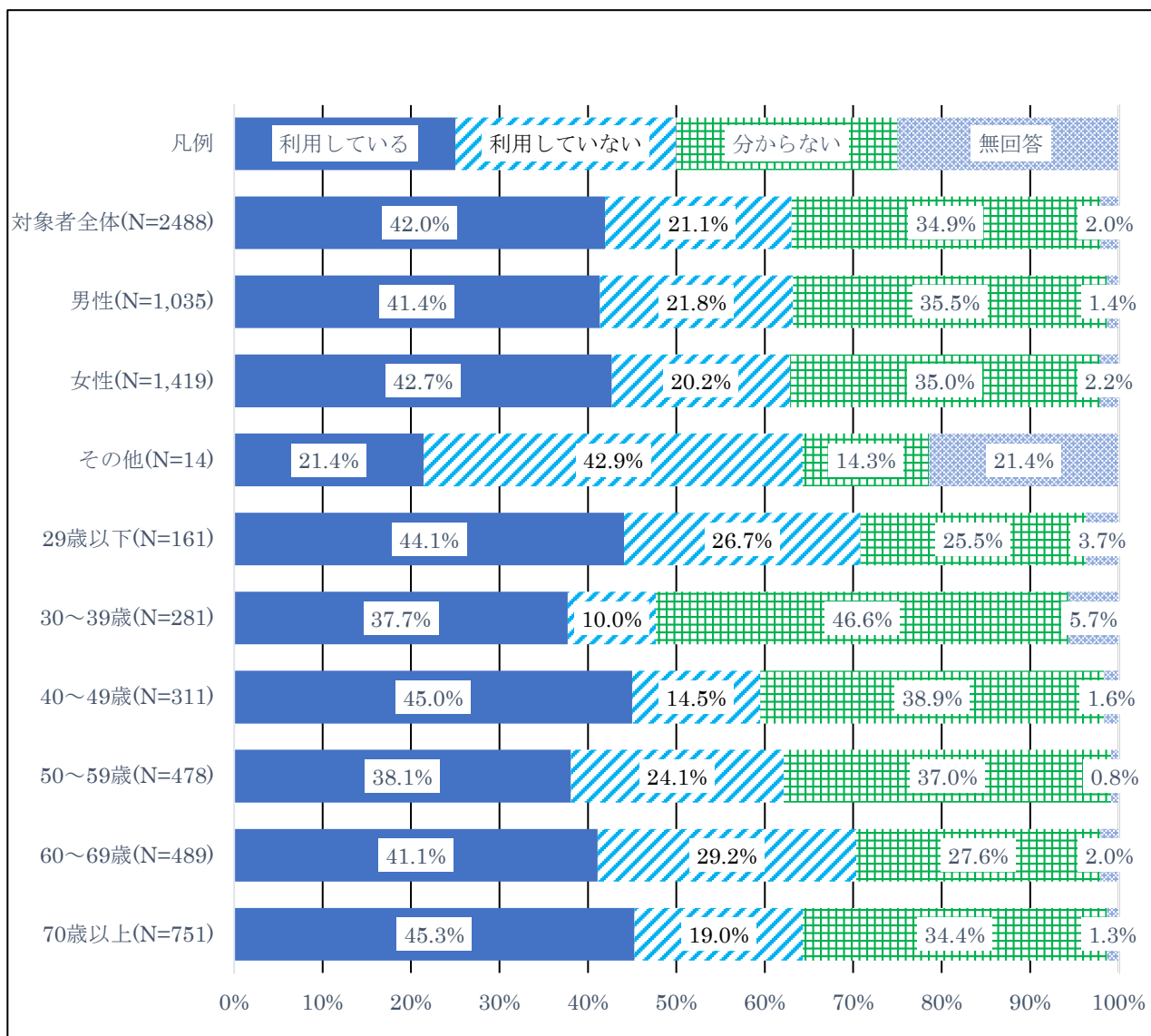
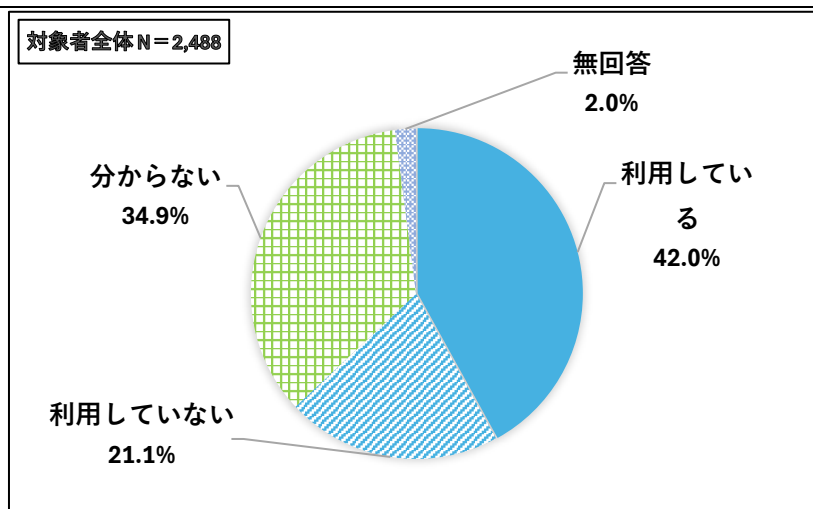
【性 別】「知っている」は女性で70.1%と、男性の63.7%より6.4ポイント高くなっている。

【年代別】「知っている」は30歳代(68.3%)で最も高く、最も低い29歳以下(55.3%)と比べると13ポイントの差となっている。

◇「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度を利用しているか

問13 あなたの地域等では、「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度を利用していますか。

排雪支援制度について、「利用している」人が42.0%



【全 体】排雪支援制度は、「利用している」が42.0%、「利用していない」が21.1%となっている。

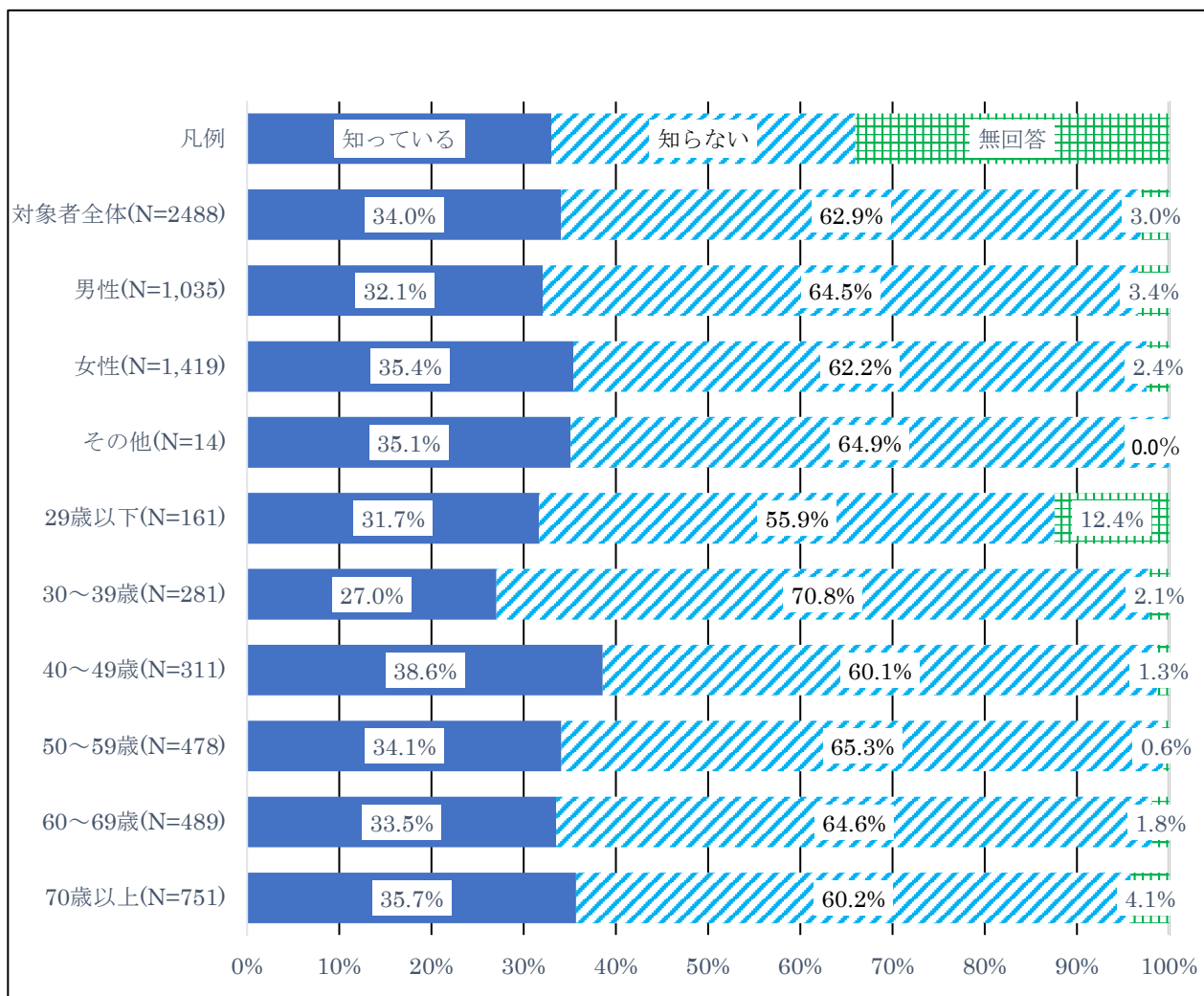
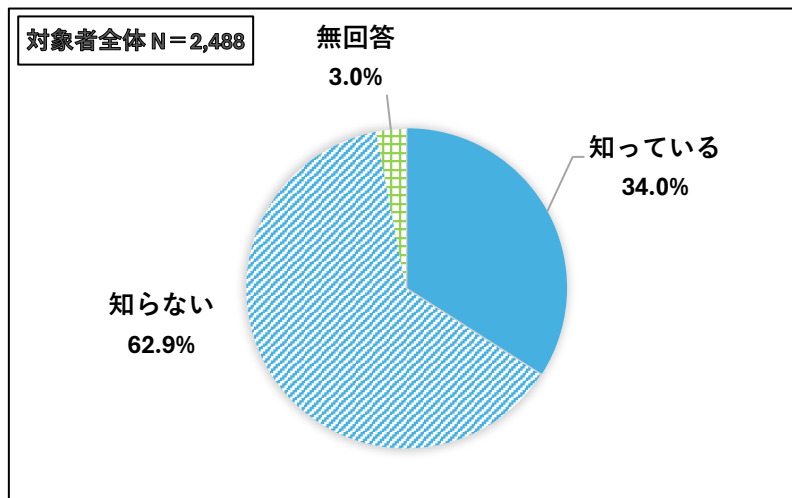
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「利用している」は70歳以上（45.3%）で最も高く、最も低い30歳代（37.7%）と比べると7.6ポイントの差となっている。

◇排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めていることの認知度

問14 あなたは、札幌市が現在、「パートナーシップ排雪」などの排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めていることを知っていますか。

排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めていることは、「知っている」人が34.0%



【全 体】排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めていることについて、「知っている」人が34.0%、「知らない」が62.9%となっている。

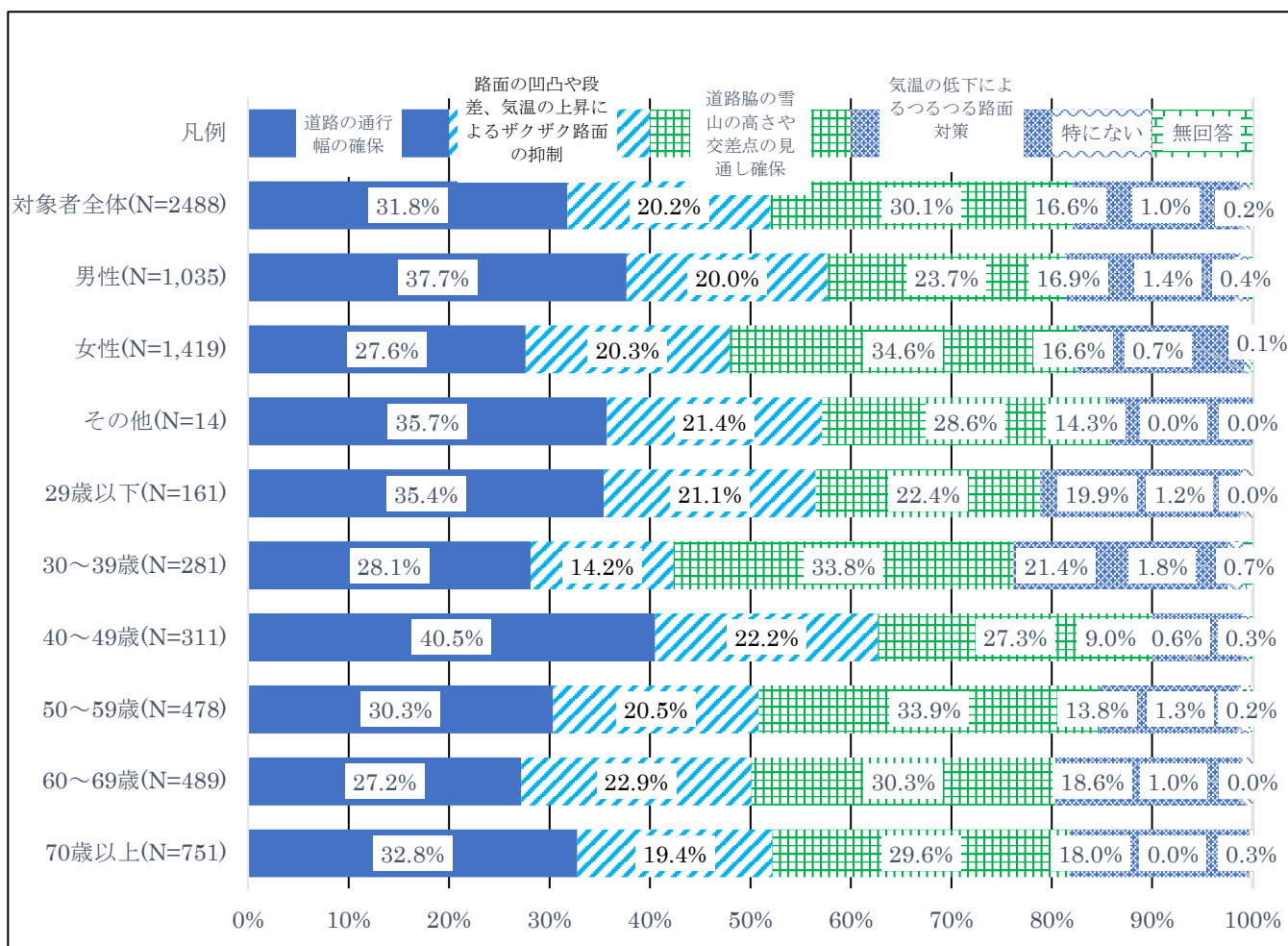
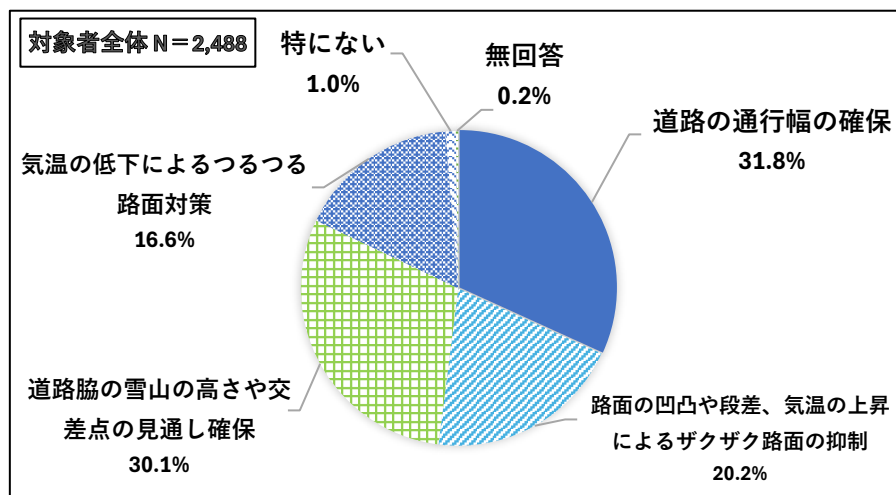
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「知っている」は40歳代(38.6%)で最も高く、次いで70歳以上(35.7%)、50歳代(34.1%)となっている。

◇冬期間の生活道路の状況で最も重視すべきだと思うもの

問15 冬期間の生活道路の状況について、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。
あてはまるものに1だけ○をつけてください。

冬期間の生活道路の状況の改善のために重視すべき点は、「道路の通行幅の確保」と回答した人が31.8%



【全 体】冬期間の生活道路の状況の改善のために重視すべき点は、「道路の通行幅の確保」が31.8%、「道路脇の雪山の高さや交差点の見通し」が30.1%、「路面の凹凸や段差、気温の上昇によるザクザク路面の抑制」が20.2%となっている。

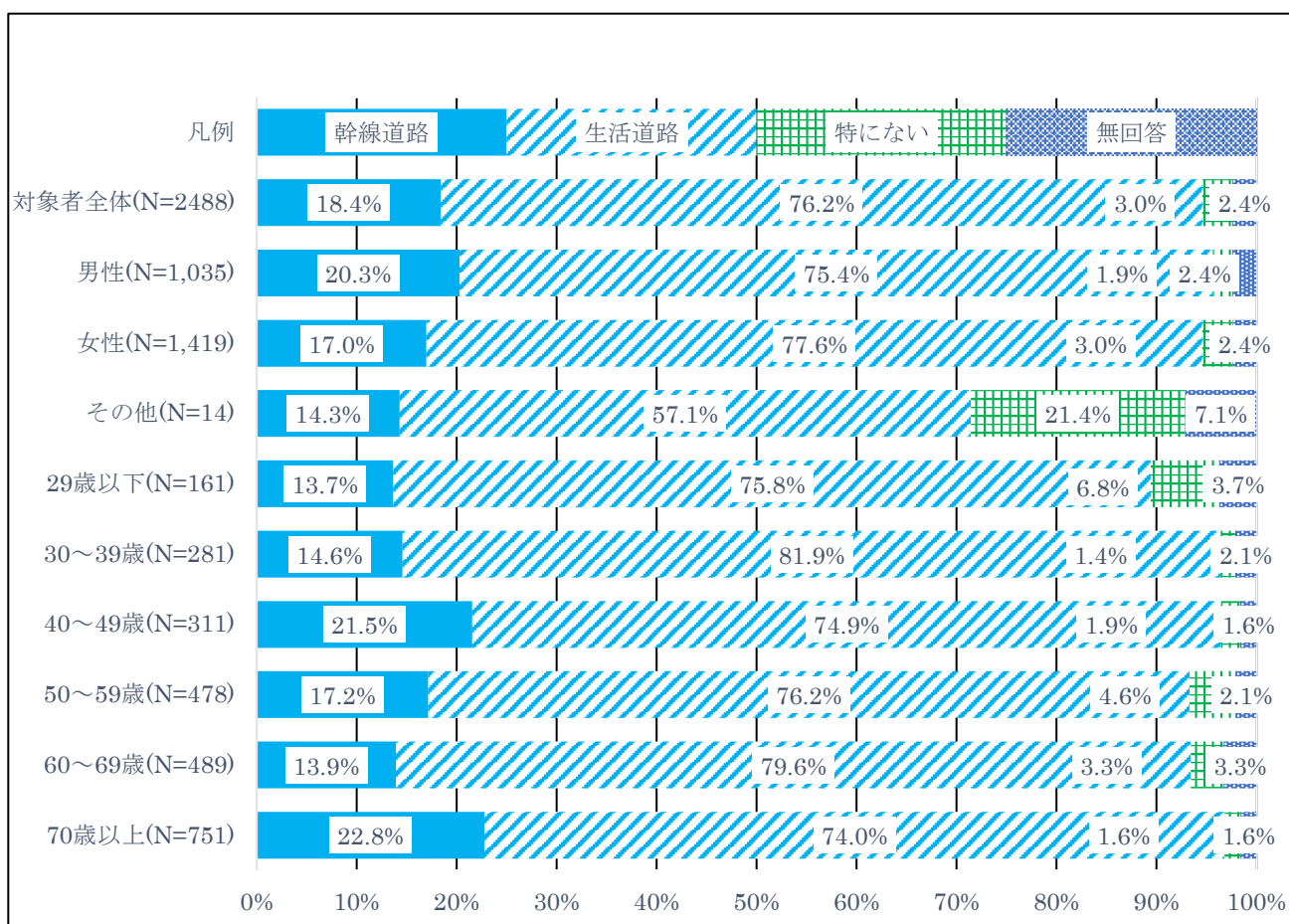
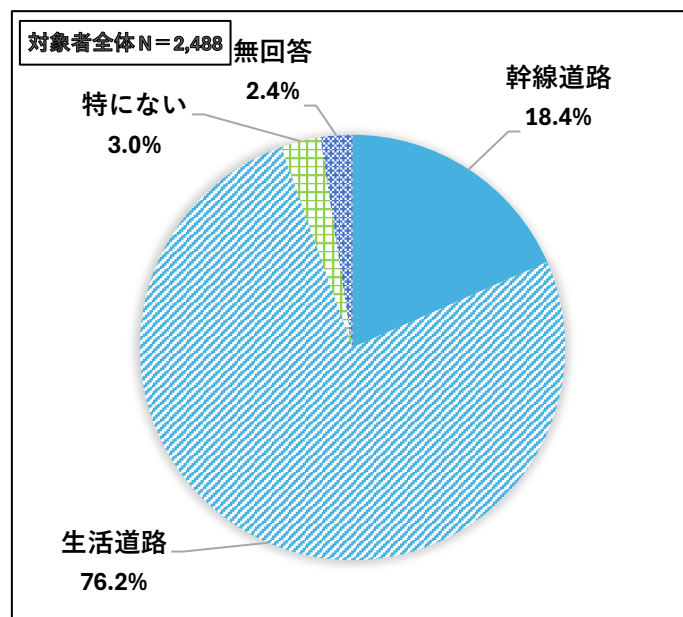
【性 別】「道路の通行幅の確保」は、男性が37.7%と、女性の27.6%より10.1ポイント高くなっている。また、「道路脇の雪山の高さや交差点の見通し確保」は女性が34.6%と、男性の23.7%より10.9ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下、40歳代、70歳以上では「道路の通行幅の確保」が最も高く、30歳代、50歳代、60歳代では「道路脇の雪山の高さや交差点の見通し確保」が最も高くなっている。

◇今後特に除排雪に力を入れてほしいと思う道路

問16 あなたが、今後特に除排雪に力を入れてほしいと思う道路はどこですか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

今後除排雪に力を入れて欲しい道路は、「生活道路」が76.2%



【全 体】 今後除排雪に力を入れてほしい道路は、「生活道路」が76.2%、「幹線道路」が18.4%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

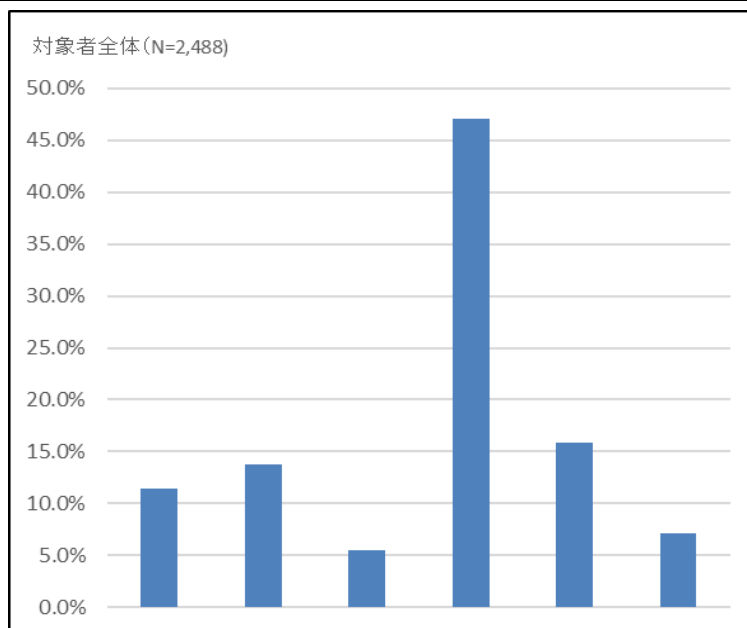
【年代別】 「生活道路」が30歳代(81.9%)で最も高く、次いで60歳代(79.6%)、29歳以下(75.8%)となっている。

◇大雪時や大雪が想定される時の行動

問17 あなたは、警報発表などの大雪時や大雪が想定されるときにどのような行動をとっていますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

大雪時や大雪が想定される時の行動は、「不要不急の車による外出を控えている」人が47.1%



		対象者数	通勤通学時に、移動手段を変更している	通勤通学時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている	時差出勤、在宅勤務、オンライン授業など、勤務形態や授業形態を変更している	不要不急の車による外出を控えている	特に普段と違う行動をとっていない	無回答
		(%)						
対象者全体		2,488	11.4%	13.8%	5.5%	47.1%	15.9%	7.1%
性別	男性	1,035	9.5%	11.2%	4.3%	43.1%	12.3%	6.9%
	女性	1,419	12.8%	15.9%	6.1%	51.0%	18.8%	7.3%
	その他	14	21.4%	7.1%	14.3%	7.1%	7.1%	7.1%
年代別	29歳以下	161	13.0%	13.0%	7.5%	34.8%	20.5%	15.5%
	30～39歳	281	12.8%	14.9%	5.0%	52.7%	18.1%	13.2%
	40～49歳	311	17.4%	20.3%	11.3%	73.6%	18.6%	13.2%
	50～59歳	478	8.6%	10.0%	5.6%	54.6%	8.6%	6.7%
	60～69歳	489	8.0%	10.2%	5.1%	23.9%	14.3%	4.5%
	70歳以上	751	12.3%	15.6%	2.8%	47.9%	19.0%	2.4%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】大雪時や大雪が想定される時の行動は、「不要普及の車による外出を控える」が 47.1%、「普段と違う行動を取っていない」が 15.9%、「通勤通学時に余裕を持った行動を取っている」が 13.8%となっている。

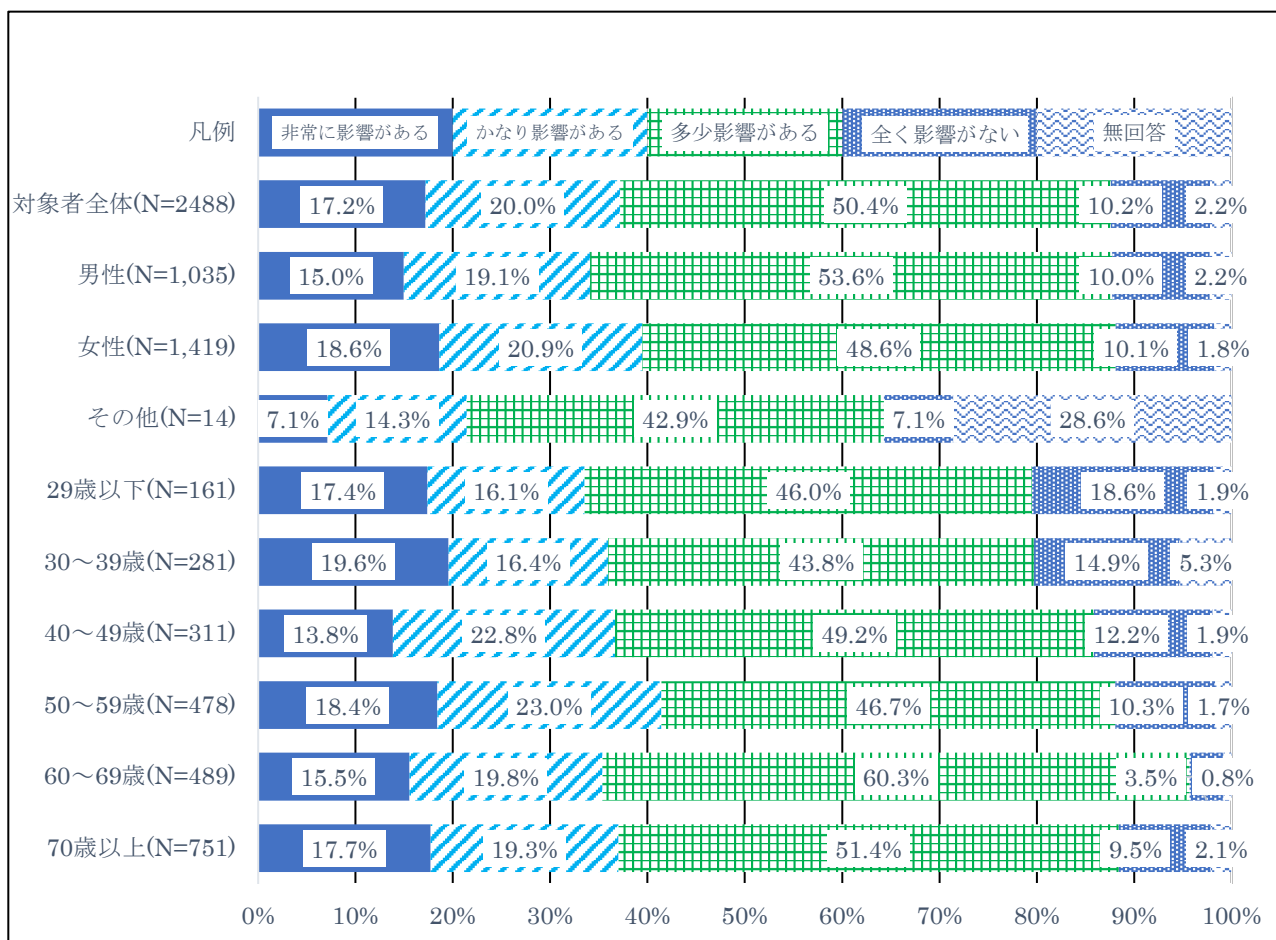
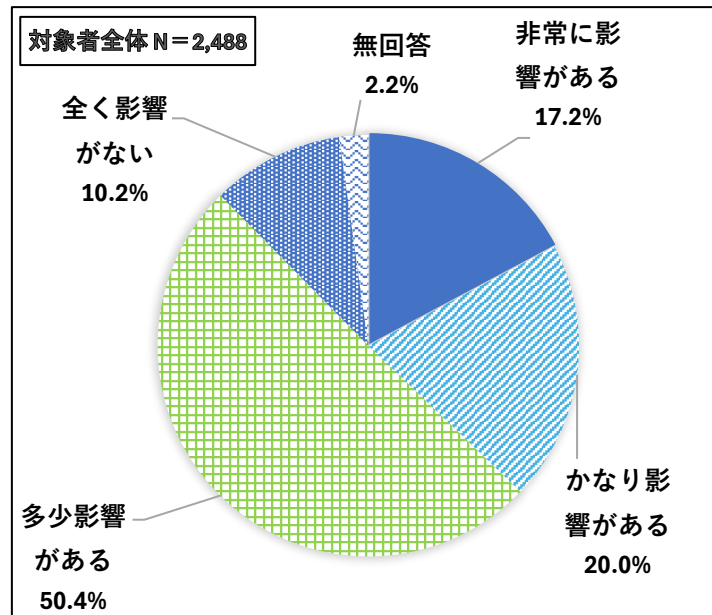
【性 別】「不要不急の車による外出を控えている」、「特に普段と違う行動はとっていない」は女性が男性より 6.5 ポイント以上高くなっている。

【年代別】「不要不急の車による外出を控えている」が 40 歳代 (73.6%) で最も高く、次いで 50 歳代 (54.6%)、30 歳代 (52.7%) となっている。

◇特異な気象による交通混雑や公共交通機関運休などによる影響

問18 近年、札幌市内では局地的な大雪や季節外れの急激な気温上昇など、特異な気象が見られます。これらの特異な気象は道路の交通混雑や公共交通機関の運休など、あなたにとってどの程度影響がありますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

特異な気象は道路の交通混雑や公共交通機関の運休の影響は「多少影響がある」人が50.4%



【全 体】特異な気象は道路の交通混雑や公共交通機関の運休の影響は「多少影響がある」が50.4%、「かなり影響がある」が20.0%、「非常に影響がある」人が17.2%となっている

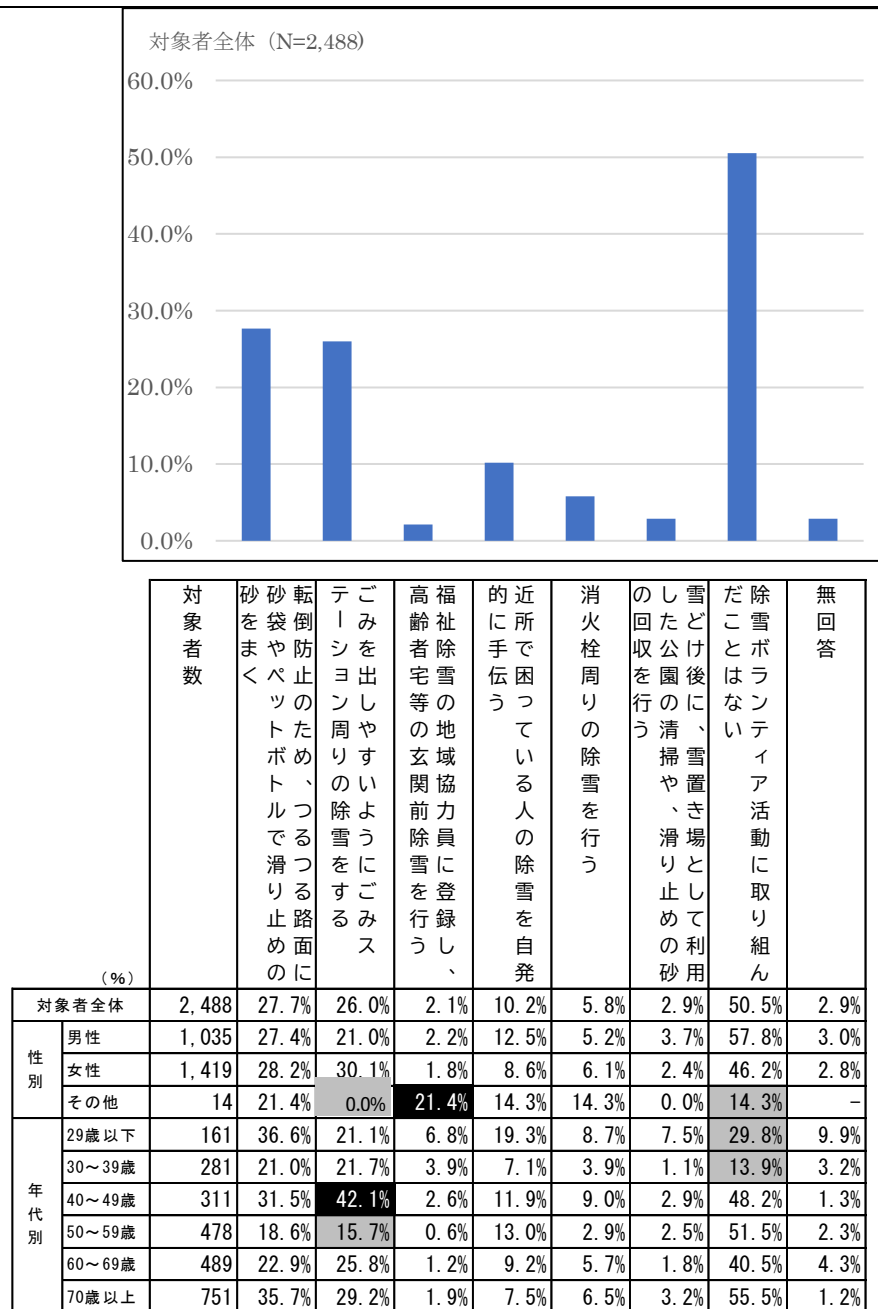
【性 別】「多少影響がある」は男性で53.6%と、女性の48.6%より5.0ポイント高くなっている。

【年代別】「多少影響がある」が60歳代(60.3%)で最も高く、次いで70歳以上(51.4%)、40歳代(49.2%)となっている。

◇これまでに取り組んだことがある除雪ボランティア活動

問19 札幌市では、市民の皆さまに「除雪ボランティア」への協力を呼び掛けています。以下のうち、あなたがこれまでに取り組んだことがある除雪ボランティア活動について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

取り組んだことのある除雪ボランティアは、「転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく」と回答した人が27.7%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】取り組んだことのある除雪ボランティアは、「転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく」が27.7%、「ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする」が26.0%、「近所で困っている人の除雪を自発的に手伝う」が10.2%となっている。

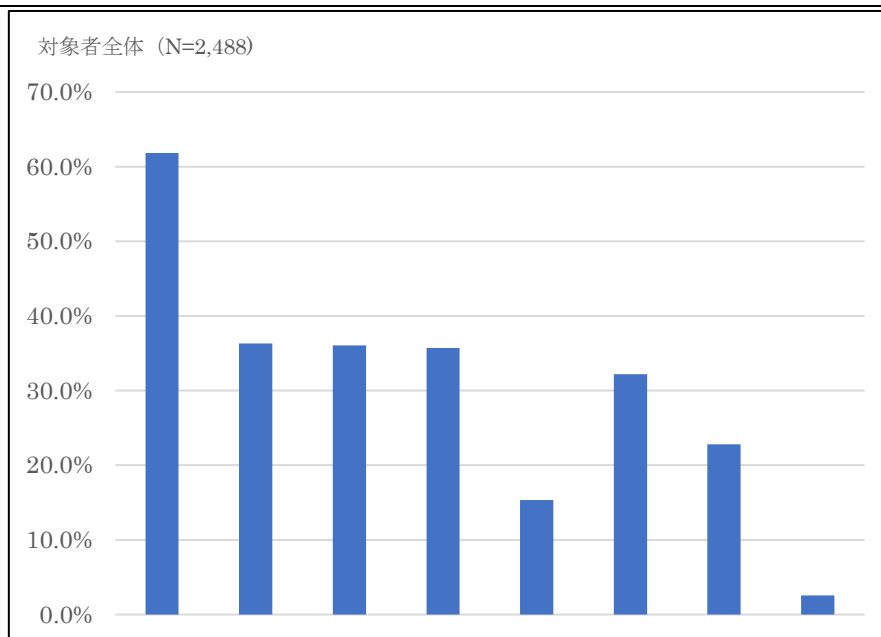
【性 別】「除雪ボランティア活動に取り組んだことは無い」は、男性が57.8%と、女性の46.2%より11.6ポイント高くなっている。また、「ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする」は女性が30.1%と、男性の21.0%より9.1ポイント高くなっている。

【年代別】「ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする」は40歳代（42.1%）で最も高く、最も低い50歳代（15.7%）と比べると26.4ポイントの差となっている。

◇各種除雪ボランティア活動を推進するため、どのような取組が重要になるか

問20 あなたは、札幌市が各種除雪ボランティア活動を推進するため、どのような取組が重要になると思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

除雪ボランティア推進の重要な取り組みについて、「町内会など地域への働きかけ」と回答した人が61.8%



		対象者数	町内会など地域への働きかけ	企業や団体などへの働きかけ	学生など若い世代への働きかけ	活動に使用する除雪用具（スコップ、スノーダンプ、小型除雪機など）の貸出	活動の情報発信や広報・啓発	報奨（感謝状、ギフトカードなど）の提供による動機付け	その他	無回答
(%)										
対象者全体		2,488	61.8%	36.3%	36.1%	35.7%	15.4%	32.2%	22.8%	2.6%
性別	男性	1,035	53.0%	33.8%	43.1%	30.5%	12.0%	32.6%	28.4%	2.5%
	女性	1,419	69.1%	38.7%	31.5%	40.0%	17.7%	32.6%	18.5%	2.7%
	その他	14	21.4%	28.6%	7.1%	35.7%	14.3%	0.0%	35.7%	0.0%
年代別	29歳以下	161	64.0%	37.9%	34.8%	34.2%	9.9%	9.3%	8.1%	9.9%
	30～39歳	281	48.4%	45.6%	41.6%	34.9%	8.5%	5.3%	8.5%	3.2%
	40～49歳	311	64.6%	59.5%	26.7%	44.1%	13.2%	11.9%	11.6%	1.9%
	50～59歳	478	29.1%	18.8%	34.5%	20.9%	13.6%	35.8%	26.6%	0.6%
	60～69歳	489	67.5%	25.8%	28.8%	18.2%	17.8%	31.9%	20.0%	0.2%
	70歳以上	751	81.5%	41.1%	44.2%	54.3%	19.8%	53.5%	35.3%	3.5%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】除雪ボランティア推進の重要な取り組みについて、61.8%が「町内会など地域への働きかけ」と回答。

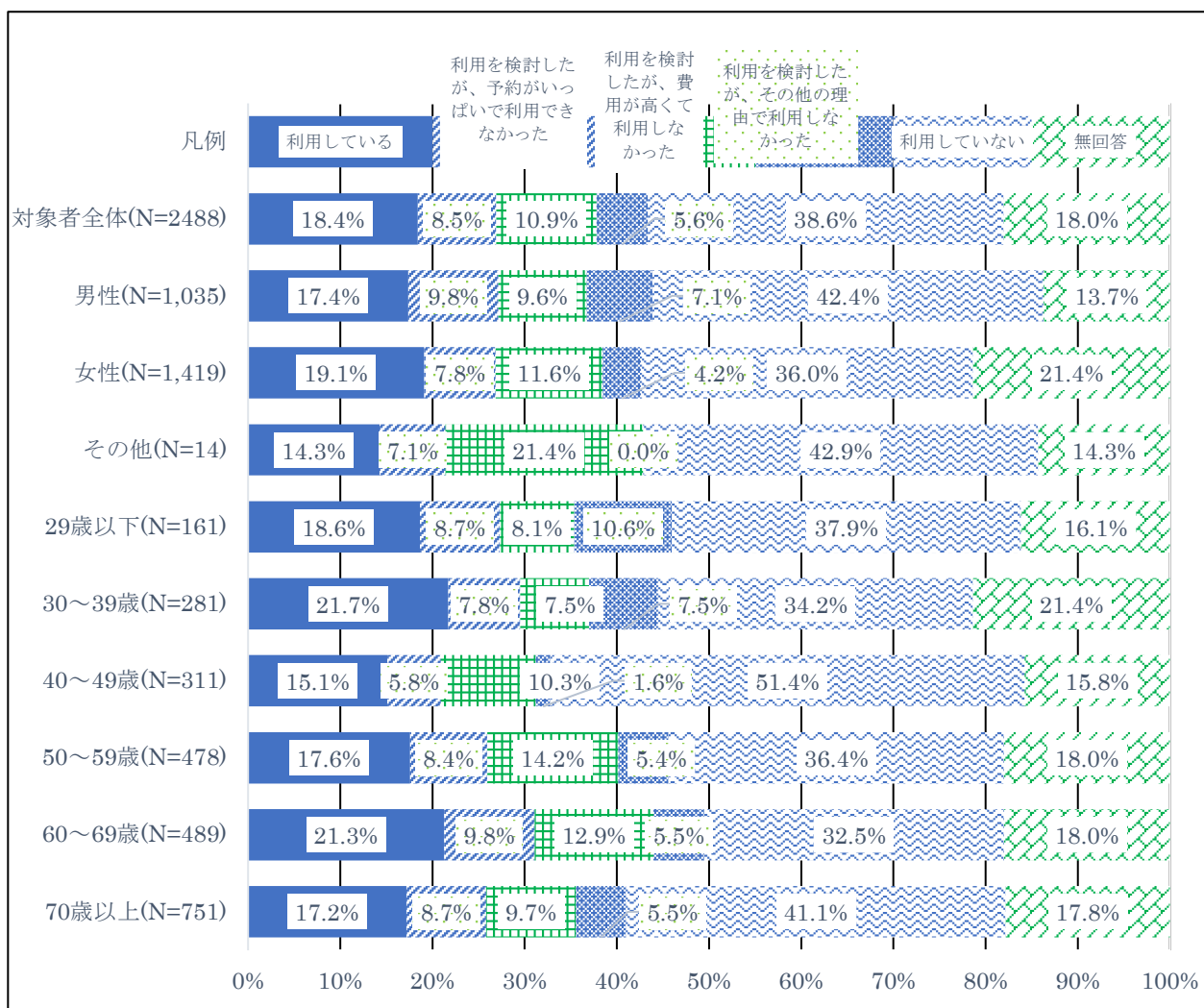
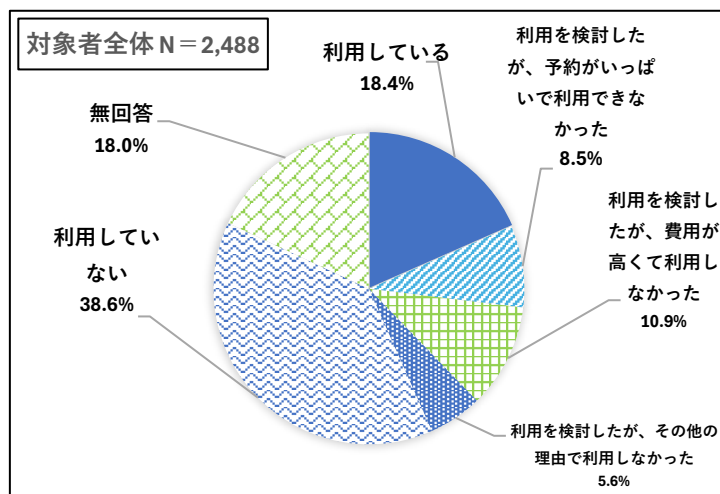
【性 別】「学生など若い世代への働きかけ」は男性が女性より 11.6 ポイント高く、「町内会など地域への働きかけ」「活動に使用する除雪用具の貸出」「活動の情報発信や広報・啓発」は女性が男性より 5.7 ポイント以上高くなっている。

【年代別】50 歳代(35.8%)では「報奨（感謝状、ギフトカードなど）の提供による動機付け」が最も高く、その他の年代では「町内会など地域への働きかけ」が最も高くなっている。

◇民間企業などの有料除排雪サービスを利用の有無

問21 あなたは、昨年度の冬に自宅前の雪を処理するため、民間企業などによる有料除排雪サービス(福祉除雪を除く)を利用しましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

民間企業などによる有料除排雪サービスは「利用している」人が18.4%



【全 体】民間企業などによる有料除排雪サービスについて、「利用している」が18.4%、「利用していない」が38.6%、「利用を検討したが、費用が高くて利用しなかった」が10.9%となっている。

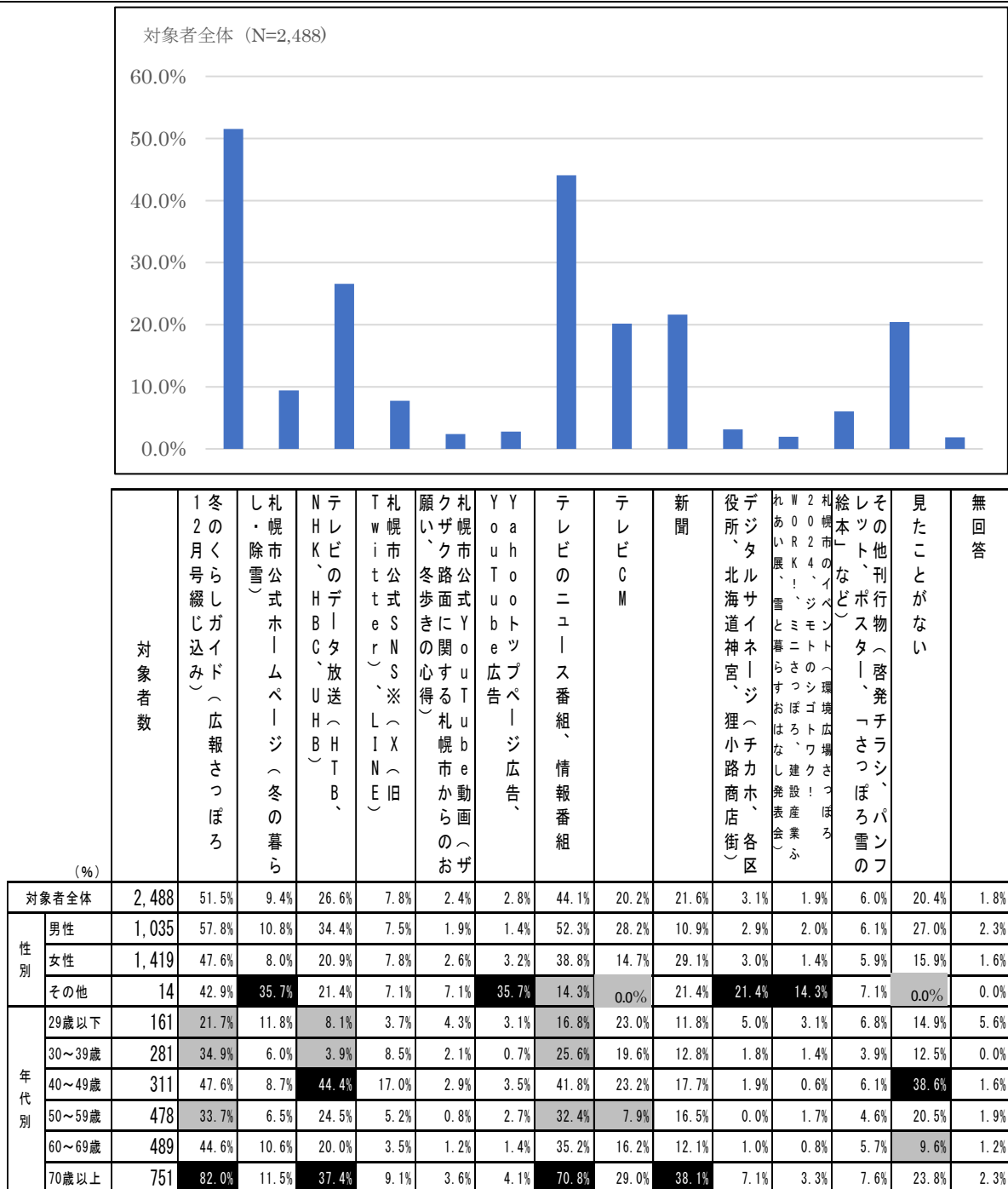
【性 別】「利用していない」が男性で42.4%と、女性の36.0%より6.4ポイント高くなっている。

【年代別】「利用している」が30歳代(21.7%)で最も高く、次いで60歳代(21.3%)、29歳以下(18.6%)となっている。

◇冬の暮らしに関する情報で見たことがあるものについて

問22 昨年度、冬の暮らしに関する情報(札幌市の除雪に関する情報や冬のルール、除雪の出動情報など)を以下のように発信しました。あなたが、見たことがあるものにいくつでも○を付けてください。

見たことがある冬の暮らしに関する情報は「冬のくらしガイド」が51.5%で最多



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】見たことがある冬の暮らしに関する情報は「冬のくらしガイド」が51.5%で最多。次いで「テレビのニュース番組・情報番組」が44.1%であった。

【性 別】「冬の暮らしガイド」「テレビのデータ放送」「テレビのニュース番組・情報番組」を見た男性は女性よりも10.2ポイント以上高くなっている。

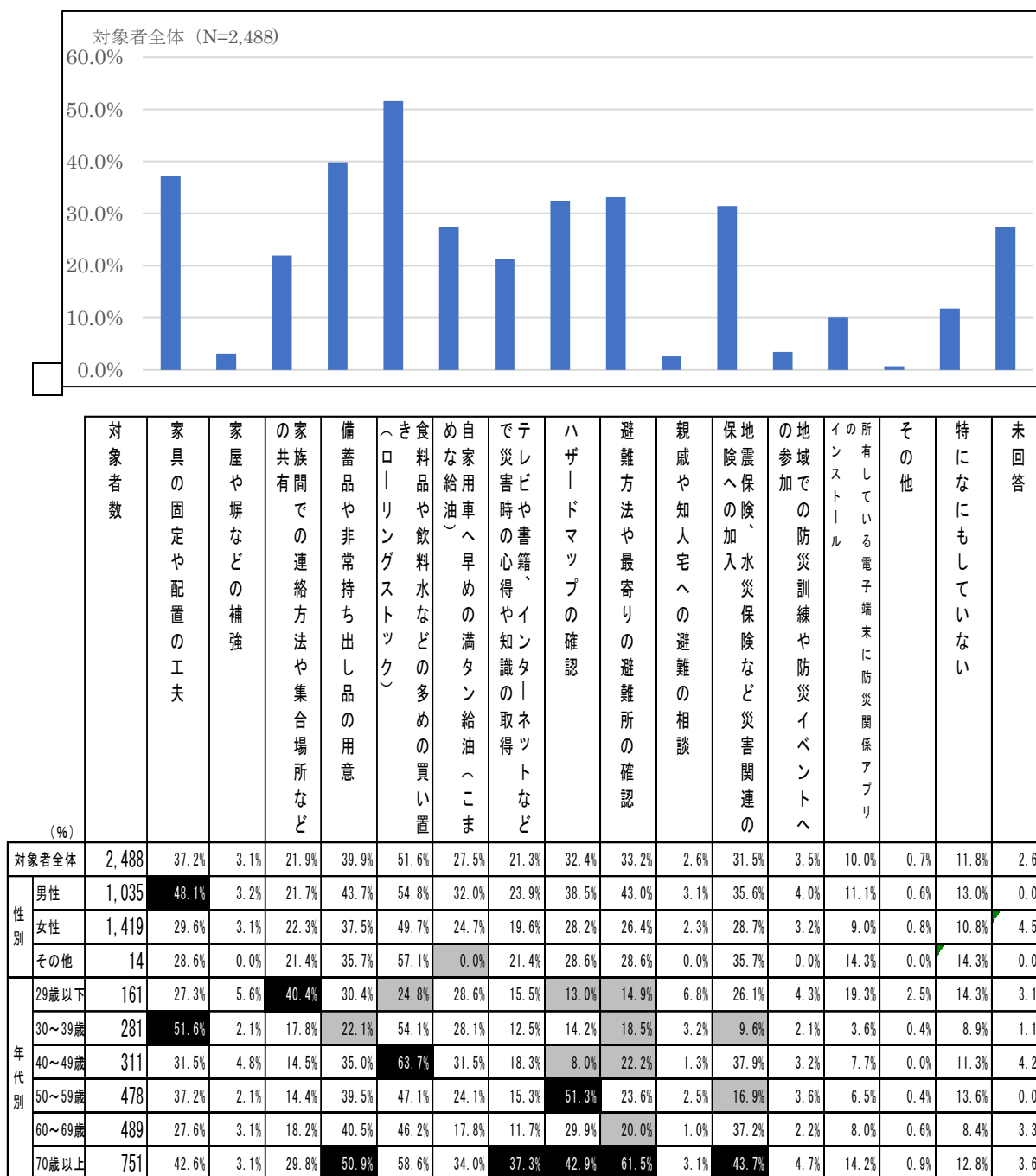
【年代別】29歳以下(23.0%)では「テレビCM」が最も高く、そのほかの年代では「冬のくらしガイド」が70歳以上(82.0%)、40歳代(47.6%)、60歳代(44.6%)の順に高くなっている。

(3)災害への備えや厳冬期の考え方、防災啓発について

◇災害対策として行っていること

問23 あなたの家庭では、地震や風水害などの災害に備えてどのような対策をしていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

災害の備えで最多は食料品や飲料水を多めに買い置きが51.6%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】災害の備えで最多は「食料品や飲料水を多めに買い置き（ローリングストック）」が51.6%、次いで備蓄品や非常持ち出し品の用意が39.9%、「家具の固定や配置の工夫」が37.2%となっている。

【性 別】「家具の固定や配置の工夫」「避難方法や最寄りの避難場所の確認」「ハザードマップの確認」は、男性が女性より10.3ポイント以上高くなっている。

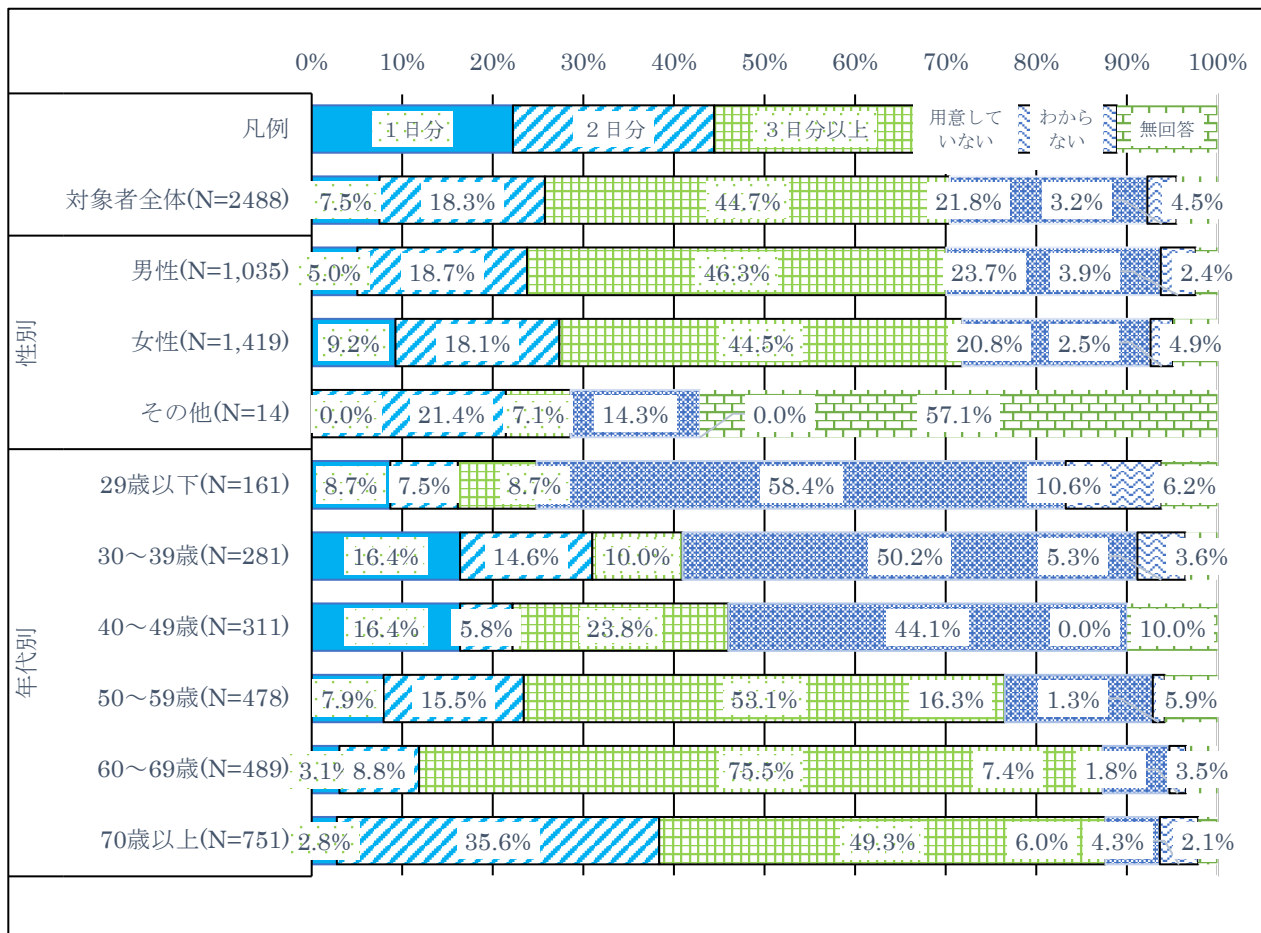
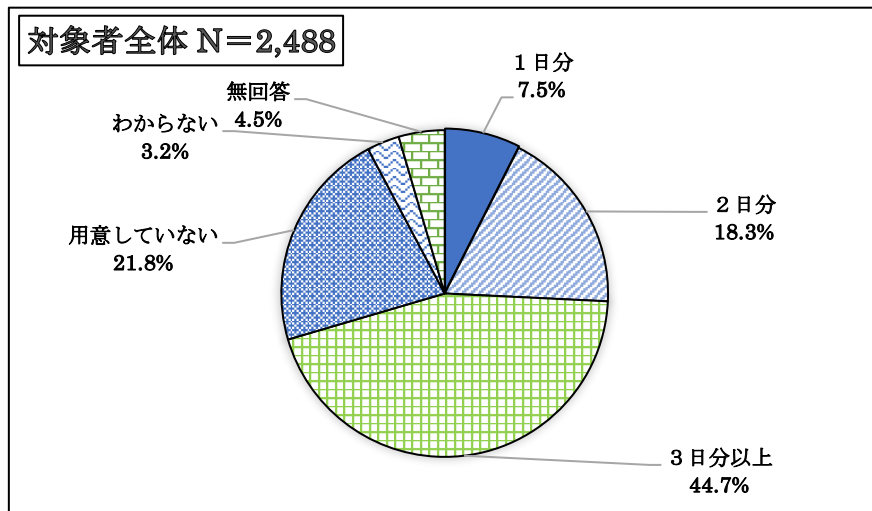
【年代別】29歳以下(40.4%)では「家族間での連絡方法や集合場所などの共有」が最も高く、30歳代、40歳代、60歳代では「食料品や飲料水を多めに買い置き」、50歳代(51.3%)では「ハザードマップの確認」、70歳以上(61.5%)では「避難方法や最寄りの避難場所の確認」が最も高くなっている。

◇災害に備えて用意している備蓄品

問24 あなたは、災害に備えて具体的にどのような備蓄品を何日分用意していますか。それぞれの項目(ア～ウ)について、あてはまるものに1つつづいて○をつけてください。

ア 飲料水

飲料水を何日分用意しているかは、「3日分以上」と回答した人が44.7%



【全 体】飲料水を何日分用意しているかは、「3日分以上」が44.7%、「2日分」が18.3%、「1日分」が7.5%、合わせると70.5%となっている。一方で、「用意していない」が21.8%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

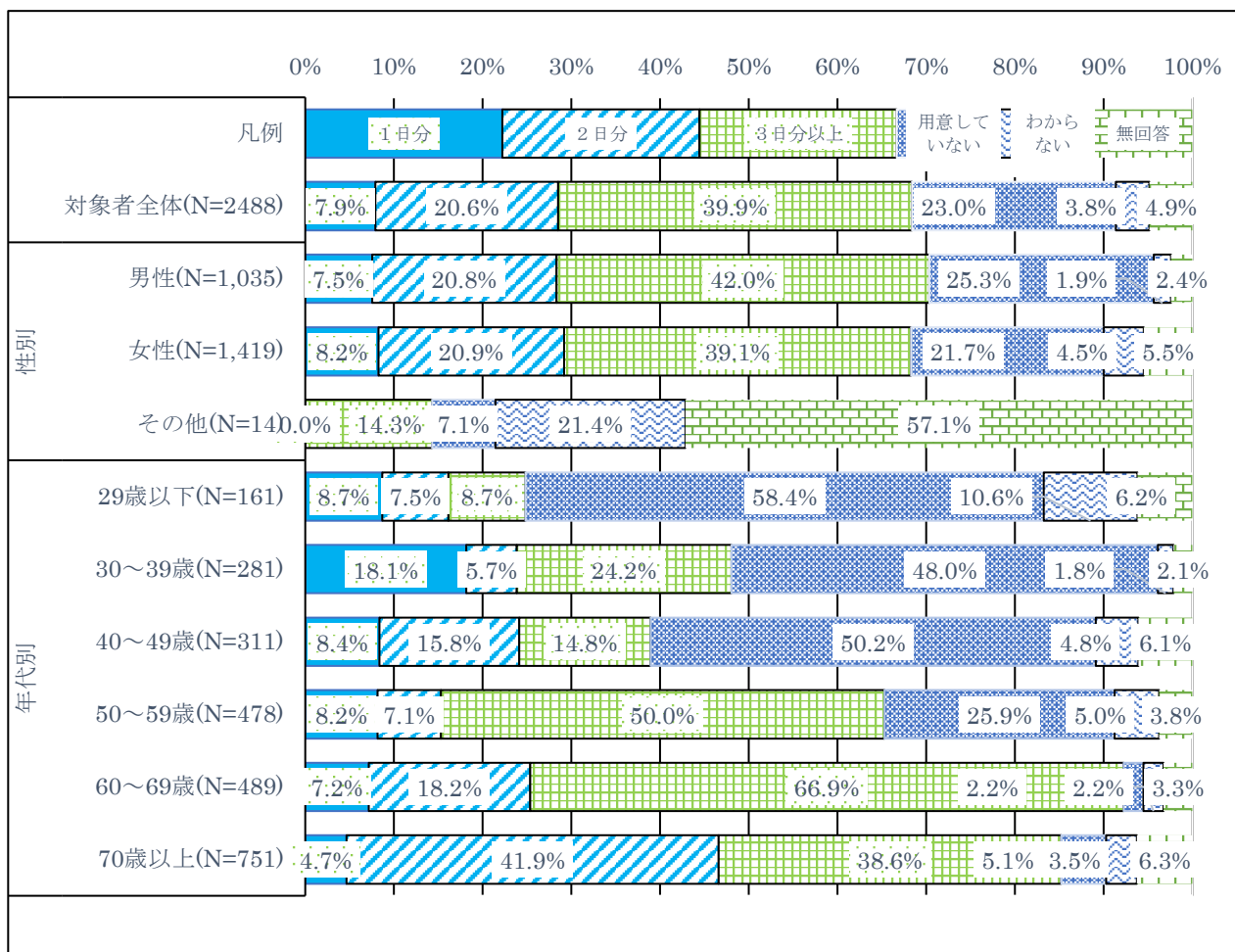
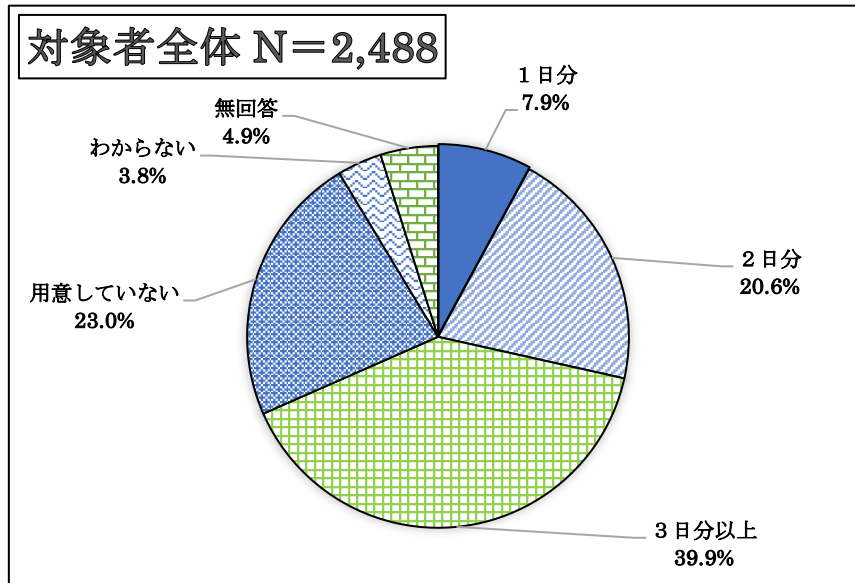
【年代別】「3日分以上」は、60歳代(75.5%)で最も高く、次いで50歳代(53.1%)、70歳以上(49.3%)となっている。

◇災害に備えて用意している備蓄品

問24 あなたは、災害に備えて具体的にどのような備蓄品を何日分用意していますか。それぞれの項目(ア～ウ)について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

イ 食料

食料何日分用意しているかは、「3日分以上」と回答した人が39.9%



【全 体】食料を何日分用意しているかは、「3日分以上」が39.9%、「2日分」が20.6%、「1日分」が7.9%、合わせると68.4%となっている。一方で、「用意していない」が23.0%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

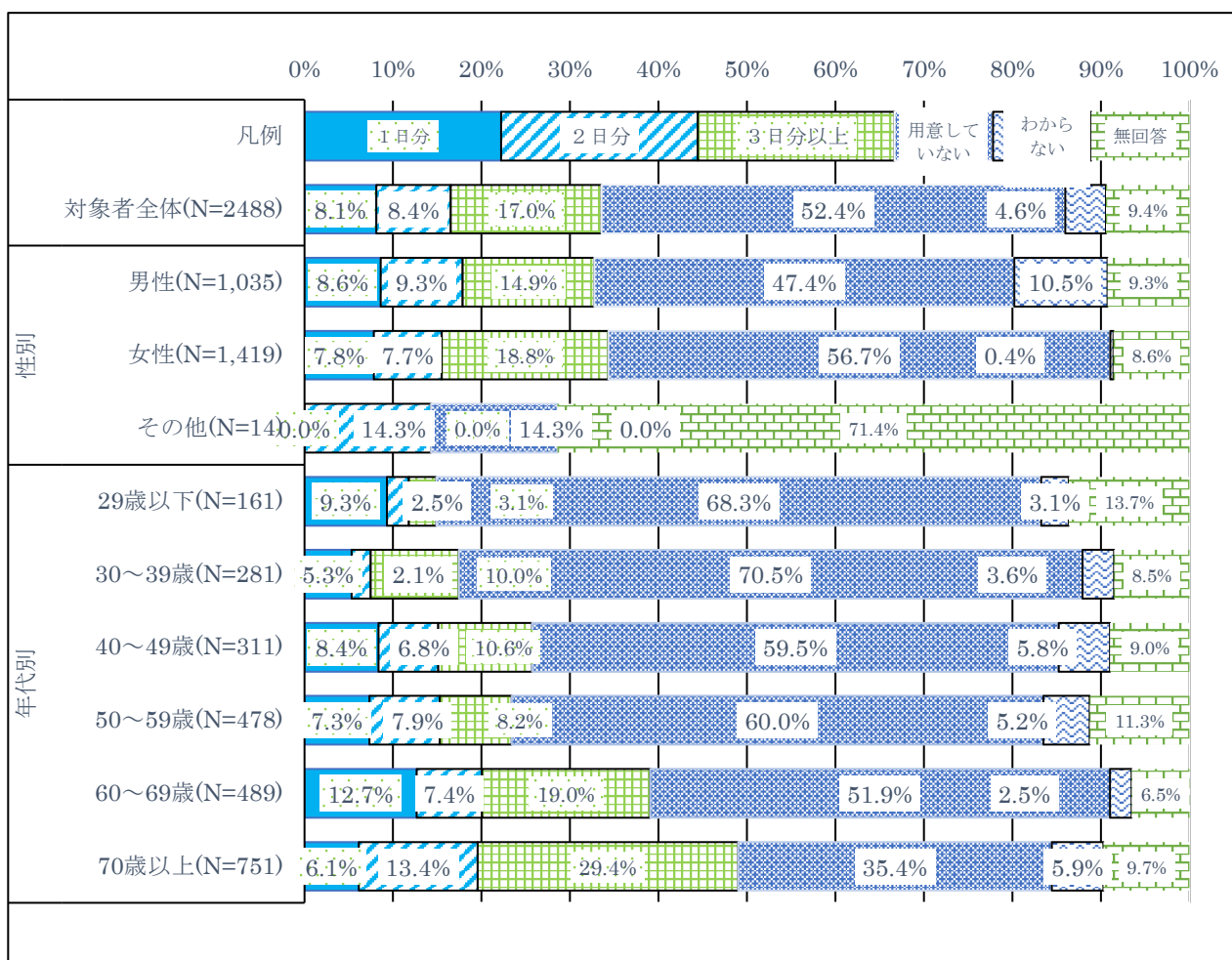
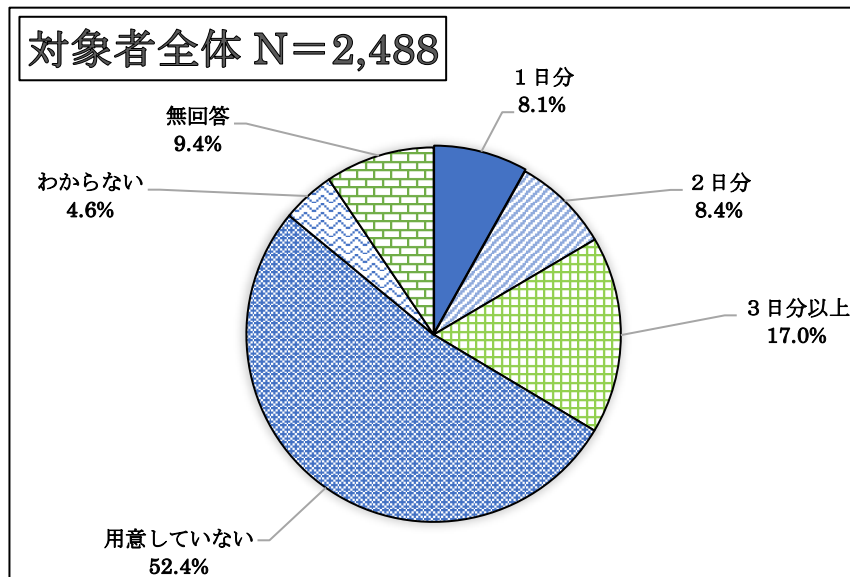
【年代別】「3日分以上」は、60歳代(66.9%)で最も高く、次いで50歳代(50.0%)、70歳以上(38.6%)となっている。

◇災害に備えて用意している備蓄品

問24 あなたは、災害に備えて具体的にどのような備蓄品を何日分用意していますか。それぞれの項目（ア～ウ）について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

ウ 携帯トイレ

携帯トイレを「用意している」と回答した人が17.0%



【全 体】携帯トイレを何日分用意しているかは、「3日分以上」が17.0%、「2日分」が8.4%、「1日分」が8.1%、合わせると33.5%となっている。一方で、「用意していない」が52.4%となっている。

【性 別】「用意していない」は、女性の47.4%に対し、男性が52.4%と5.0ポイント高くなっている。

【年代別】「3日分以上」は、70歳以上（29.4%）で最も高く、次いで60歳代（19.0%）、40歳以上（10.6%）となっている。

◇問 24 のア～ウ以外に災害に備えているものがあれば、具体的にどのような備蓄品を何日分用意しているか

問24-1 **問24**のア～ウ以外に災害に備えているものがあれば、具体的にどのような備蓄品を何日分用意しているかご自由にお書きください。

この設問には614人の方が回答を記載しました。主な意見は次の通りです。

・災害時の鬱と感染症の防止の為、甘酒や乳酸菌飲料などを用意。

災害時の鬱、PTSDになると乳酸菌・ビフィズス菌が減るから(男性 60歳代)

・アルミシート(保湿)4人分、電池(懐中電灯分)、懐中電灯、ナプキン(4日分)(女性 30歳代)

・灯油(停電対策)、簡易ストーブ(電気不要なタイプ)、寝袋・メガネなどなど(女性 40歳代)

・衣料品を個別に袋に入れて保管(女性 70歳以上)

・紙コップ・紙皿・スプーン・箸(5日分)、ガーゼ・サビオ・風邪薬・マスク(5日分)

はさみ、軍手、乾電池、ラップ、新聞紙、消毒液、体温計、洗面器、小銭、ろうそく、ランタン、ラジオ、ビニールシート、箱ティッシュ、タオル、防寒服、着替え、靴、ビニールひも、濡れティッシュ(男性70歳以上)

・懐中電灯(人数分)、モバイルバッテリー(男性 20歳代)

・カセットコンロ、カセットガスストーブの購入、非常時の着替えなどをいれた防災バックの準備(ウェットティッシュやトイレトペーパー含む)(女性 50歳代)

・ヘルメット、懐中電灯、長靴、毛布、カッパ、手袋、タオル、マスク、割り箸、使い捨てコップ、皿、茶碗、ろうそく、マッチ、LED ランタン、携帯コンロ(男性 50歳代)

・子どもが小さいのでオムツは多めにストック、携帯トイレはないがトイレトペーパー也多めに。

子どもが未就学児のため、お菓子もストックあり。生理用品也多めにストック。

ガスコンロとガスボンベ 日数は決めた量ではないが、常に2パック以上はストックがあるようにしてある。(女性 30歳代)

・紙皿、紙コップ、2週間分、乾電池、ごみ袋一か月分、トイレトペーパー、ティッシュペーパー1か月分、アルコール消毒液、ウェットティッシュ一か月分、ナプキン一か月分、携帯カイロ 2週間分、災害用のためペットボトルに2ℓで10本保管、タオル5枚、下着類3日分、軍手3枚(女性 70歳以上)

・水 二人家族で2日分、冷凍食品、非常食、カン入りパン2日分ぐらい

まだまだ不足だとは思いますが、けっこう高額なので何度かに分けているが高い(女性 70歳以上)

・キャンプ用のガスコンロとカセットガス、米を多めにローリングストックする、使い捨て用の下着(5着分ずつ)、生理用品、ラップ、ごみ袋、新聞紙、オール電化なので冬はポータブルの灯油ストーブと灯油30ℓ以上(足りないと思っている)(女性 50歳代)

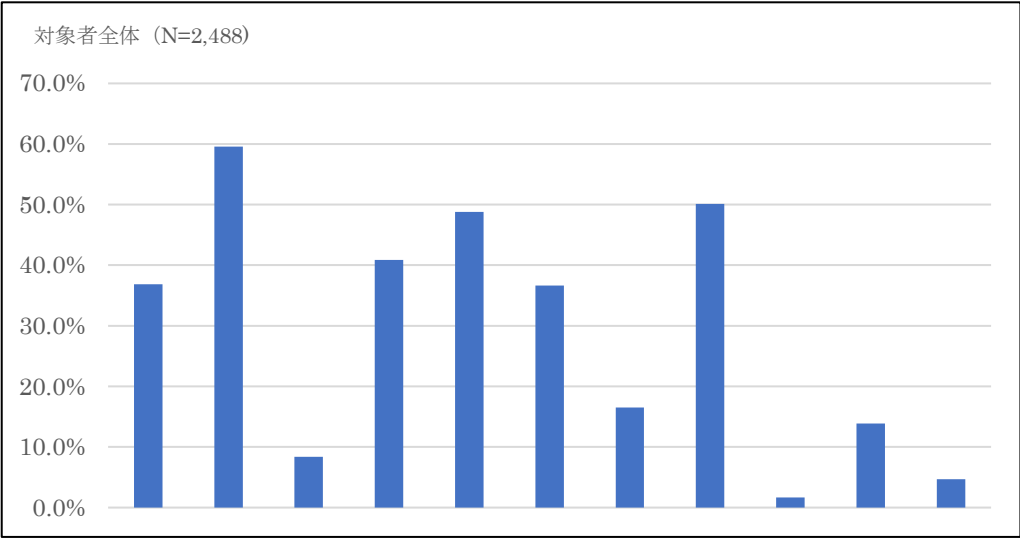
・以前、災害用の食品など備えていたが使用期限がすぎて、すててしまった。

現在は、少し多めに食料品など買い置きするようにしている(女性 60歳代)

◇厳冬期における災害用備蓄品の用意について

問25 あなたは、厳冬期での災害発生に備えてどのような備蓄品を用意していますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

厳冬期における災害用備蓄品の用意については、「カセットコンロ」と回答した人が59.6%



		対象者数	電源不要のポータブルストーブ	カセットコンロ	非常用発電機	暖かいインナーウェア（靴下、保温肌着など）	防寒着	寝袋や毛布	防寒シートや段ボール	使い捨てカイロ	その他	特に何も備えていない	無回答
		(%)											
対象者全体		2,488	36.9%	59.6%	8.4%	40.9%	48.8%	36.7%	16.5%	50.1%	1.7%	13.9%	4.7%
性別	男性	1,035	35.4%	64.4%	9.5%	46.6%	55.2%	44.6%	20.6%	56.1%	1.9%	11.0%	4.3%
	女性	1,419	38.5%	57.1%	7.7%	37.2%	45.0%	31.5%	14.0%	46.6%	1.6%	16.0%	4.9%
	その他	14	14.3%	21.4%	0.0%	21.4%	21.4%	14.3%	-	21.4%	0.0%	14.3%	7.1%
年代別	29歳以下	161	62.1%	72.0%	9.3%	47.2%	37.3%	47.8%	41.0%	41.6%	3.7%	23.6%	11.8%
	30～39歳	281	31.7%	45.6%	5.3%	50.5%	45.9%	63.7%	23.1%	50.9%	2.1%	13.5%	8.5%
	40～49歳	311	37.0%	54.7%	8.0%	35.0%	48.9%	38.3%	11.3%	19.0%	1.6%	10.0%	4.5%
	50～59歳	478	35.1%	46.2%	6.5%	20.5%	30.3%	34.5%	13.4%	60.0%	0.8%	13.0%	1.9%
	60～69歳	489	20.0%	56.4%	8.4%	27.0%	44.6%	31.5%	8.8%	43.6%	1.8%	9.6%	3.9%
	70歳以上	751	45.9%	75.6%	10.9%	60.9%	67.4%	28.8%	18.4%	63.1%	1.6%	16.8%	4.1%

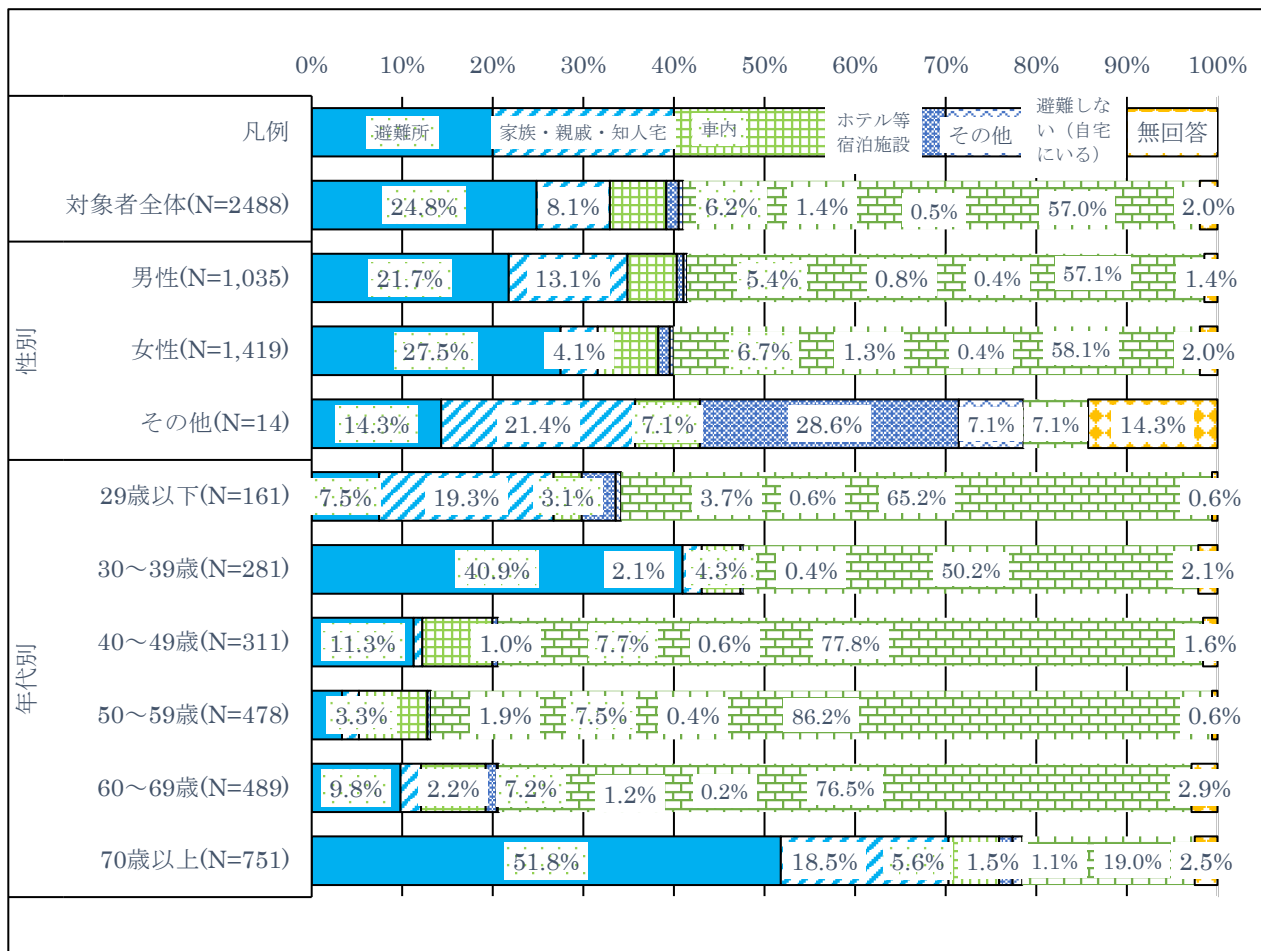
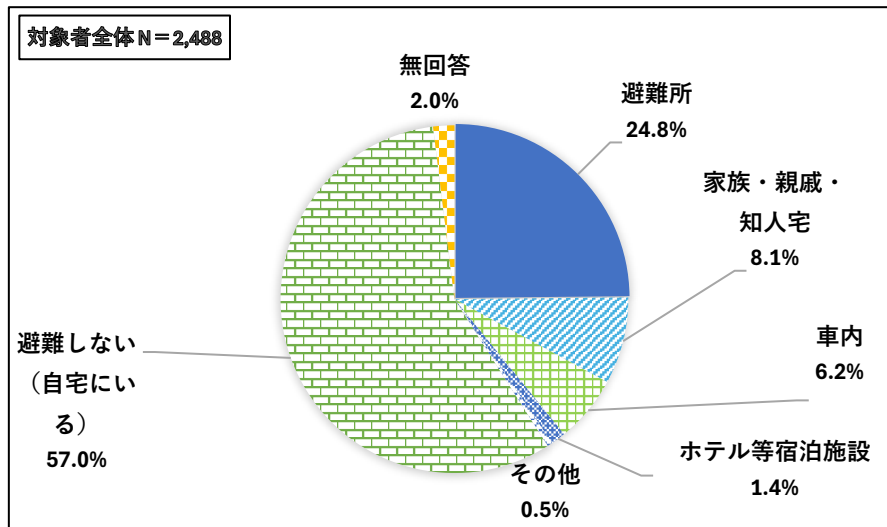
対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

- 【全 体】 厳冬期における災害用備蓄品の用意については、「カセットコンロ」が59.6%、「使い捨てカイロ」が50.1%、「防寒着」が48.8%となっている。
- 【性 別】 「暖かいインナーウェア（靴下、保温肌着など）」、「防寒着」「使い捨てカイロ」、男性が女性より9.4ポイント以上高くなっている。
- 【年代別】 「カセットコンロ」は29歳以下、40歳代、60歳代、70歳以上で最も高く、「寝袋や毛布」は30歳代（63.7%）、50歳代（60.0%）では「使い捨てカイロ」が最も高くなっている。

◇厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難場所

問26 厳冬期に大地震が発生し、自宅の被害がない、または少ない場合において、ブラックアウトとなったとき、あなたはどこに避難しますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難場所については、「避難しない（自宅にいる）」と回答した人が58.2%



【全 体】厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難場所については、「避難しない（自宅にいる）」が57.0%、「避難所」が24.8%、「家族・親戚・知人宅」が8.1%となっている。

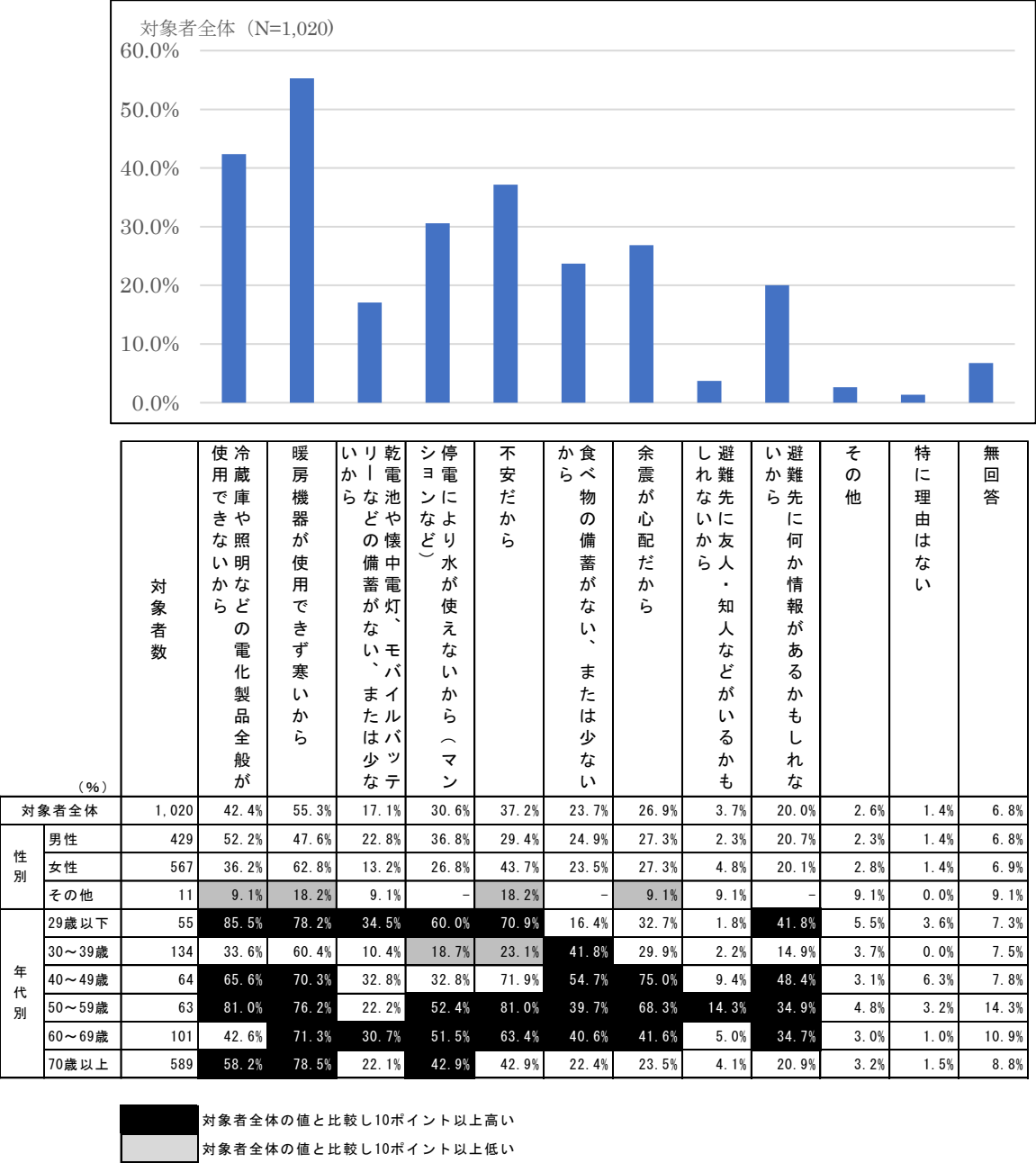
【性 別】「避難所」は、女性が27.5%と、男性の21.7%より5.8ポイント高くなっている。

【年代別】「避難所」が70歳以上（51.8%）で最も高く、最も低い50歳代（3.3%）と比べると48.5ポイント差となっている。

◇厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合の避難理由
《問 26 で「6 避難しない(自宅にいる)」と答えた方以外の方お聞きします》

問 26-1 厳冬期に大地震が発生し、自宅の被害がない、または少ない場合において、ブラックアウトとなったとき、あなたが避難する理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合に避難する理由は、「暖房機器が使用できず寒いから」と回答した人が 55.3%



【全 体】厳冬期に大地震によるブラックアウトとなった場合に避難する理由は、「暖房機器が使用できず寒いから」が 55.3%、「冷蔵庫や照明などの電化製品全般が使用できないから」が 42.4%、「不安だから」が 37.2%となっている。

【性 別】「冷蔵庫や照明などの電化製品全般が使用できないから」、「乾電池や懐中電灯、モバイルバッテリーなどの備蓄がないまたは少ないから」、「停電により水が使えないから」は、男性が女性より 9.6 ポイント以上高くなっている。また、「不安だから」は、女性が男性より 14.3 ポイント高くなっている。

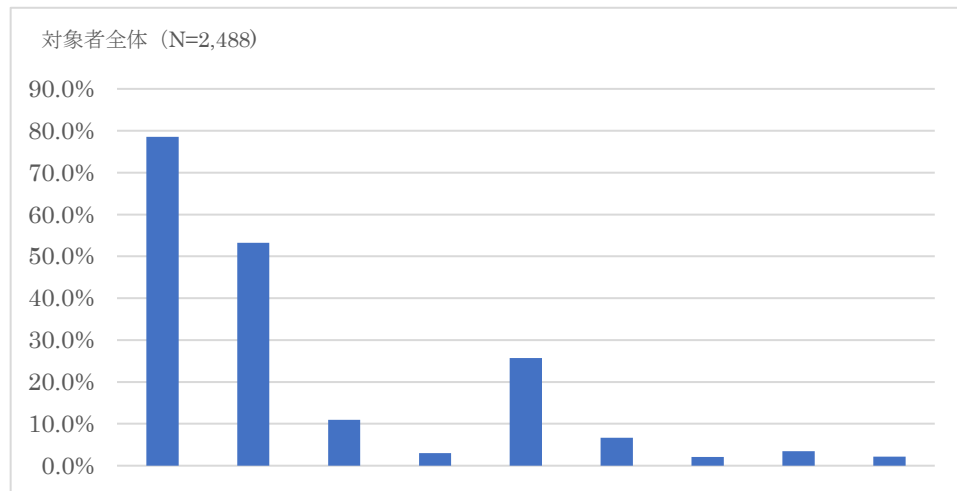
【年代別】「不安だから」は、50 歳代 (81.0%) で最も高く、最も低い 30 歳代 (23.1%) と比べると 57.9 ポイント差となっている。

《皆さまにお聞きます》

◇防災に関する知識、情報の取得方法

問27 あなたは、防災の知識や情報を何で得ていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

防災に関する知識、情報の取得方法は、「テレビやラジオ」と回答した人が78.5%



		対象者数	テレビやラジオ	インターネット	雑誌や本	新聞	SNS	ポスターや掲示板	その他	何も得ていない	無回答
		(%)									
対象者全体		2,488	78.5%	53.2%	10.9%	3.0%	25.7%	6.7%	2.0%	3.5%	2.2%
性別	男性	950	82.1%	53.5%	14.0%	3.6%	28.7%	7.4%	2.0%	3.8%	2.3%
	女性	1,422	77.5%	54.1%	8.9%	2.6%	24.0%	6.1%	2.1%	3.3%	2.1%
	その他	9	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	無回答	12	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	24.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%
年代別	29歳以下	353	49.7%	28.6%	11.8%	0.0%	11.2%	1.9%	2.5%	2.5%	1.2%
	30～39歳	342	90.7%	22.8%	7.5%	2.5%	23.1%	4.3%	1.1%	0.4%	0.7%
	40～49歳	459	69.5%	78.5%	5.1%	4.5%	25.1%	10.3%	2.3%	4.8%	2.3%
	50～59歳	446	74.1%	48.5%	12.3%	1.9%	18.6%	9.4%	2.3%	4.0%	3.1%
	60～69歳	777	64.6%	46.2%	15.3%	2.9%	24.3%	4.9%	1.4%	2.2%	2.0%
	70歳以上	452	96.8%	66.2%	10.8%	3.1%	35.6%	6.4%	2.5%	4.8%	2.4%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】防災に関する知識、情報の取得方法は、「テレビやラジオ」が78.5%、「インターネット」が53.2%、「SNS」が25.7%となっている。

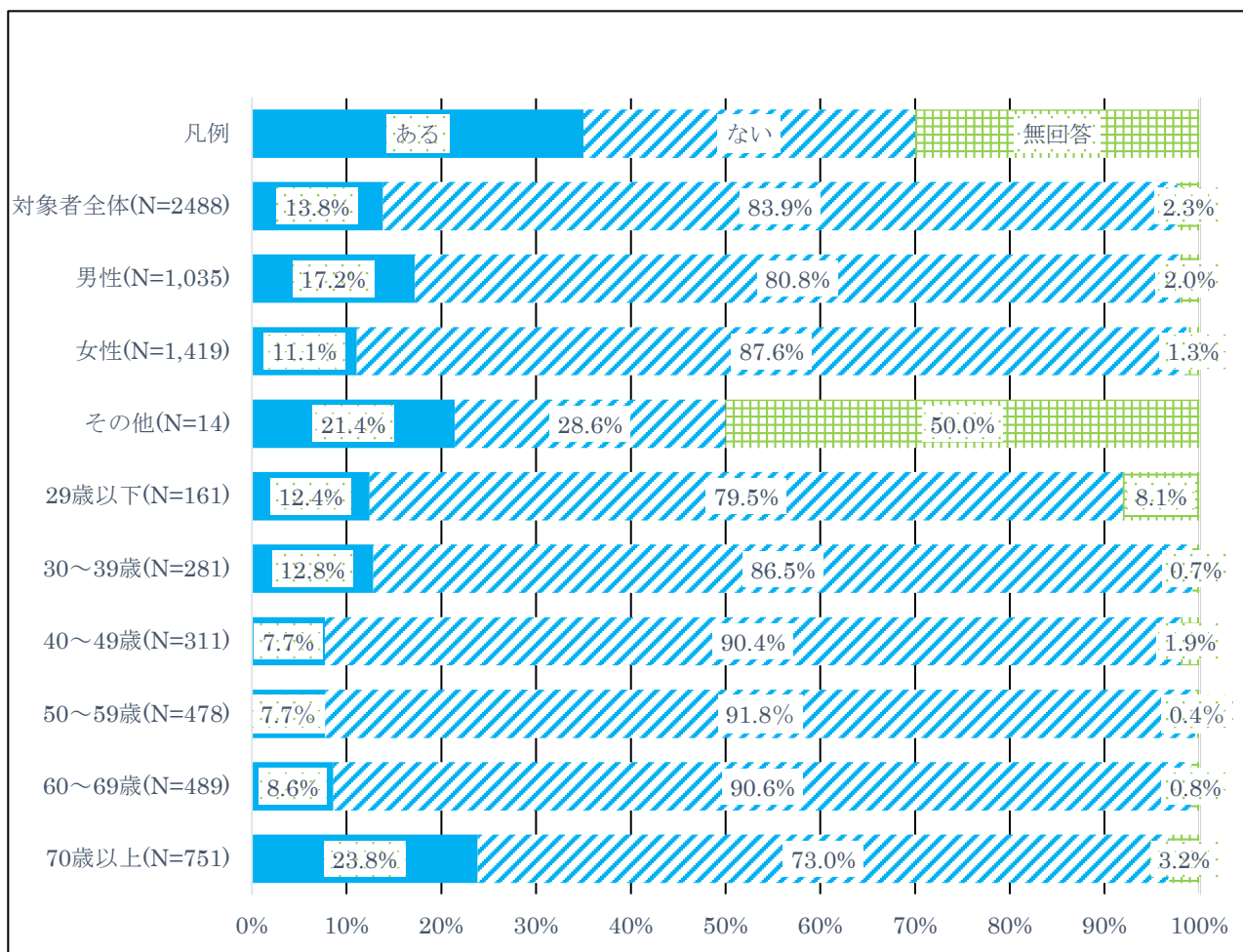
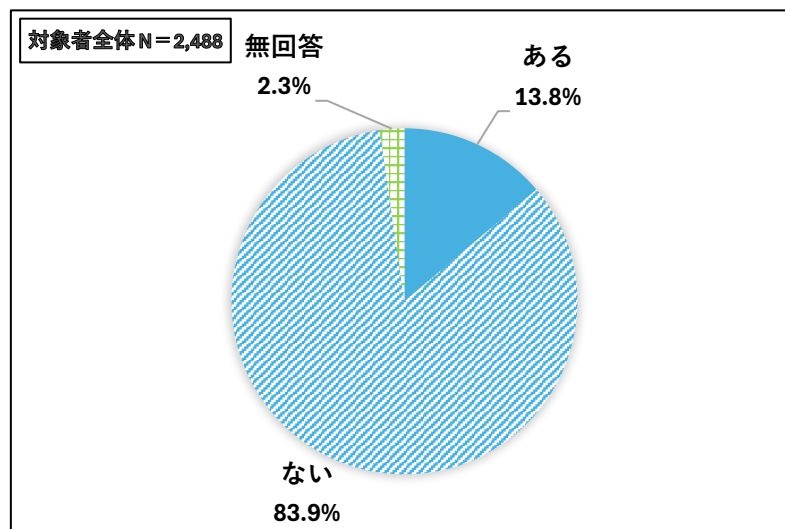
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「テレビやラジオ」は、70歳代（96.8%）で最も高く、最も低い29歳以下（49.7%）と比べると47.1ポイント差となっている。

◇防災に関するセミナーやイベントの参加経験の有無

問28 あなたは、過去に防災に関するセミナーやイベントに参加したことがありますか。

防災に関するセミナーやイベントの参加経験の有無は、「ある」と回答した人が13.8%



【全 体】 防災に関するセミナーやイベントの参加経験の有無は、「ない」が83.9%、「ある」が13.8%となっている。

【性 別】 「ある」は、男性が17.2%と、女性の11.1%より6.1ポイント高くなっている。。

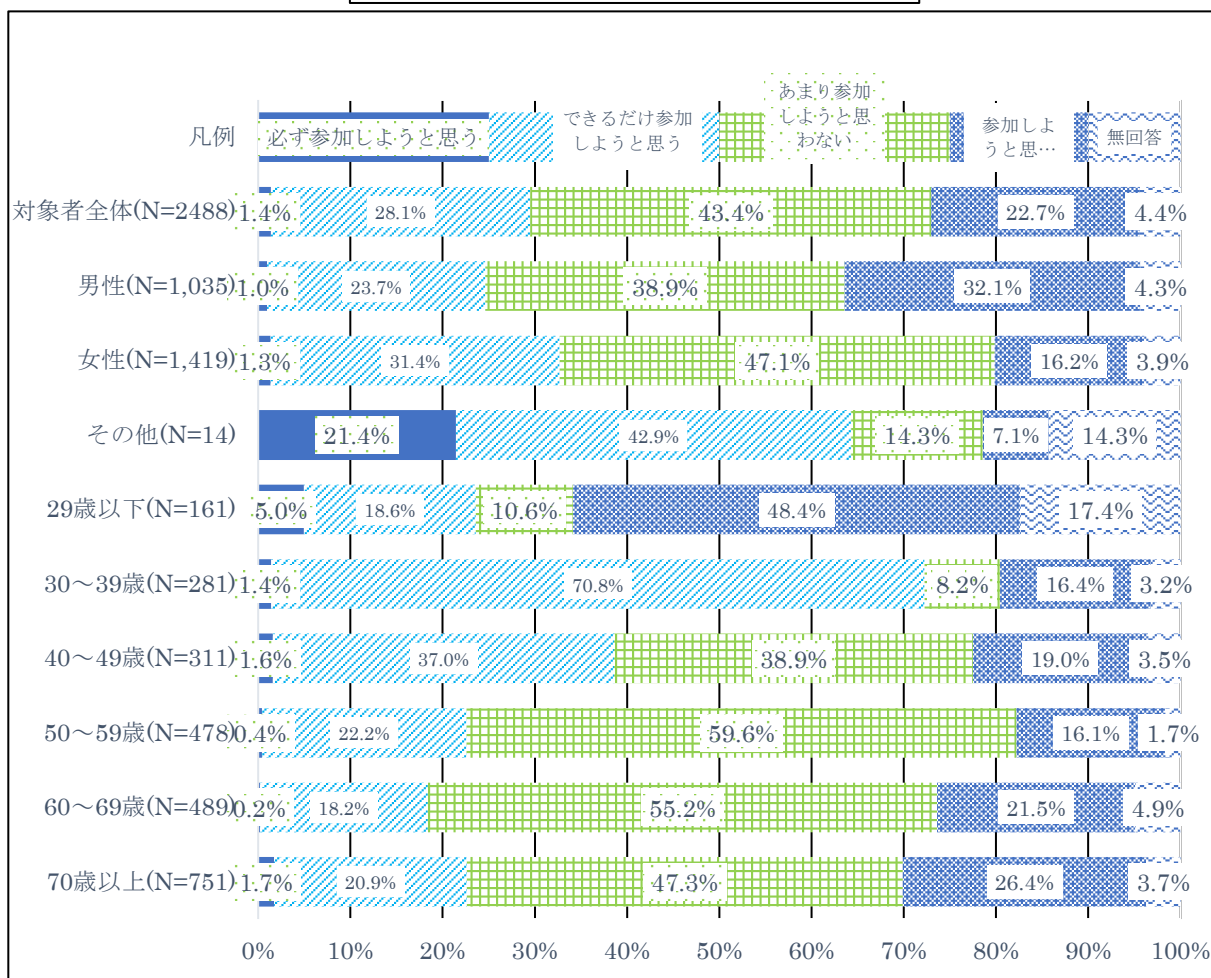
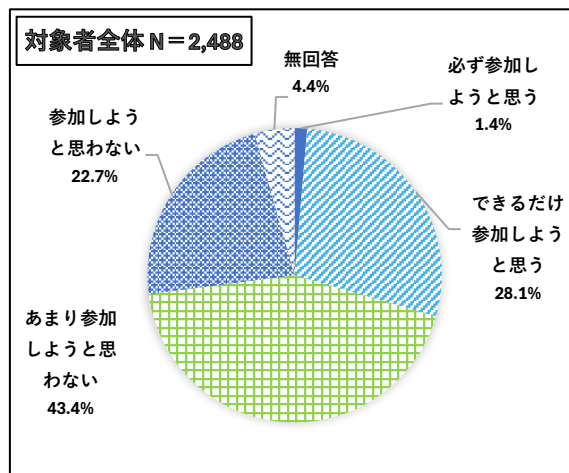
【年代別】 「ある」が70歳代（23.8%）で最も高く、最も低い40歳代、50歳代（7.7%）と比べると16.1ポイントの差となっている。

◇今後、防災にかかるセミナーやイベントに参加しようと思うか

問29 あなたは今後、防災にかかるセミナーやイベントに参加しようと思いますか。

今後、防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思うかは、「参加しようと思う」人は29.5%

※ “参加しようと思う” = (「必ず参加しようと思う」 + 「できるだけ参加しようと思う」)



【全 体】 今後、防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思うかは、「あまり参加しようと思わない」が43.4%、「参加しようとは思わない」が22.7%、合すると66.1%となっている。一方で、「できるだけ参加しようと思う」が28.1%、「必ず参加しようと思う」が1.4%、合すると29.5%となっている。

【性 別】 “参加しようと思う” は女性が32.7%と、男性の24.7%より5.4ポイント高くなっている。

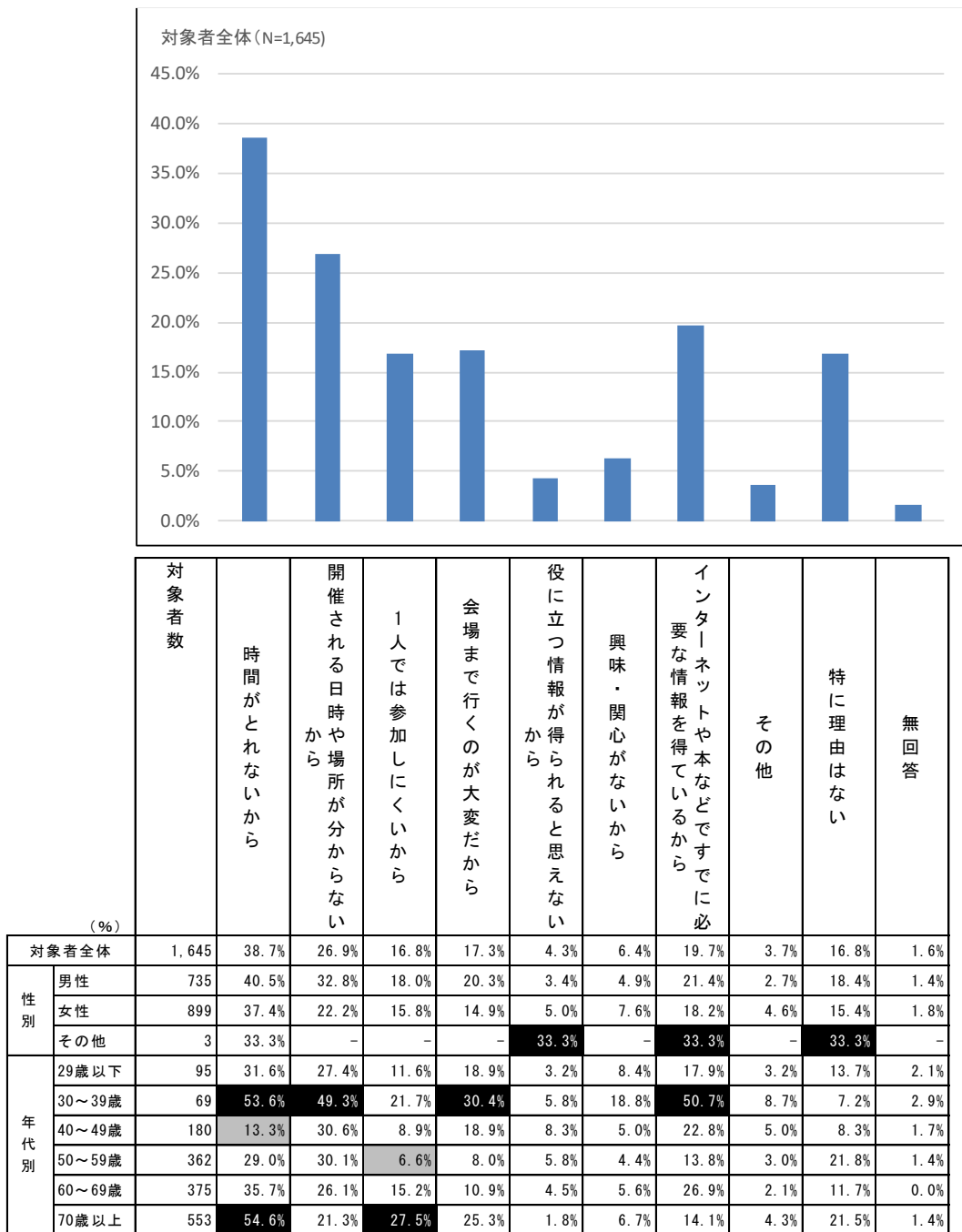
【年代別】 “参加しようと思う” は、30歳代(72.2%)で最も高く、次いで40歳代(38.6%)、29歳以下(23.6%)となっている。

◇防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思わない理由

《問 29 で「3 あまり参加しようと思わない」または「4 参加しようと思わない」と答えた方にお聞きします

問29-1 あなたが参加しようと思わない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思わない理由は、「時間がとれないから」と回答した人が 38.7%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】防災に関するセミナーやイベントへ参加しようと思わない理由は、「時間がとれないから」が 38.7%、「開催される日時や場所が分からないから」が 26.9%、「会場まで行くのが大変だから」が 17.3%となっている。

【性 別】「開催される日時や場所が分からないから」、「会場まで行くのが大変だから」、は、男性が女性より 5.4 ポイント以上高くなっている。

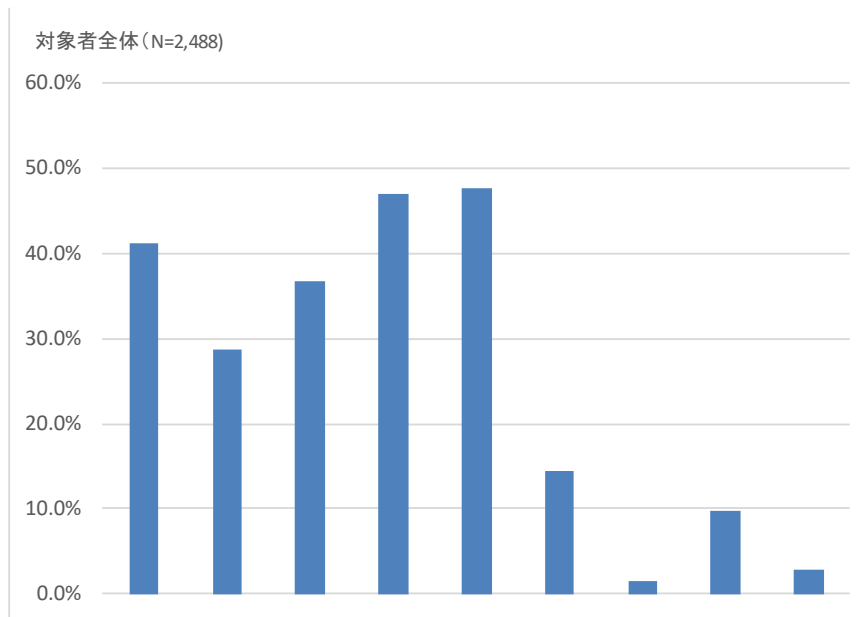
【年代別】29 歳以下、30 歳代、60 歳代、70 歳以上では「時間がとれないから」が最も高く、40 歳代、50 歳代では「開催される日時や場所が分からないから」が最も高くなった。

《皆さまにお聞きします》

◇防災に関して知りたいと思う項目

問30 あなたが知りたいと思う防災に関する項目は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

防災に関して知りたいと思う項目は、「災害時の情報収集先」と回答した人が47.7%



		対象者数	家庭での日頃の備え	地震や風水害などの災害リスク	避難場所や避難経路	災害時の避難生活	災害時の情報収集先	過去の災害例	その他	特になし	無回答
		(%)									
性別	対象者全体	2,488	41.1%	28.8%	36.7%	46.9%	47.7%	14.3%	1.6%	9.6%	2.9%
	男性	1,035	48.1%	32.3%	39.2%	52.8%	53.2%	13.0%	0.2%	7.2%	2.3%
	女性	1,419	34.7%	25.4%	33.7%	41.0%	42.1%	14.8%	2.5%	10.9%	1.1%
	その他	14	21.4%	14.3%	21.4%	28.6%	28.6%	7.1%	0.0%	7.1%	0.0%
年代別	29歳以下	161	21.7%	16.1%	21.7%	31.7%	41.0%	21.7%	5.6%	13.0%	5.0%
	30～39歳	281	30.7%	17.5%	13.2%	35.0%	38.2%	14.0%	2.9%	3.2%	2.5%
	40～49歳	311	36.1%	37.0%	35.1%	36.4%	62.5%	16.1%	0.7%	9.0%	1.3%
	50～59歳	478	25.8%	41.5%	30.0%	39.2%	35.1%	9.9%	0.0%	11.9%	1.9%
	60～69歳	489	28.9%	19.3%	41.8%	44.3%	44.9%	7.0%	1.4%	14.7%	3.1%
	70歳以上	751	69.5%	31.0%	51.1%	66.3%	57.5%	20.1%	1.9%	6.8%	3.7%

	対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
	対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】防災に関して知りたいと思う項目は、「災害時の情報収集先」が47.7%、「災害時の避難生活」が46.9%、「家庭での日頃の備え」が41.1%となっている。

【性 別】「家庭での日頃の備え」「避難場所や避難経路」等で男性が女性より5.5ポイント以上高くなっている。

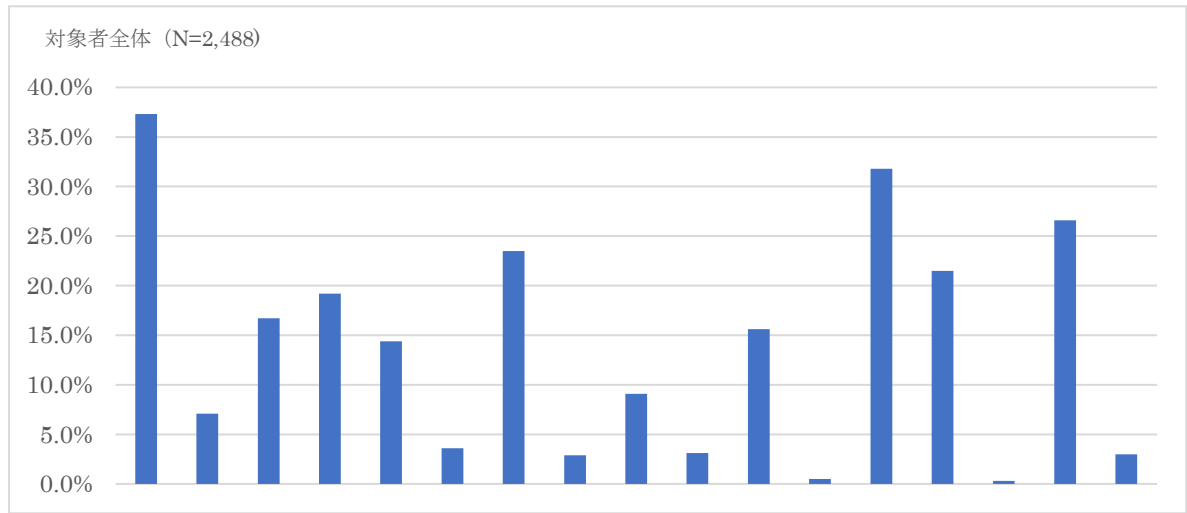
【年代別】29歳以下、30歳代で「災害時の避難生活」が最も高く、40歳代、60歳代では「災害時の情報収集先」、50歳代では「地震や風水害などの災害リスク」、70歳以上では「家庭での日頃の備え」が最も高くなった。

(4)第2次札幌市 ICT 活用戦略について

◇行政手続、行政サービス等を利用したことがあるか

問31 あなたは、以下の行政手続、行政サービス等を利用したことがありますか。次の中から、あてはまるものにいくつかでも○をつけてください。

利用したことがある行政サービスは「札幌市公式 HP」が 37.3%



		対象者数	札幌市公式ホームページ	札幌市コールセンター	住民票や税などの証明書のオンライン申請	大型ごみのインターネット受付	札幌市図書館の図書貸し出しの予約・検索システム	公共施設予約システム	さっぽろえきバスnavi	さっぽろ子育てアプリ	札幌市公式LINE	札幌市防災アプリ「そなえ」	札幌市ごみ分別アプリ	さっぽろ圏スマートアプリ	マイナポータル	確定申告(e-TAX)	その他	利用したことはない	無回答
		(%)																	
性別	対象者全体	2,488	37.3%	7.1%	16.7%	19.2%	14.4%	3.6%	23.5%	2.9%	9.1%	3.1%	15.6%	0.5%	31.8%	21.5%	0.3%	26.6%	3.0%
	男性	1,035	34.2%	16.4%	15.9%	18.2%	13.4%	2.6%	23.5%	1.9%	8.7%	2.0%	7.5%	0.5%	29.9%	18.6%	0.1%	23.5%	1.5%
	女性	1,419	39.9%	0.4%	17.4%	19.9%	15.3%	4.3%	23.4%	3.7%	9.4%	4.0%	21.4%	0.5%	33.5%	23.7%	0.5%	29.1%	4.1%
	その他	14	42.9%	7.1%	14.3%	28.6%	7.1%	14.3%	28.6%	0.0%	21.4%	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	42.9%	0.0%	42.9%	0.0%
年代別	29歳以下	161	24.2%	6.2%	17.4%	18.6%	14.3%	2.5%	20.5%	2.5%	8.7%	2.5%	13.0%	0.0%	34.8%	15.5%	0.0%	26.1%	2.5%
	30～39歳	281	37.0%	7.1%	16.4%	21.7%	14.9%	3.6%	23.1%	3.6%	8.9%	2.8%	16.4%	0.4%	31.7%	23.1%	0.0%	26.3%	2.8%
	40～49歳	311	40.5%	4.8%	18.6%	19.0%	15.4%	5.1%	23.5%	2.9%	9.0%	2.9%	15.4%	1.3%	31.8%	22.5%	0.3%	30.2%	2.9%
	50～59歳	478	33.1%	6.3%	16.5%	19.0%	14.2%	3.6%	24.9%	2.9%	9.0%	2.9%	15.5%	0.4%	31.8%	21.3%	1.0%	26.6%	2.9%
	60～69歳	489	42.1%	8.8%	16.6%	19.0%	14.3%	3.5%	24.3%	2.9%	10.2%	3.1%	16.2%	0.4%	32.5%	21.5%	0.2%	26.6%	3.3%
	70歳以上	751	39.0%	7.7%	16.2%	19.0%	14.1%	3.5%	23.0%	2.9%	8.9%	3.7%	15.3%	0.4%	31.2%	22.5%	0.1%	25.2%	3.1%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】利用したことがある行政サービスは「札幌市公式 HP」が 37.3%、「マイナポータル」が 31.8%、「さっぽろえきバスnavi」が 23.5%であった。

【性別】「札幌市コールセンター」は男性が女性より 16 ポイント高く、「札幌市ごみ分別アプリ」は女性が男性より 13.9 ポイント高かった。

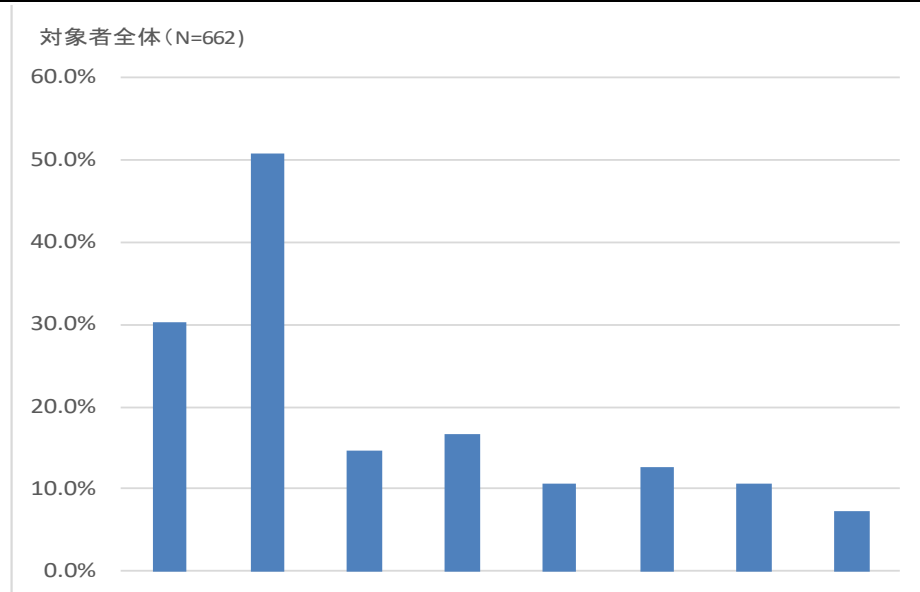
【年代】29 歳以下「マイナポータル」がもっとも高く、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「札幌市公式ホームページ」が最も高くなっている。

◇行政手続き、行政サービスを活用していない理由

《問31で「16 利用したことはない」と答えた方にお聞きます》

問31-1 あなたが、行政手続き、行政サービスを活用していない理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

サービスを利用するまでの方法や、機器、アプリケーションの操作方法がわからない 50.9%



		対象者数	使いたい手続き、サービスがない	不知道怎么利用服务的方法、设备、应用程序的操作方法	セキュリティに不安がある	区役所等の職員と対話をしながら手続きができないことに不安がある	今までのやり方を変えることに抵抗がある	インターネットの手続きだけで完結しないので不便だから	その他	無回答
		(%)								
対象者全体		662	30.4%	50.9%	14.7%	16.8%	10.6%	12.7%	10.6%	7.4%
性別	男性	243	36.6%	64.2%	17.3%	14.4%	13.6%	20.2%	8.6%	7.8%
	女性	416	26.7%	43.3%	13.2%	17.5%	8.7%	8.2%	11.5%	7.2%
	その他	6	16.7%	16.7%	—	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	—
年代別	29歳以下	42	9.5%	85.7%	7.1%	7.1%	2.4%	9.5%	7.1%	7.1%
	30～39歳	74	20.3%	68.9%	14.9%	21.6%	4.1%	8.1%	5.4%	6.8%
	40～49歳	94	37.2%	58.5%	9.6%	20.2%	1.1%	7.4%	3.2%	6.4%
	50～59歳	127	32.3%	40.2%	16.5%	9.4%	8.7%	8.7%	9.4%	7.1%
	60～69歳	130	24.6%	49.2%	7.7%	6.9%	9.2%	19.2%	8.5%	5.4%
	70歳以上	189	38.6%	40.7%	22.8%	25.4%	22.2%	15.9%	19.6%	10.1%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】行政手続きやサービスを活用しない理由は、「サービスを利用するまでの方法や、機器、アプリケーションの操作方法がわからない」が50.9%、「使いたい手続き、サービスがない」が30.4%、「区役所等の職員と対話をしながら手続きができないことに不安がある」が16.8%となっている。

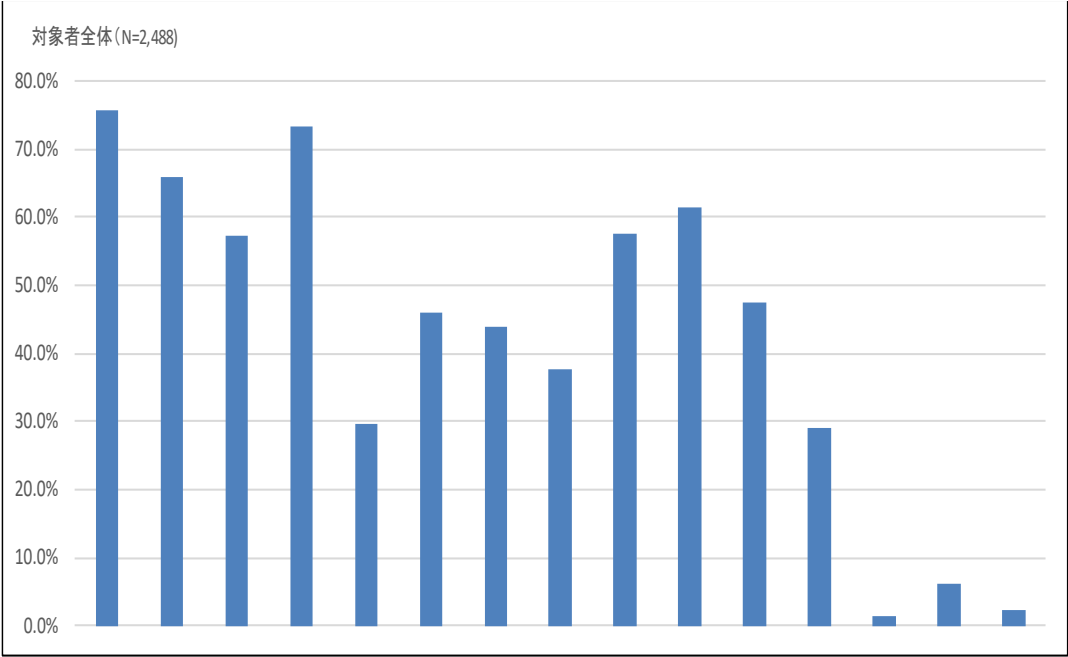
【性別】「サービスを利用するまでの方法や、機器、アプリケーションの操作方法がわからない」が男性が女性より20.9ポイント高くなっている。

【年代別】「いまでのやり方を変えることに抵抗がある」は最も高い70歳以上(22.2%)と、最も低い40歳代(1.1%)の差が21.1ポイントとなっている。

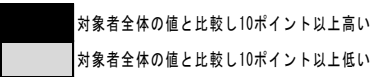
◇スマートフォンを利用する際の目的

問3 2 スマートフォンを利用する際の目的は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

スマートフォンの利用目的は「通話機能の利用」が75.9%



		対象者数	通話機能の利用	SNS(無料通話機能を含む)の利用 (Twitter、LINEなど)	電子メールのやりとり	写真や動画の撮影	健康管理(歩数、睡眠時間、体重、体温など)	電子マネー決済の利用	各種ポイントサービスの利用	ニュースアプリの利用	情報の検索・ホームページの閲覧	地図・交通情報の利用	動画共有サイト(YouTubeなど)や音楽系ストリーミングサービス(Spotify、Apple Musicなど)の利用	ゲームアプリの利用	その他	スマートフォンをもっていない	無回答
		(%)															
対象者全体		2,488	75.9%	65.9%	57.4%	73.5%	29.7%	46.1%	43.9%	37.8%	57.6%	61.5%	47.6%	29.1%	1.4%	6.2%	2.4%
性別	男性	1,035	85.5%	77.1%	62.9%	64.3%	34.2%	49.7%	48.6%	40.5%	66.6%	72.0%	44.1%	48.1%	1.1%	5.9%	3.3%
	女性	1,419	70.2%	58.8%	54.2%	81.4%	26.6%	44.3%	40.8%	36.4%	51.9%	54.8%	51.0%	15.7%	1.6%	6.5%	1.7%
	その他	14	42.9%	35.7%	28.6%	14.3%	7.1%	21.4%	21.4%	14.3%	21.4%	21.4%	7.1%	7.1%	7.1%	7.1%	7.1%
年代別	29歳以下	161	76.4%	34.8%	60.2%	43.5%	19.3%	21.7%	9.3%	11.2%	25.5%	30.4%	21.7%	13.7%	2.5%	1.2%	3.7%
	30～39歳	281	64.8%	44.1%	34.9%	43.1%	16.0%	12.1%	18.1%	7.5%	12.1%	24.2%	6.4%	7.5%	3.2%	5.7%	3.2%
	40～49歳	311	78.8%	95.8%	88.7%	78.8%	44.4%	36.3%	46.9%	47.9%	63.7%	49.5%	63.7%	46.3%	1.3%	12.2%	2.6%
	50～59歳	478	73.0%	33.3%	33.1%	71.1%	41.2%	29.3%	42.1%	11.5%	45.2%	42.7%	24.5%	27.0%	1.0%	8.2%	1.5%
	60～69歳	489	84.3%	73.0%	57.1%	81.4%	33.5%	49.7%	31.5%	51.9%	75.1%	68.9%	59.1%	20.0%	1.6%	4.3%	0.0%
	70歳以上	751	76.7%	85.4%	68.3%	86.0%	21.7%	76.6%	69.6%	59.1%	76.4%	95.3%	70.0%	41.1%	0.7%	4.9%	4.0%



【全 体】スマートフォンの利用目的は、「通話機能の利用」が75.9%、「写真や動画の撮影」が73.5%、「SNS(無料通話機能を含む)の利用」が65.9%となっている。

【性 別】「写真や動画の撮影」では女性が男性より17.1ポイント高かったのに対し、「ゲームアプリの利用」では男性が女性より32.4ポイント高くなっている。

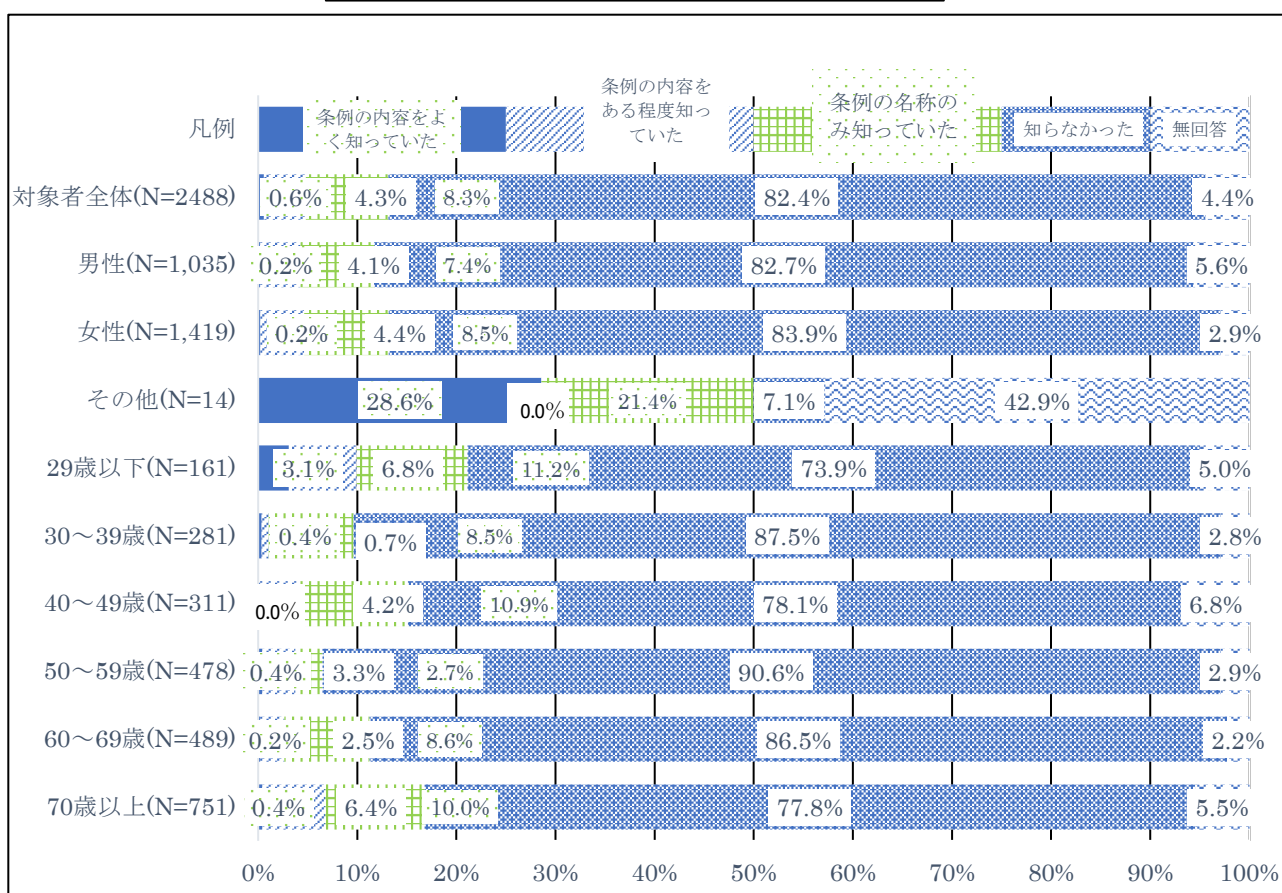
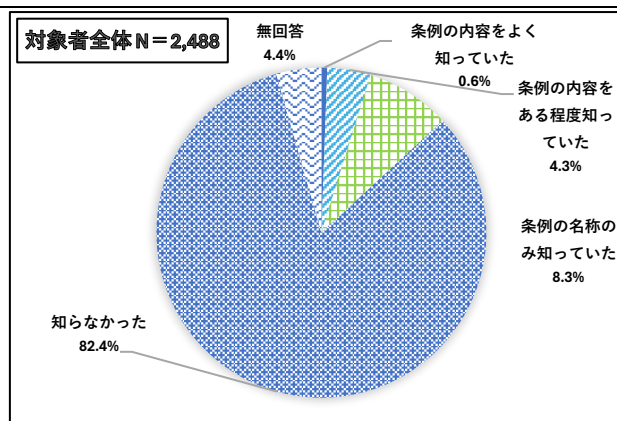
【年代別】29歳以下、30歳代では「通話機能の利用」が最も高く、40歳代では「SNSの利用」、50歳代、60歳代では「写真や動画の撮影」、70歳以上では「地図・交通情報の利用」が最も高くなっている。

(5)障がい者コミュニケーション条例について

◇障がい者コミュニケーション条例の認知度

問33 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」人が82.4%



【全 体】障がい者コミュニケーション条例の認知度は、「知らなかった」が82.4%、「条例の名称のみ知っていた」が8.3%、「条例の内容をある程度知っていた」が4.3%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

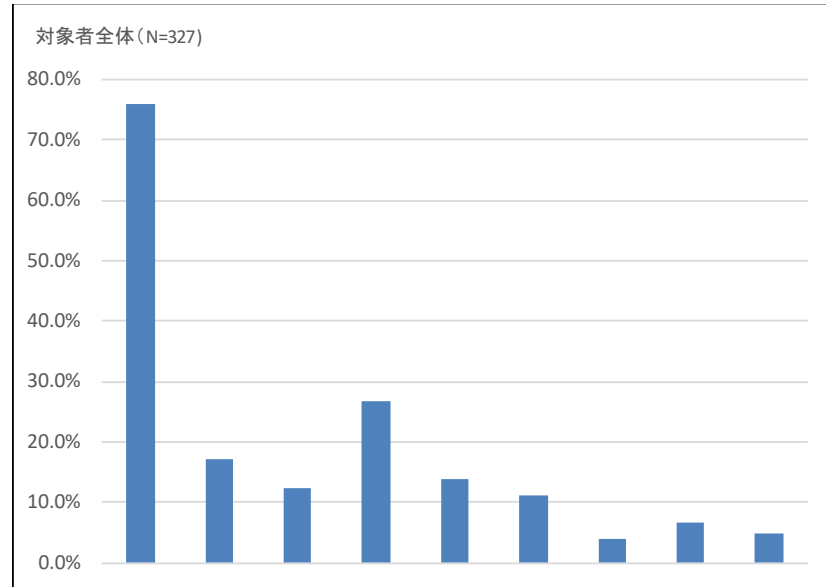
【年代別】「知らなかった」が50歳代(90.6%)で最も高く、最も低い29歳以下(73.9%)と比べると、16.7ポイントの差となっている。

◇障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけ

《問 33 で「1 条例の内容をよく知っていた」「2 条例の内容をある程度知っていた」「3 条例の名称のみ知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問33-1 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を何で知りましたか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が 75.8%



		対象者数	広報さっぽろ	ポスター・チラシ・パンフレット	ホームページ	新聞・テレビなどの報道	家族、知人	市役所や区役所の窓口	その他	覚えていない	無回答
		(%)									
性別	対象者全体	327	75.8%	17.1%	12.2%	26.6%	13.8%	11.0%	4.0%	6.7%	4.9%
	男性	121	73.6%	17.4%	9.9%	33.1%	18.2%	9.1%	3.3%	7.4%	4.1%
	女性	187	80.2%	17.1%	14.4%	24.1%	11.8%	11.8%	4.3%	5.9%	5.3%
	その他	7	57.1%	14.3%	14.3%	-	14.3%	-	14.3%	-	14.3%
年代別	29歳以下	34	88.2%	8.8%	-	26.5%	5.9%	8.8%	5.9%	5.9%	0.0%
	30～39歳	27	70.4%	7.4%	3.7%	22.2%	7.4%	11.1%	-	3.7%	7.4%
	40～49歳	47	51.1%	6.4%	4.3%	44.7%	10.6%	6.4%	2.1%	4.3%	2.1%
	50～59歳	31	64.5%	64.5%	83.9%	90.3%	-	48.4%	6.5%	22.6%	19.4%
	60～69歳	55	94.5%	16.4%	5.5%	16.4%	7.3%	12.7%	3.6%	10.9%	7.3%
	70歳以上	126	79.4%	15.1%	6.3%	9.5%	5.6%	4.0%	3.2%	3.2%	2.4%

 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】障がい者コミュニケーション条例を知ったきっかけは、「広報さっぽろ」が 75.8%、「新聞・テレビなどの報道」が 26.6%、「ポスター・チラシ・パンフレット」が 17.1%となっている。

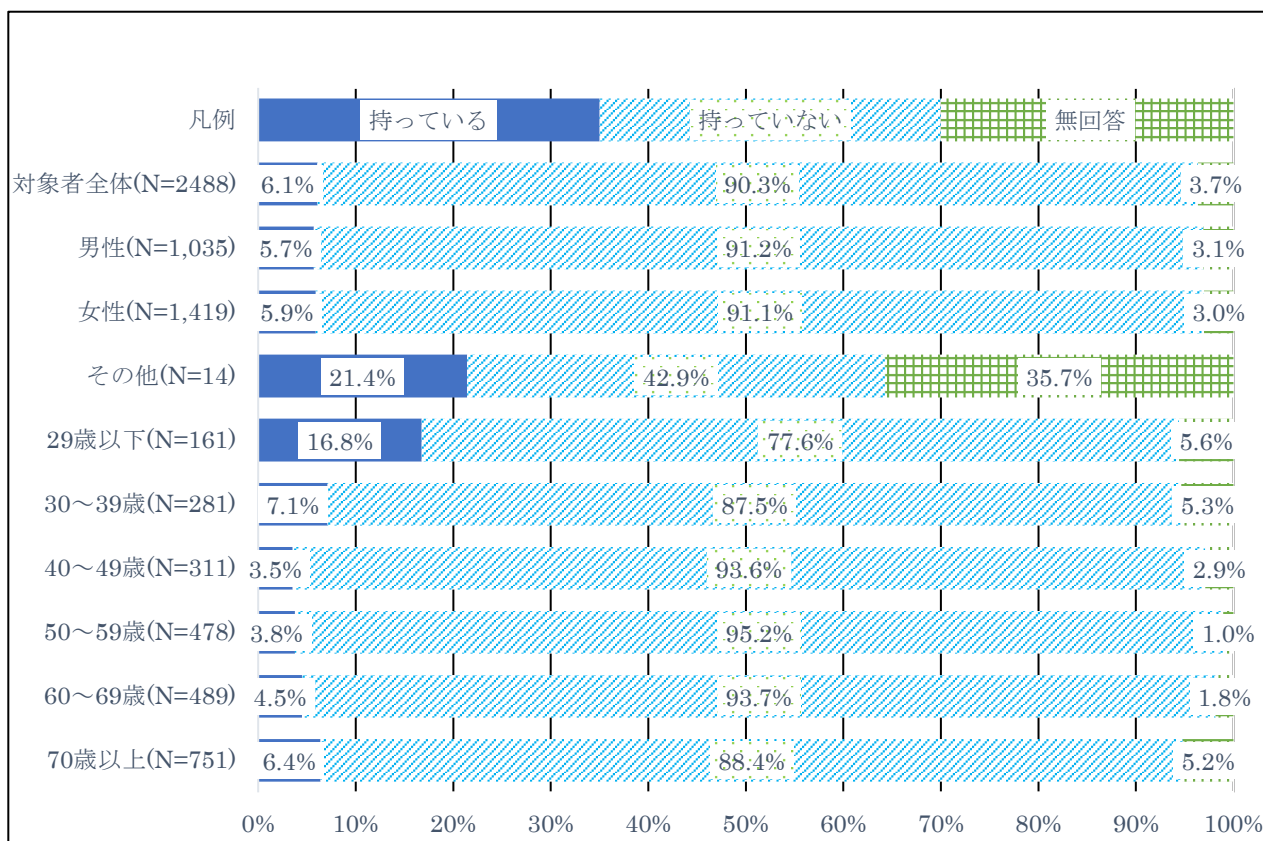
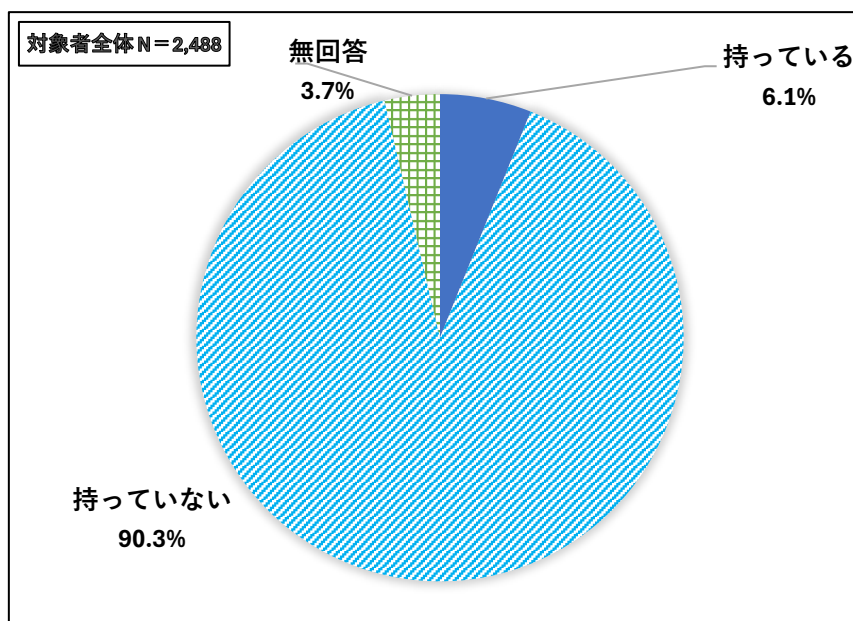
【性 別】「新聞・テレビなどの報道」、「家族、知人」は、男性が女性より 6.4 ポイント以上高くなっている。また、「広報さっぽろ」は、女性が 80.2%と、男性の 73.6%より 6.6 ポイント高くなっている。

【年代別】50 歳代では「新聞・テレビなどの報道」が最も高く、29 歳以下、30 歳代、40 歳代、60 歳代、70 歳以上では「広報さっぽろ」が最も高くなっている。

◇障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳)の保有状況
《皆さまにお聞きします》

問34 あなたは、障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」人が90.3%



【全 体】障がい者手帳の保有状況は、「持っていない」が90.3%、「持っている」が6.1%となっている。

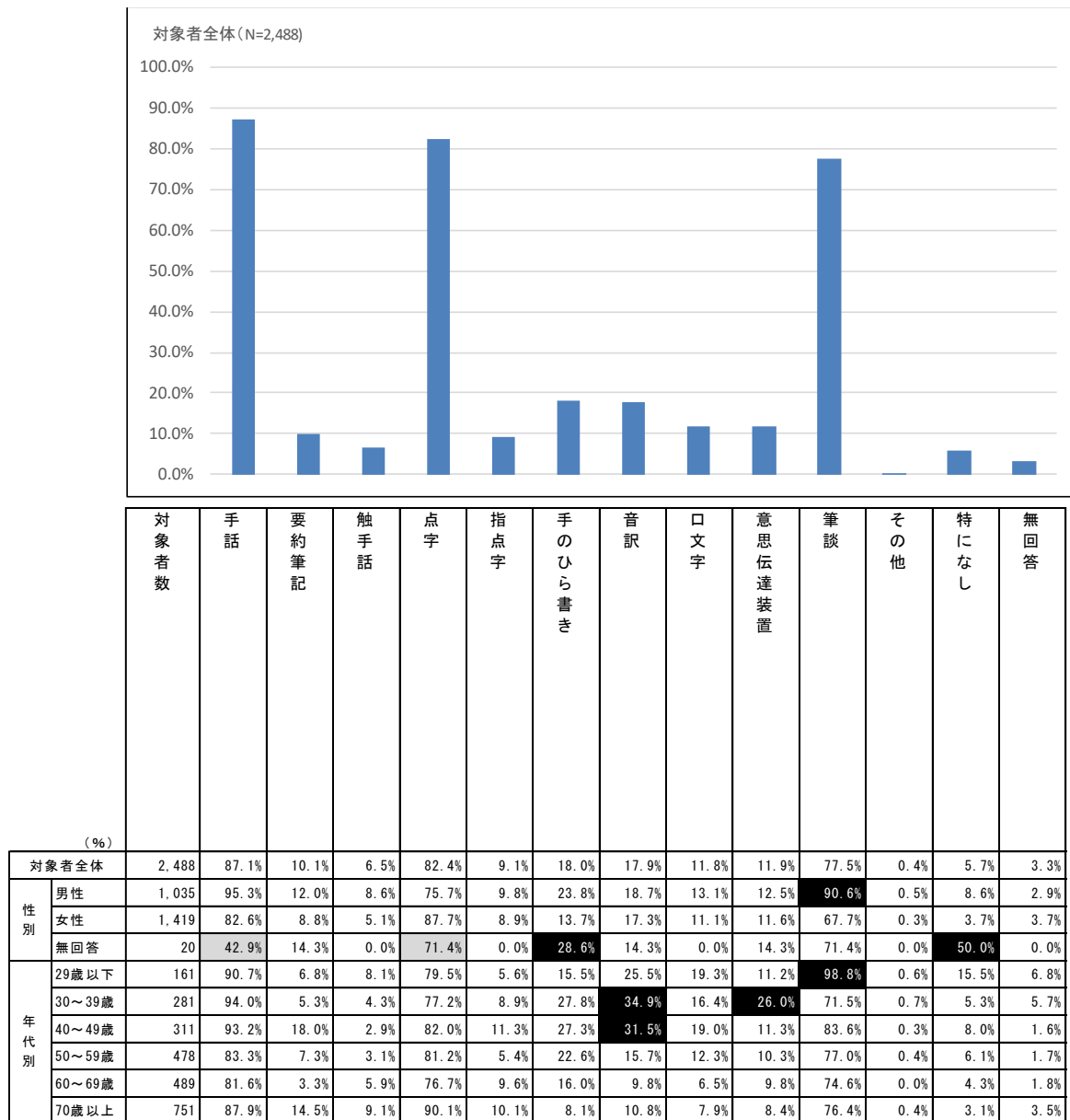
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「持っている」が30歳代(7.1%)で最も多く、次いで70歳以上(6.4%)、60歳代(4.5%)となっている。

◇障害のある方が使用するコミュニケーション手段で、知っているもの

問35 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。(ご自身でその手段の表現ができなくても構いません。知っているものに○をつけてください。)

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が87.1%



対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で知っているものは、「手話」が87.1%、「点字」が82.4%、「筆談」が77.5%となっている。

【性 別】「手話」、「手のひら書き」、「筆談」は男性が女性より10.1ポイント以上高くなっている。一方「点字」は男性の75.7%に対して女性が87.7%と12ポイント高くなっている。

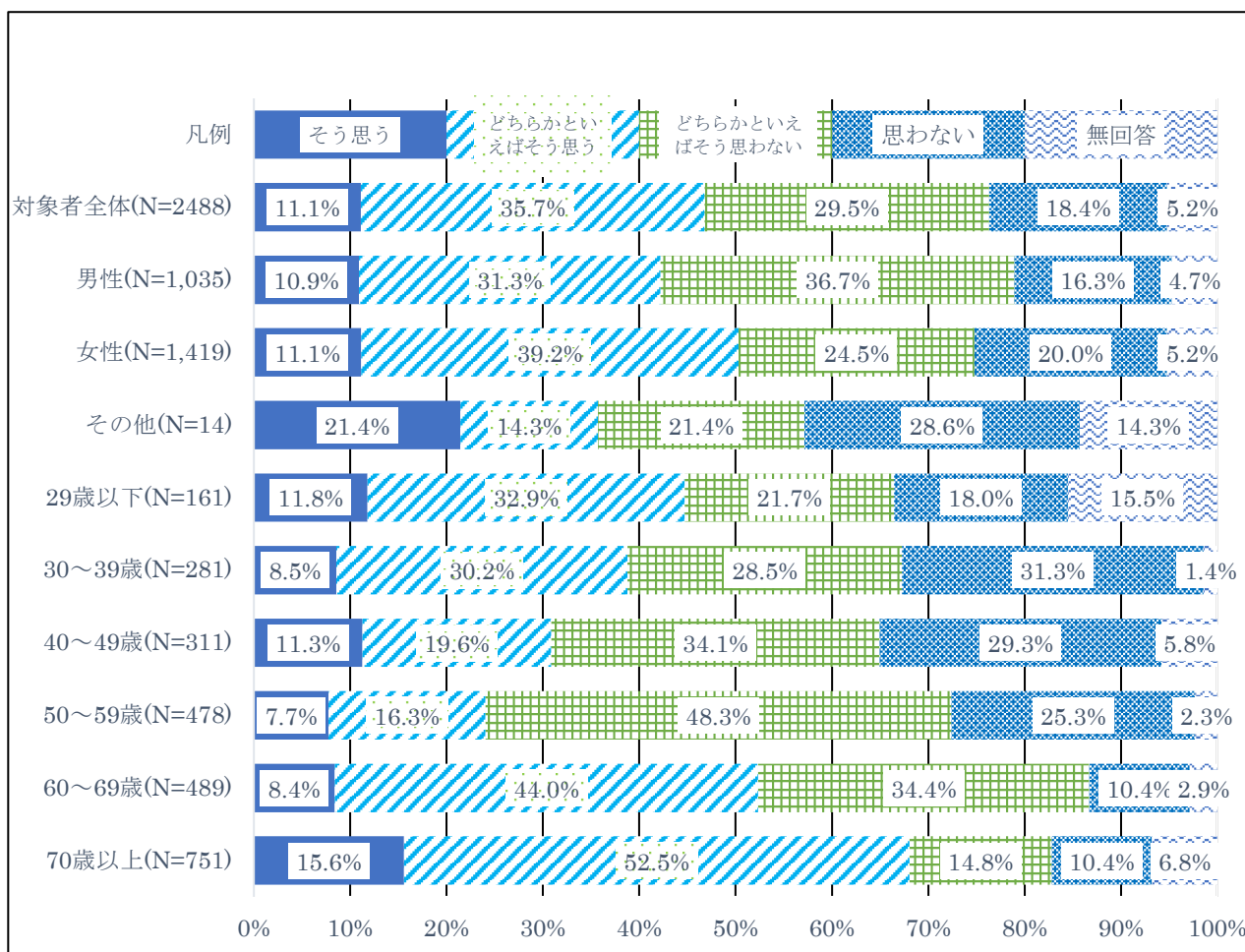
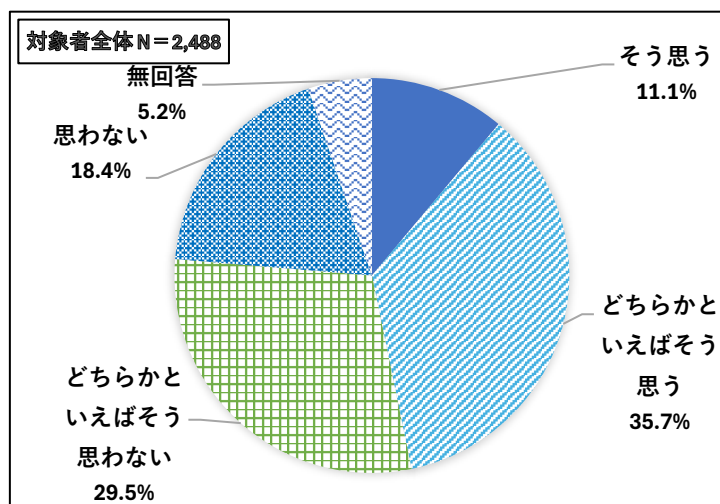
【年代別】29歳以下、では「筆談」が最も高く、30歳代、40歳代、50歳代60歳代、70歳以上では「手話」が最も高くなっている。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、学んでみたい、または、知りたいと思うか

問 36 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、あなたは学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、“思う”が46.8%

※“思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



【全 体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について学んでみたい・知りたいと思うかは、「そう思う」が11.1%、「どちらかといえばそう思う」が35.7%、合わせると46.8%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が29.5%、「思わない」が18.4%、合わせると47.9%となっている。

【性 別】“思う”は女性が50.3%と、男性の42.2%より8.1ポイント高くなっている。

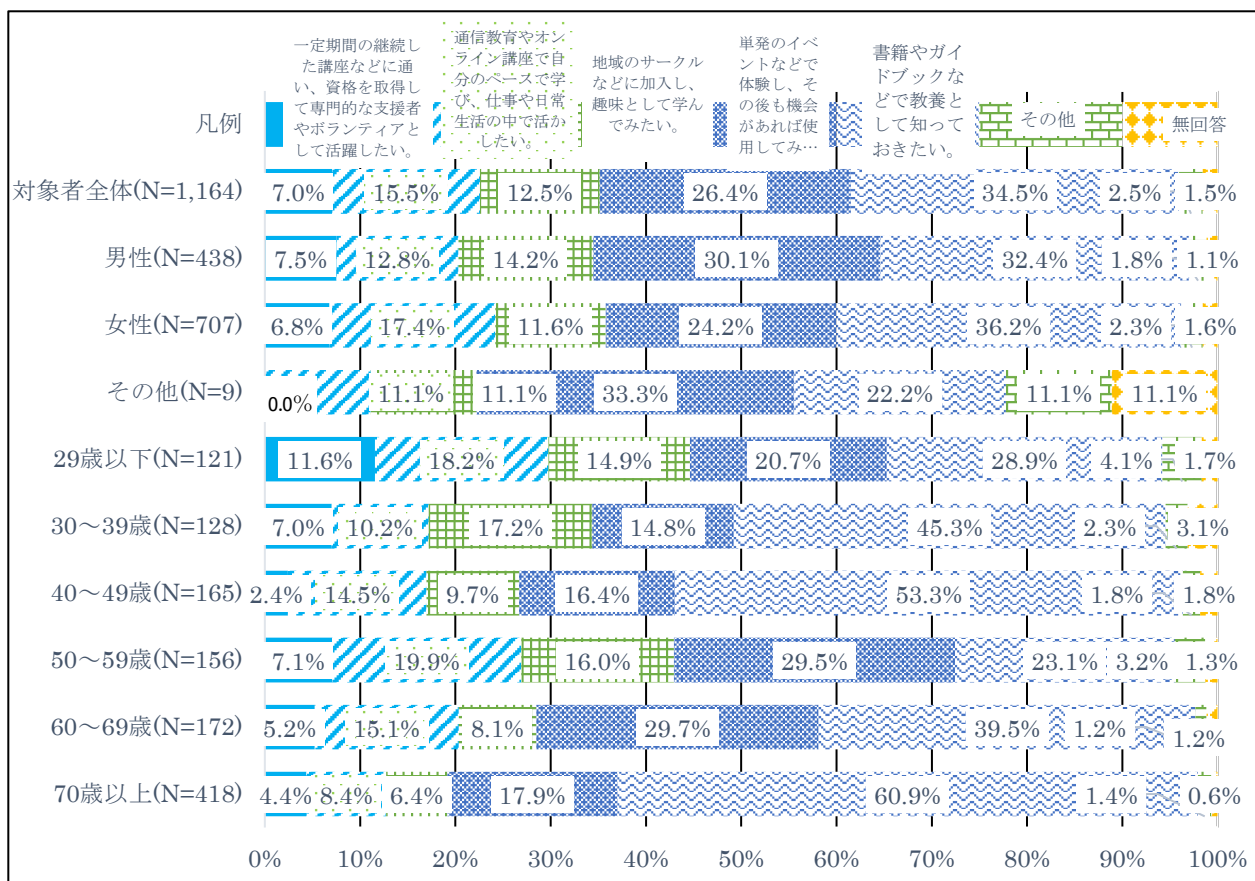
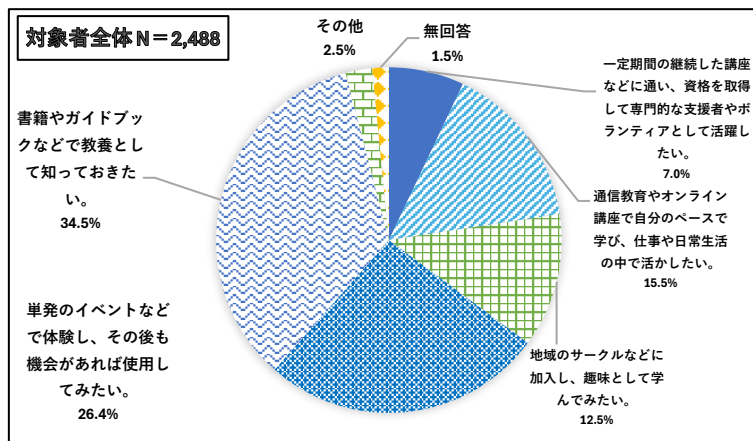
【年代別】“思う”が70歳以上(68.1%)で最も高く、最も低い50歳代(24.0%)と比べると44.1ポイントの差がある。

◇障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいか

《問36で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。

問36-1 あなたは、障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」と回答した人が34.5%



【全 体】障がいのある方が使用するコミュニケーション手段についてどの程度学んでみたい・知りたいと思うかは、「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が34.5%、「単発のイベントなどで体験し、その後も機会があれば使用してみたい。」が26.4%、「通信教育やオンライン講座で自分のペースで学び、仕事や日常生活の中で活かしたい。」が15.5%となっている。

【性 別】「単発のイベントなどで体験したい」は、男性が30.1%と、女性の24.2%より5.9ポイント高くなっている。

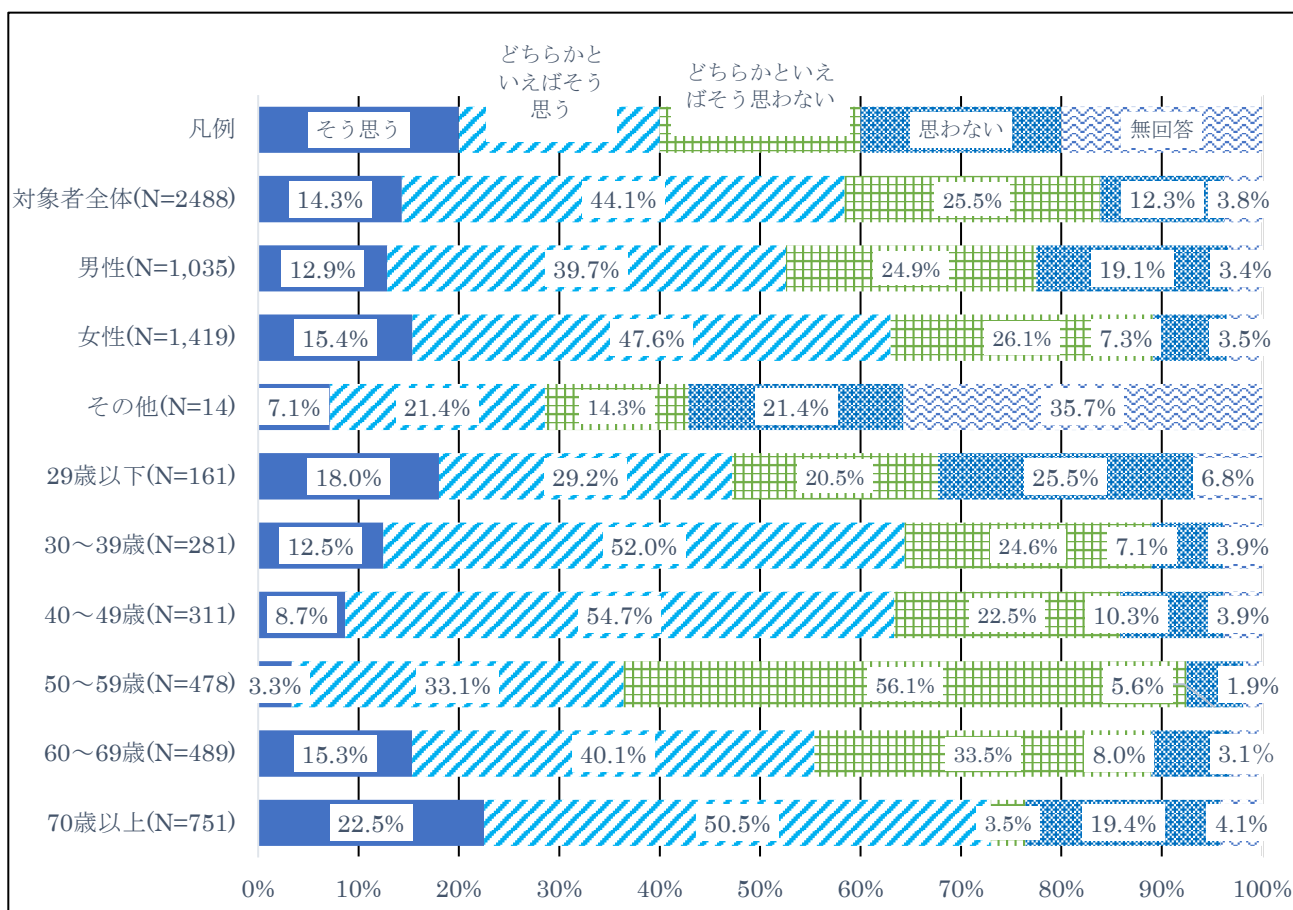
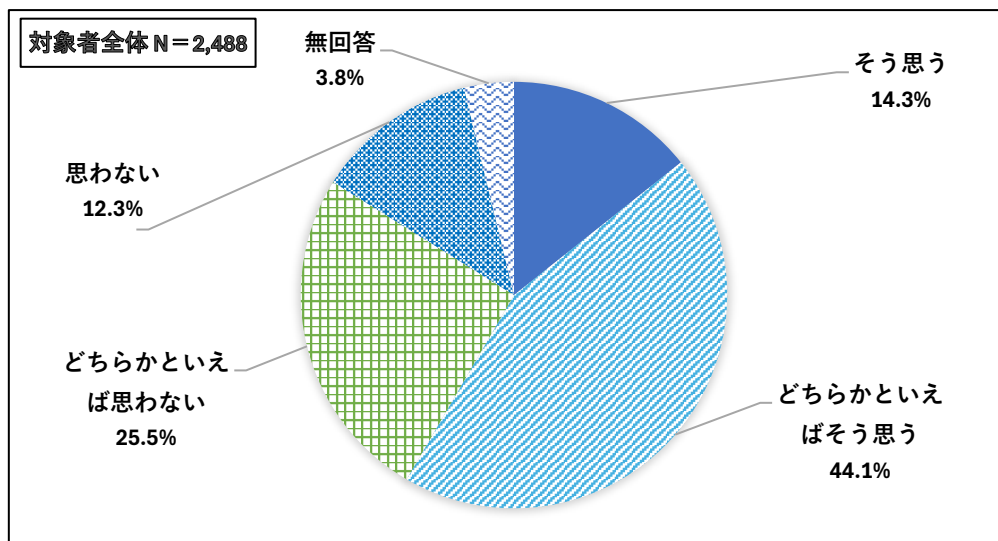
【年代別】「書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。」が70歳以上(60.9%)で最も高く、最も低い50歳代(23.1%)と比べると37.8ポイントの差となっている。

◇コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、何か取り組みたいと思うか
《皆さまにお聞きます》

問37 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、何か取り組みたいと思いますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、“思う”が58.4%

※“思う”(「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」)



【全 体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくため、何かに取り組みたいと思うかは、「そう思う」が14.3%、「どちらかといえばそう思う」が44.1%、合わせると58.4%となっている。一方で、「どちらかといえば思わない」が25.5%、「思わない」が12.3%、合わせると37.8%となっている。

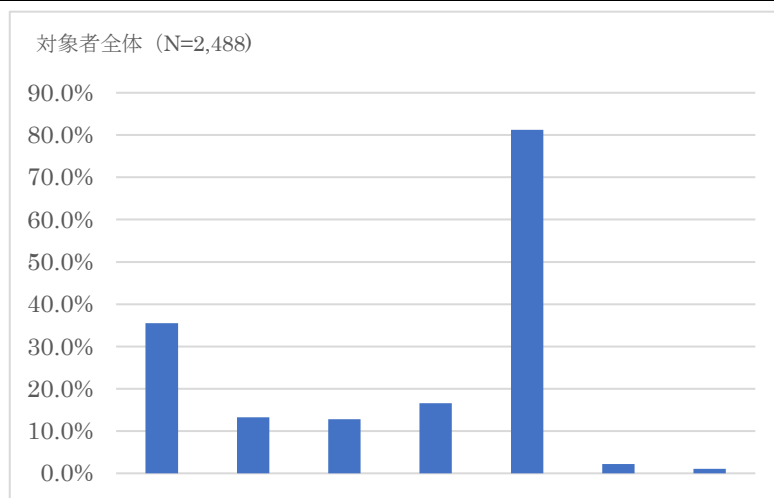
【性 別】“思う”は女性で63.0%と、男性の52.6%より10.4ポイント高くなっている。

【年代別】“思う”が70歳以上(73.0%)で最も高く、次いで30歳代(64.5%)、40歳代(63.4%)となっている。

◇コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいこと
《問37で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きます。》

問37-1 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいと思うことはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていただくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」と回答した人が81.2%



		対象者数	メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があればチェックする	講座に参加するなど、障がいのある方のコミュニケーション手段を学習し、実践する	ボランティア活動へ参加する	障がいのある方が行う行事、催し物に参加する	日常生活の場面で困っている方がいたら助ける	その他	無回答
		(%)							
対象者全体		1,423	35.5%	13.3%	12.8%	16.6%	81.2%	2.2%	1.0%
性別	男性	543	47.1%	15.4%	13.6%	19.5%	91.0%	2.0%	1.3%
	女性	813	28.5%	12.0%	12.4%	14.8%	76.1%	2.2%	0.9%
	その他	5	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
年代別	29歳以下	353	44.7%	22.4%	23.7%	34.2%	72.4%	3.9%	3.9%
	30～39歳	342	32.6%	5.5%	5.0%	8.3%	54.1%	3.9%	1.1%
	40～49歳	459	44.2%	13.2%	6.1%	13.2%	87.3%	0.0%	0.5%
	50～59歳	446	59.8%	10.9%	8.0%	23.6%	91.4%	4.6%	1.7%
	60～69歳	777	26.2%	7.4%	11.1%	4.1%	97.4%	1.1%	0.4%
	70歳以上	452	29.2%	18.1%	18.2%	22.1%	97.1%	1.8%	0.7%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】コミュニケーション上の障がいのある方が暮らしやすいまちをつくっていくために取り組みたいことは、「日常生活で困っている方がいたら助ける」が 81.2%、「メディア(テレビやSNSなど)の中で、障がいに関する情報があれば気を配る」が 35.5%、「障がいのある方が行う行事、催し物に参加する」が 16.6% となっている。

【性 別】「メディアで、障がいに関する情報があればチェックする」「日常生活で困っている方がいたら助ける」で、男性が女性より14.9ポイント高くなっている。

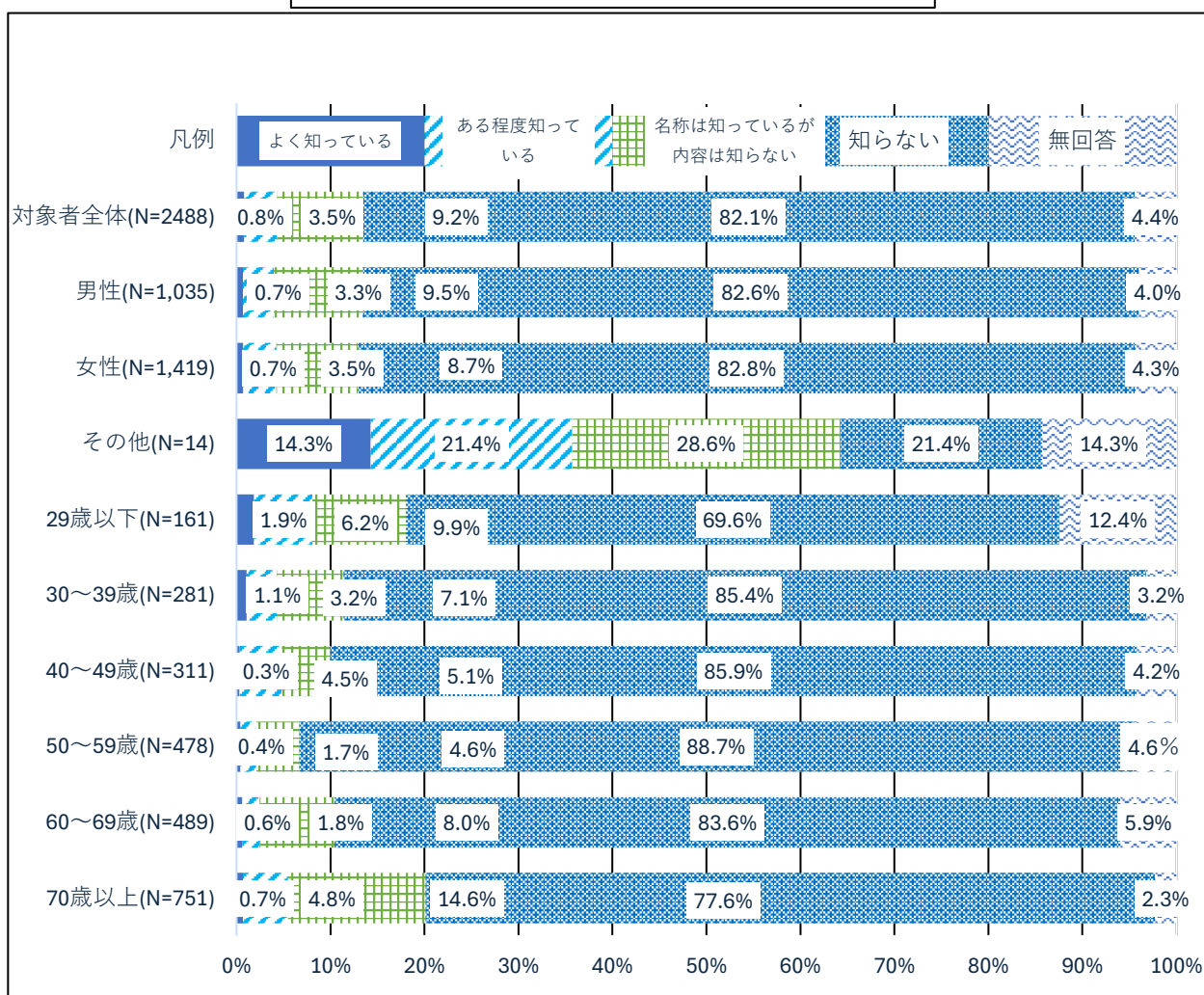
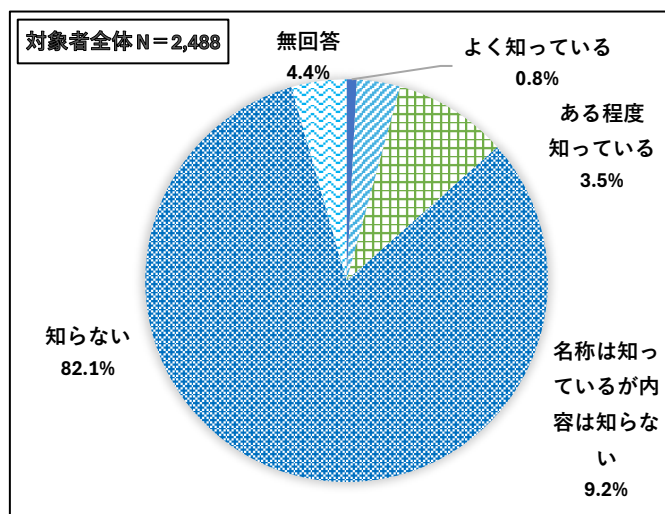
【年代別】「日常生活で困っている方がいたら助ける」が70歳以上(97.1%)で最も高く、次いで50歳代(91.4%)、40歳代(87.3%)となっている。

(6) さぽーとほっと基金について

◇さぽーとほっと基金の認知度

問38 あなたは、さぽーとほっと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さぽーとほっと基金の認知度は「名称は知っているが内容は知らない」が9.2%



【全 体】さぽーとほっと基金の認知度は、「名称は知っているが内容は知らない」が 9.2%、「ある程度知っている」が 3.5%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

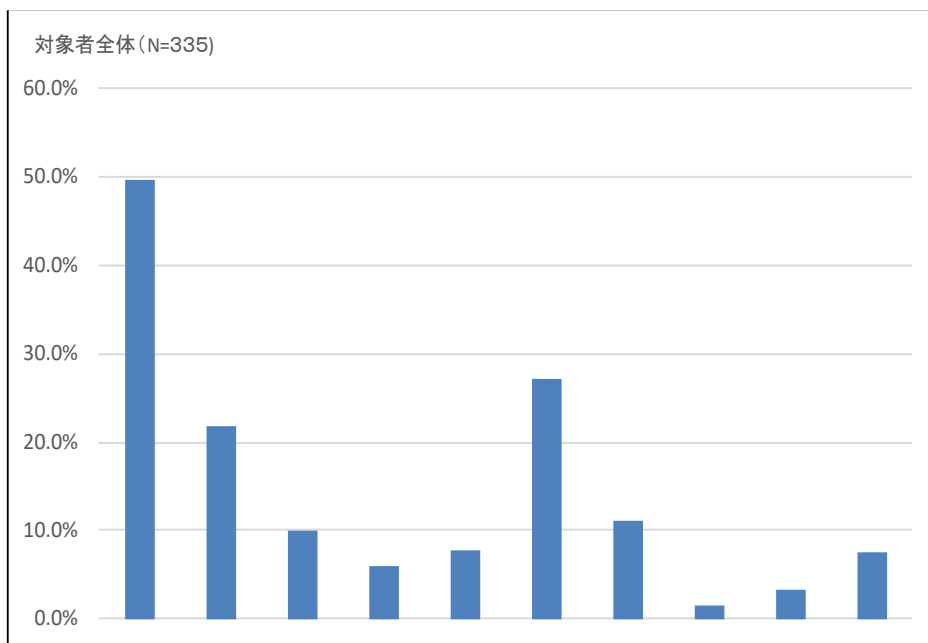
【年代別】「名称は知っているが内容は知らない」が 70 歳以上(14.6%)で最も高く、次いで 29 歳以下(9.9%)、60 歳代(8.0%)となっている。

◇さぼーとほっと基金を知ったきっかけ

「問 38 で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」、「3 名称は知っているが内容は知らない」と答えた方にお聞きします。」

問38-1 あなたが、さぼーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さぼーとほっと基金を知ったきっかけは「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が 49.6%



		対象者数	札幌市が発行している冊子やパンフレット	札幌市公式ホームページ	さぼーとほっと基金に寄付している企業の活動を通じて	市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された	イベントや展示など	テレビ・ラジオ・新聞	家族や知人からの口コミ	他の窓口などで紹介された	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		335	49.6%	21.8%	9.9%	6.0%	7.8%	27.2%	11.0%	1.5%	3.3%	7.5%
性別	男性	139	51.8%	29.5%	8.6%	7.2%	6.5%	29.5%	10.8%	1.4%	2.2%	5.8%
	女性	183	50.3%	16.4%	10.9%	0.0%	0.0%	25.7%	10.9%	0.0%	0.0%	8.7%
	その他	9	22.2%	22.2%	11.1%	-	-	33.3%	22.2%	0.0%	0.0%	11.1%
年代別	29歳以下	29	72.4%	62.1%	44.8%	37.9%	20.7%	27.6%	34.5%	3.4%	10.3%	13.8%
	30～39歳	32	59.4%	12.5%	3.1%	0.0%	15.6%	34.4%	15.6%	0.0%	3.1%	9.4%
	40～49歳	31	51.6%	19.4%	6.5%	0.0%	22.6%	67.7%	6.5%	3.2%	3.2%	0.0%
	50～59歳	32	90.6%	25.0%	12.5%	3.1%	0.0%	25.0%	3.1%	0.0%	0.0%	12.5%
	60～69歳	51	60.8%	25.5%	11.8%	3.9%		25.5%	13.7%	2.0%	5.9%	3.9%
	70歳以上	151	29.8%	15.2%	3.3%	3.3%	4.0%	17.9%	7.9%	1.3%	1.3%	6.6%

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】さぼーとほっと基金を知ったきっかけは、「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が 49.6%、「テレビ・ラジオ・新聞」が 27.2%、「札幌市公式ホームページ」が 21.8%となっている。

【性 別】「札幌市公式ホームページ」は、男性が 29.5%と、女性の 16.4%より 13.1 ポイント高くなっている。

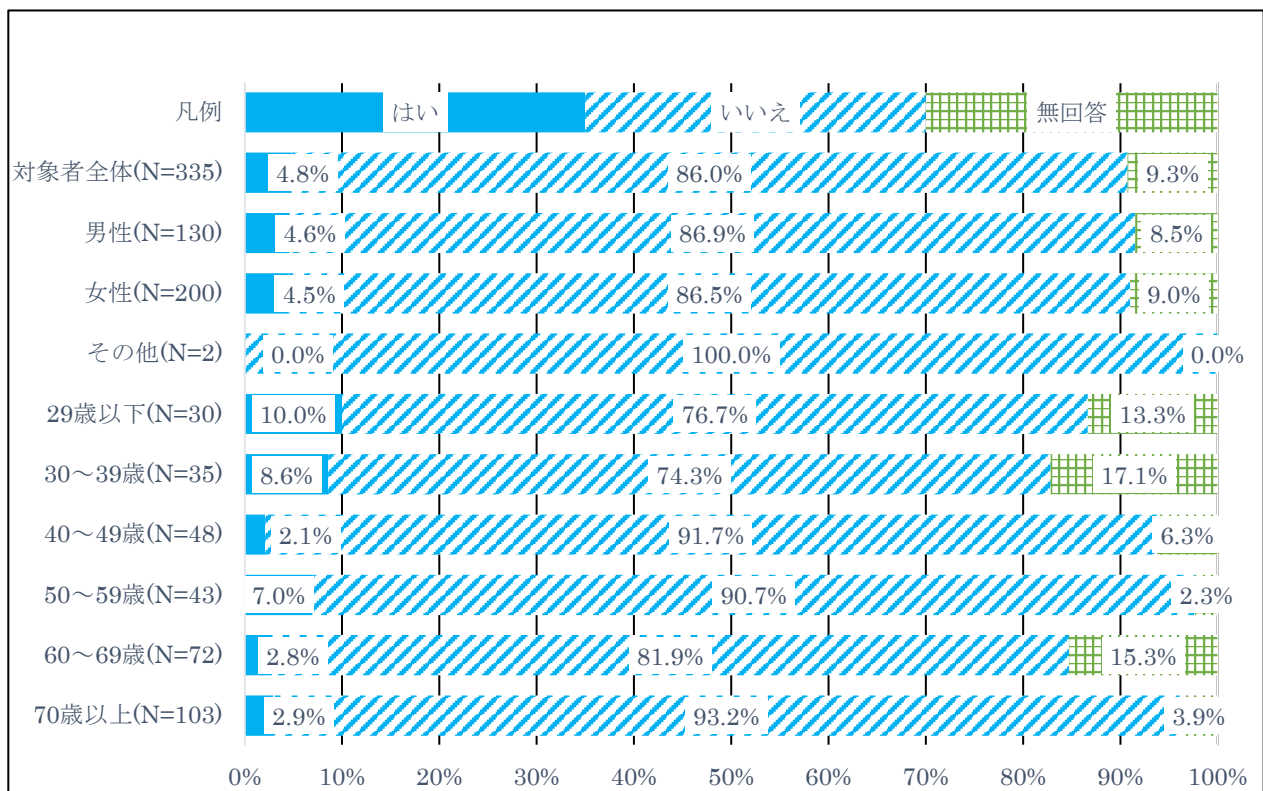
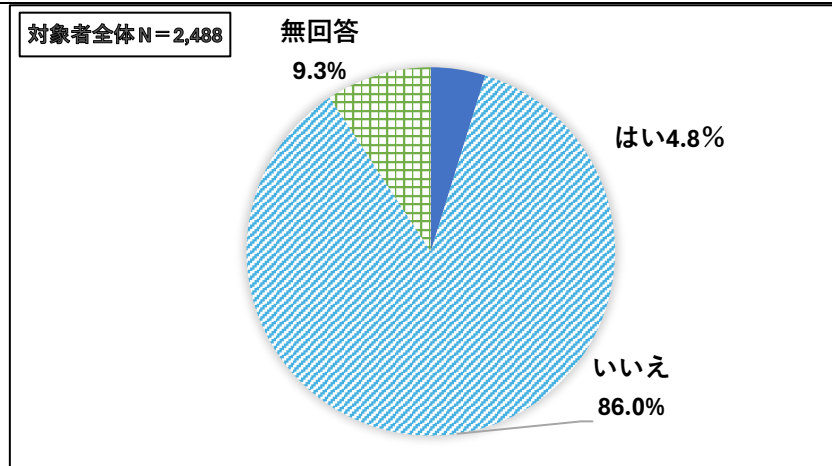
【年代別】「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が 50 歳代(90.6%)で最も高く、最も低い 70 歳以上(29.8%)と比べると 60.8 ポイントの差となっている。

◇さぼーとほっと基金への寄付の有無

「問 38 で「1 よく知っている」「2 ある程度知っている」、「3 名称は知っているが内容は知らない」と答えた方にお聞きします。」

問38-2 あなたは、さぼーとほっと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さぼーとほっと基金への寄付の有無は「はい」が4.8%



【全 体】さぼーとほっと基金への寄付の有無は、「はい」が4.8%、「いいえ」が86.0%となっている。

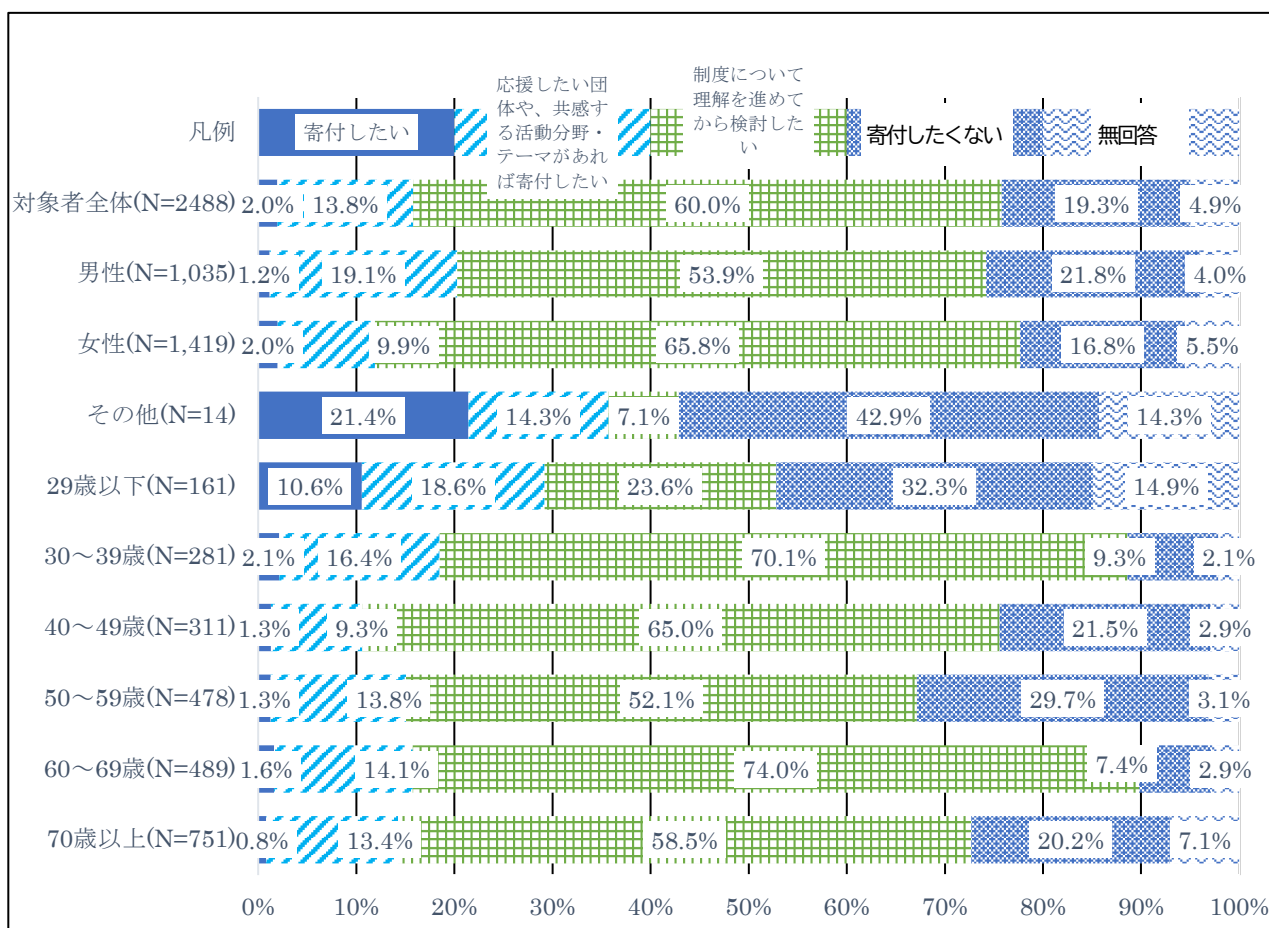
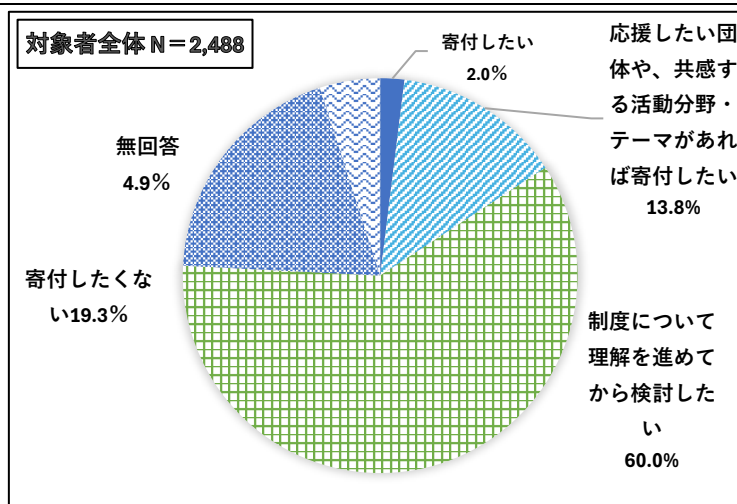
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「はい」が29歳以下(10.0%)で最も高く、次いで30歳代(8.6%)、50歳代(7.0%)となっている。

◇今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思うか

問39 あなたは、今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

今後のさぼーとほっと基金への寄付は「制度について理解を進めてから検討したい」が60.0%



【全 体】 今後のさぼーとほっと基金への寄付は、「制度について理解を進めてから検討したい」が 60.6%、「応援したい団体や、共感する活動分野・テーマがあれば寄付したい」が 13.8%となっている。

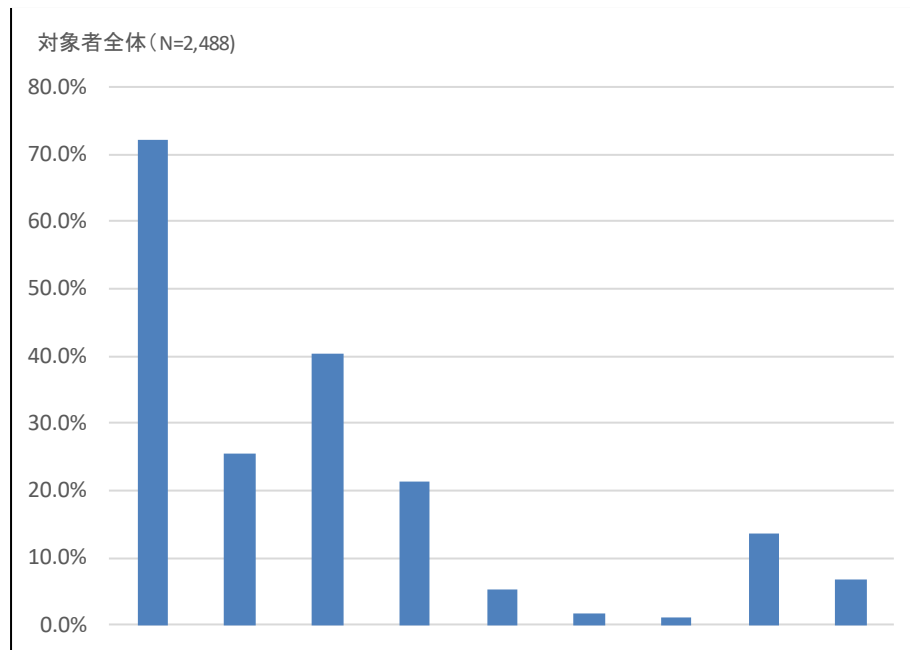
【性 別】「応援したい団体や、共感する活動分野・テーマがあれば寄付したい」は男性で 19.1%と、女性の 9.9%より9.2ポイント高くなっている。また「制度について理解を進めてから検討したい」は女性で 65.8%と、男性の 53.9%より 11.9ポイント高くなっている。

【年代別】「制度について理解を進めてから検討したい」が 60 歳代(74.0%)で最も高く、次いで 30 歳代(70.1%)、40 歳代(65.0%)となっている。

◇寄付する際に重要だと思うこと

問 40 あなたが寄付する際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものに 2 つまで○をつけてください。

寄付をする際に重要だと思うことは「使い道の透明性が担保されている」が 72.1%



		対象者数	使い道の透明性が担保されている	情報発信・報告がしっかりしている	活動内容に共感できる	活動成果が具体的である	身近に活動していて親しみが持てる	寄付することで感謝状などの特典がある	その他	特になし	未回答
		(%)									
対象者全体		2,488	72.1%	25.4%	40.5%	21.4%	5.2%	1.8%	1.2%	13.7%	6.8%
性別	男性	1,035	76.2%	28.7%	43.1%	20.8%	6.6%	1.9%	1.0%	16.3%	8.2%
	女性	1,419	69.7%	23.2%	38.9%	22.2%	4.1%	1.6%	1.4%	11.6%	6.0%
	その他	14	71.4%	35.7%	21.4%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%	21.4%	-
年代別	29歳以下	161	84.5%	64.0%	88.8%	21.1%	1.9%	5.0%	2.5%	20.5%	16.1%
	30～39歳	281	85.1%	28.1%	53.0%	26.7%	1.4%	1.4%	1.8%	31.7%	3.2%
	40～49歳	311	79.1%	27.3%	53.7%	20.9%	8.0%	1.0%	2.6%	24.1%	6.4%
	50～59歳	478	77.0%	15.9%	26.8%	24.9%	5.4%	1.5%	0.8%	5.2%	8.8%
	60～69歳	489	54.6%	12.5%	32.5%	15.3%	5.5%	1.0%	0.4%	7.2%	6.5%
	70歳以上	751	70.4%	29.7%	32.6%	21.6%	5.9%	1.3%	1.1%	10.3%	5.2%

	対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
	対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】寄付をする際に重要だと思うことは、「使い道の透明性が担保されている」が 72.1%、「活動内容に共感できる」が 40.5%、「情報発信・報告がしっかりしている」25.4%となっている。

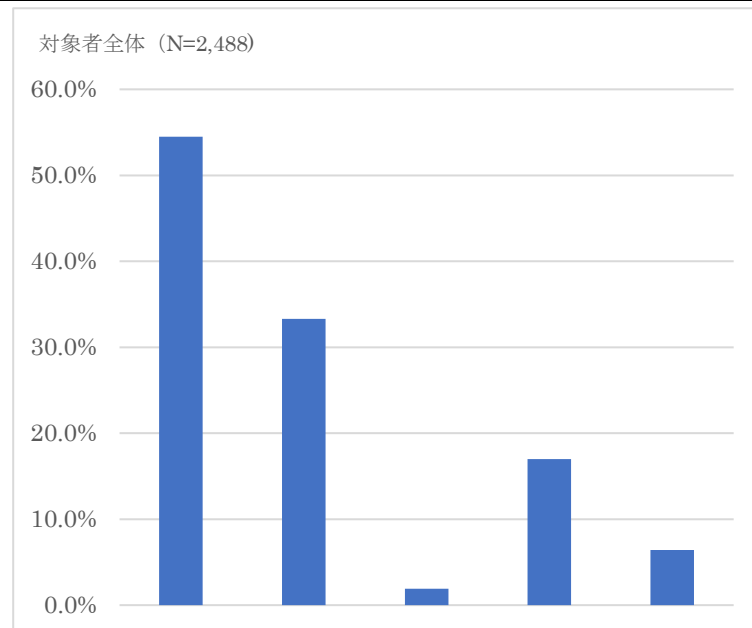
【性 別】「使い道の透明性が担保されている」、「情報発信・報告がしっかりしている」、「活動内容に共感できる」は、男性が女性より、5.5 ポイント以上高くなっている。

【年代別】29 歳以下では「活動内容に共感できる」が最も高く、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「使い道の透明性が担保されている」が最も高くなっている。

◇寄付をする際の決済方法

問41 あなたは、寄付をする際にどの決済方法を利用したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

寄付する際に利用したい決済方法は現金(市窓口、銀行窓口での納付書払い)が54.5%



		対象者数	現金(市窓口、銀行窓口での納付書払い)	クレジットカード、電子マネー決済	特になし	無回答	その他
		(%)					
対象者全体		2,488	54.5%	33.3%	1.9%	17.0%	6.4%
性別	男性	1,035	62.8%	40.7%	2.0%	23.5%	7.2%
	女性	1,419	48.3%	28.1%	1.6%	12.2%	5.8%
	その他	14	57.1%	35.7%	28.6%	21.4%	0.0%
年代別	29歳以下	161	62.1%	8.1%	4.3%	27.3%	12.4%
	30～39歳	281	65.8%	34.9%	2.1%	19.9%	5.3%
	40～49歳	311	56.6%	50.5%	2.9%	10.0%	8.4%
	50～59歳	478	42.5%	46.9%	1.5%	7.3%	3.3%
	60～69歳	489	52.4%	30.7%	1.0%	12.1%	4.3%
	70歳以上	751	57.3%	24.4%	1.7%	26.0%	8.3%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】寄付をする際利用したい決済方法は「現金(市窓口、銀行窓口での納付書払い)」が54.5%、「クレジットカード、電子マネー決済」が33.3%となっている。

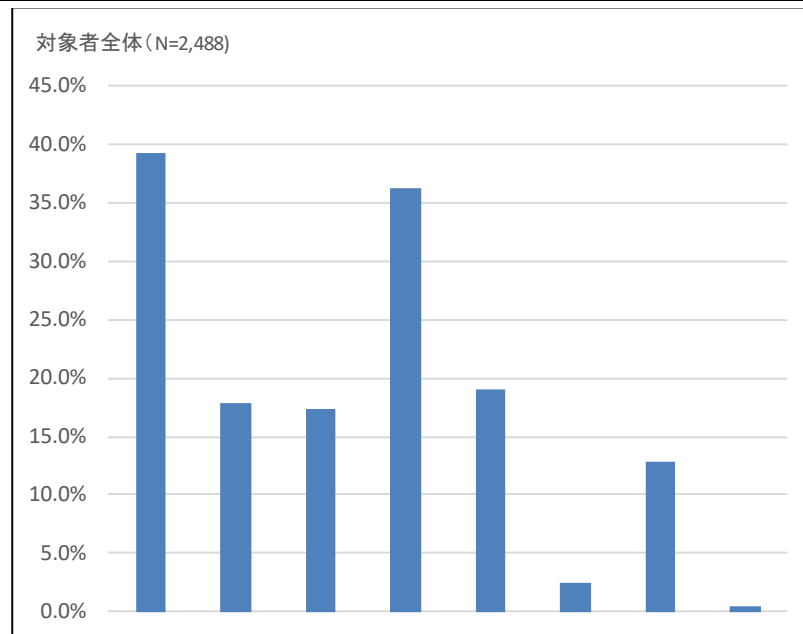
【性別】「現金」、「クレジットカード、電子マネー決済」は、男性が女性より、12.6ポイント以上高くなっている。

【世代】50歳代では「クレジットカード、電子マネー決済」が最も高く、29歳以下、30歳代、40歳代、60歳代、70歳以上では「現金」が最も高くなっている。

◇寄付をしたいと思う分野・テーマ

問4 2 あなたが寄付をしたいと思う市民まちづくり活動※は以下のどのような分野の活動ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

寄付したい分野・テーマは「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が39.2%



		対象者数	保健、医療、福祉の増進を図る活動	まちづくりの推進を図る活動	文化・スポーツ・観光・経済等の振興を図る活動	子どもの健全育成を図る活動	寄付したいと思うが分野にこだわらない	その他	市民まちづくり活動に寄付したいと思わない	無回答
		(%)								
対象者全体		2,488	39.2%	17.9%	17.3%	36.3%	19.1%	2.5%	12.9%	0.4%
性別	男性	1,035	44.3%	20.9%	20.1%	44.3%	22.6%	2.0%	15.8%	0.4%
	女性	1,419	35.7%	15.9%	15.4%	30.6%	16.8%	2.7%	10.9%	0.4%
	その他	14	28.6%	7.1%	14.3%	42.9%	7.1%	7.1%	-	7.1%
	その他	14	28.6%	7.1%	14.3%	42.9%	7.1%	7.1%	-	7.1%
年代別	29歳以下	161	14.3%	24.8%	18.6%	34.8%	20.5%	16.8%	3.1%	1.2%
	30～39歳	281	31.7%	19.9%	14.6%	42.3%	27.0%	1.1%	3.9%	-
	40～49歳	311	34.7%	20.6%	28.6%	18.6%	21.2%	2.3%	17.4%	1.0%
	50～59歳	478	41.4%	9.4%	8.2%	29.3%	11.7%	1.7%	8.4%	0.8%
	60～69歳	486	31.5%	11.5%	9.8%	33.5%	19.8%	1.8%	12.5%	-
	70歳以上	751	52.7%	24.2%	24.1%	48.2%	19.3%	0.9%	19.6%	0.1%

対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】寄付したい分野・テーマは、「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が 39.2%、「子どもの健全育成を図る活動」が36.3%、「寄付したいと思うが分野にこだわらない」が19.1%となっている。

【性 別】「保健、医療、福祉の増進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」は、男性が女性より、5.0ポイント以上高くなっている。

【年代別】「子どもの健全育成を図る活動」が70歳以上(48.2%)で最も高く、次いで30歳代(42.3%)、29歳以下(34.8%)となっている。

資料 調査票

令和7年度第1回市民意識調査票

「市民意識調査」へのご協力のお願い

～あなたの声をまちづくりに～

日頃から、札幌市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

札幌市では、市民の皆さまのお考えやご要望を市政に反映させるために、札幌市民5千人の方々にご回答をお願いする調査を実施しております。

突然のお願いで恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

● あなたにお願いしたいこと

「市民意識調査票」にご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れて返送してください。

● 5千人の選び方

18歳以上の市民の皆さまの中から、無作為抽出法（くじ引きのような方法）で抽出いたしました。

● 今回お送りしたもの

市民意識調査票、返信用封筒、チラシ（※）

（※ チラシはPR用で市民意識調査とは関係ありません。）

● プライバシーの保護について

この調査は、皆さまから無記名でご回答いただくものです。個人のお名前が公表されることは、決してございません。

また、調査をお願いした方の情報は、この調査以外には使用いたしません。

—【ご回答にあたって】—

ご使用いただく筆記用具は、どのようなものでも構いません。

ご回答は、あてはまる番号に○印をつけるか、あるいは具体的な内容をご記入ください。

記入されました市民意識調査票は、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに令和7年7月6日（日）までに、郵便ポストへ投函してください。

ご不明な点やお問い合わせは

札幌市総務局広報部市民の声を聞く課担当

片桐 ☎ 011-211-2045 まで

<市民意識調査に関するよくある質問（FAQ）>

https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnokoe/citi_enq/faq.html



テーマ1 札幌市民の自転車利用について

札幌市では、交道德の向上と交通環境の改善を図るために市民運動を展開し、札幌市を明るく快適な交通安全都市とすることを目的として様々な活動を実施しております。

そこで、皆さまの自転車利用の状況をお伺いし、今後の活動の参考とさせていただきます。

問1 自転車の安全利用についてお聞きします。以下に示した自転車に関する法令等のうち、あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

- 1 自転車にも交通違反の罰則がある
- 2 自転車は原則、車道の左側を走行し、歩道走行する場合は例外として決められている
- 3 自転車で歩道を走る時は、歩行者を優先する
- 4 自転車で歩道を走る時は、歩行者に危険がないよう徐行しなければならない
- 5 自転車で歩道を走る際、自転車が歩行者の妨げになりそうな時は一時停止しなければならない
- 6 一時停止の標識は、自転車も一時停止し、安全を確認し、交差点を通行しなければならない
- 7 自転車乗車用ヘルメットの着用に努めなければならない
- 8 自転車損害賠償保険の加入に努めなければならない
- 9 知っているものはない

問2 あなたが自転車を利用する頻度はどのくらいですか。夏期(4月～10月)の状況について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週3～4日 | } ⇒ 問3 ～ 問7 へ |
| 3 週1～2日 | 4 週1回未満 | |
| 5 利用しない | ⇒ 問8 へ | |

≪**問2**で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。≫

問3 あなたの自転車の利用目的について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------|-------|---------|
| 1 通勤 | 2 通学 | 3 買い物 | 4 仕事・業務 |
| 5 通院 | 6 送迎 | 7 習い事 | 8 レジャー |
| 9 その他 () | | | |

問4 あなたが自転車利用時に、実際に走行する機会の多い場所はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|------|------|-----------|
| 1 車道 | 2 歩道 | 3 その他 () |
|------|------|-----------|

問5 あなたは自転車損害賠償保険(他の保険に付帯されているものも含む)に加入していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 加入している | 2 加入していない | 3 わからない |
|----------|-----------|---------|

問6 あなたは、自転車の利用時にヘルメットを着用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1 着用している ⇒ 問7 へ | 2 着用していない ⇒ 問6-1 へ |
|------------------------|---------------------------|

《問6》で「2 着用していない」と答えた方にお聞きます。》

問6-1 あなたがヘルメットを着用していない理由としてあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 必要性を感じないため | 2 販売価格が高いため |
| 3 頭髮が乱れるため | 4 持ち歩くのが面倒なため |
| 5 周りの人が着用していないため | 6 着用の努力義務化を知らなかったため |
| 7 気に入ったデザインがないため | 8 移動時間が短いから |
| 9 その他 () | |

問7 自転車で歩道を走行する理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--|
| 1 工事や駐停車する車両があるから | |
| 2 自転車走行帯が狭いから | |
| 3 車のスピードが速いから | |
| 4 車道の交通量が多いから | |
| 5 車道走行自体が恐いと思うから | |
| 6 歩道の方が安全だと思うから | |
| 7 その他 () | |
| 8 歩道を走行することはない | |

《問2》で「5 利用しない」に○をつけた方にお聞きます。》

問8 あなたが自転車を利用しない理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------------------|--|
| 1 公共交通機関が充実しているなど、必要性を感じないから | |
| 2 自転車の交通ルールが分からないから | |
| 3 ヘルメットを被りたくないから | |
| 4 事故の危険が高いから | |
| 5 自転車に乗れないから | |
| 6 自転車を持っていないから | |
| 7 その他 () | |

《皆さまにお聞きます。》

問9 あなたが歩道を歩いているとき、歩道を走行する自転車利用者についてどのように感じていますか。
それぞれの項目について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ア 走行する自転車と接触したり、接触しそうになったことがありますか。

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

イ 自転車のスピードについて

- | | | |
|--------------|---------|-----------|
| 1 もっと減速してほしい | 2 適切である | 3 その他 () |
|--------------|---------|-----------|

ウ 歩行者への配慮について

- | | | |
|------------------|---------|-----------|
| 1 もっと歩行者に配慮してほしい | 2 適切である | 3 その他 () |
|------------------|---------|-----------|

テーマ2 雪対策に関する取り組みについて

札幌市では、安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現に向けて、市民の皆さまや企業などと協働して雪対策に取り組んでいます。そこで、札幌市による道路の除雪作業に関する認識や、市民の皆さまによる取り組みの現状などについてお聞きし、今後の雪対策の参考とさせていただきます。

札幌市による道路の除排雪作業は、道路の種類や状況によって異なります。

- 新雪除雪：まとまって降り積もった路面の雪(新雪)を道路脇に寄せ、通行幅を確保する作業
- 排雪：除雪で積み上げた道路脇の雪を、雪堆積場や融雪施設などへ運搬する作業
- 幹線道路：バス路線のように地域間や主要な地点を結ぶ、交通量の多い道路
- 生活道路：住宅地などから幹線道路に出るまでの間の道路

問10 あなたは、札幌市の新雪除雪により、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)を各世帯に行っていることを知っていますか。

- 1 知っている 2 知らない

問11 札幌市の新雪除雪後に、自宅の玄関前や車庫前などに寄せられた雪の処理(道路部分の雪かき)の負担感について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 とても負担を感じる
- 2 やや負担を感じる
- 3 あまり負担を感じない
- 4 全く負担を感じない
- 5 雪の処理をする機会がないので分からない

札幌市では、より快適な冬期生活環境を要望する地域の声に応えるため、生活道路の排雪支援制度として、排雪を希望する地域と札幌市が費用を負担し合い協働で取り組む、パートナーシップ排雪制度と市民助成トラック制度を設けています。

- パートナースhip排雪：地域と札幌市の双方が費用を負担し、除雪事業者を含めた三者が協力しながら、生活道路の排雪を行う制度
- 市民助成トラック：地域住民が主体となって、生活道路の排雪を行う場合に、札幌市からトラックを貸し出す制度

問12 あなたは、地域等の団体が生活道路の排雪を希望する場合、「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度が利用できることを知っていますか。

- 1 知っている 2 知らない

問13 あなたの地域等では、「パートナーシップ排雪」や「市民助成トラック」の排雪支援制度を利用していますか。

- 1 利用している 2 利用していない 3 分からない

問14 あなたは、札幌市が現在、「パートナーシップ排雪」などの排雪支援制度の見直しや持続可能な生活道路除排雪に関する検討を進めていることを知っていますか。

- 1 知っている 2 知らない

問15 冬期間の生活道路の状況について、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 道路の通行幅の確保
- 2 路面の凸凹や段差、気温の上昇によるザクザク路面の抑制
- 3 道路脇の雪山の高さや交差点の見通し確保
- 4 気温の低下によるつるつる路面对策
- 5 特にない

問16 あなたが、今後特に除排雪に力を入れてほしいと思う道路はどこですか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|--------|--------|--------|
| 1 幹線道路 | 2 生活道路 | 3 特にない |
|--------|--------|--------|

札幌市では、札幌管区気象台が発表する大雪警報や暴風雪警報時において、広報媒体を活用し市民の皆さまへの注意喚起を図っています。

問17 あなたは、警報発表などの大雪時や大雪が想定されるときにどのような行動をとっていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 通勤通学時に、移動手段を変更している
- 2 通勤通学時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている
- 3 時差出勤、在宅勤務、オンライン授業など、勤務形態や授業形態を変更している
- 4 不要不急の車による外出を控えている
- 5 特に普段と違う行動をとっていない

問18 近年、札幌市内では局地的な大雪や季節外れの急激な気温上昇など、特異な気象が見られます。これらの特異な気象は道路の交通混雑や公共交通機関の運休など、あなたにとってどの程度影響がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 非常に影響がある
- 2 かなり影響がある
- 3 多少影響がある
- 4 全く影響がない

問19 札幌市では、市民の皆さまに「除雪ボランティア」への協力を呼び掛けています。以下のうち、あなたがこれまでに取り組んだことがある除雪ボランティア活動について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく
- 2 ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする
- 3 福祉除雪の地域協力員に登録し、高齢者宅等の玄関前除雪を行う
- 4 近所で困っている人の除雪を自発的に手伝う
- 5 消火栓周りの除雪を行う
- 6 雪どけ後に、雪置き場として利用した公園の清掃や、滑り止めの砂の回収を行う
- 7 除雪ボランティア活動に取り組んだことはない

問20 あなたは、札幌市が各種除雪ボランティア活動を推進するため、どのような取組が重要になると思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 町内会など地域への働きかけ
- 2 企業や団体などへの働きかけ
- 3 学生など若い世代への働きかけ
- 4 活動に使用する除雪用具（スコップ、スノーダンプ、小型除雪機など）の貸出
- 5 活動の情報発信や広報・啓発
- 6 報奨（感謝状、ギフトカードなど）の提供による動機付け
- 7 その他（ ）

問21 あなたは、昨年度の冬に自宅前の雪を処理するため、民間企業などによる有料除排雪サービス（福祉除雪を除く）を利用しましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 利用している
- 2 利用を検討したが、予約がいっぱいで利用できなかった
- 3 利用を検討したが、費用が高くて利用しなかった
- 4 利用を検討したが、その他の理由で利用しなかった
- 5 利用していない

問22 昨年度、冬の暮らしに関する情報（札幌市の除雪に関する情報や冬のルール、除雪の出動情報など）を以下のように発信しました。あなたが、見たことがあるものにいくつでも○を付けてください。

- 1 冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）
- 2 札幌市公式ホームページ（冬の暮らし・除雪）
- 3 テレビのデータ放送（HTB、NHK、HBC、UHB）
- 4 札幌市公式SNS※（X(旧Twitter)、LINE）
- 5 札幌市公式Youtube 動画（ザクザク路面に関する札幌市からのお願い、冬歩きの心得）
- 6 Yahoo トップページ広告、YouTube 広告
- 7 テレビのニュース番組、情報番組
- 8 テレビCM
- 9 新聞
- 10 デジタルサイネージ（チカホ、各区役所、北海道神宮、狸小路商店街）
- 11 札幌市のイベント（環境広場さっぽろ 2024、ジモトのシゴト ワク！WORK！、ミニさっぽろ、建設産業ふれあい展、雪と暮らすおはなし発表会、）
- 12 その他刊行物（啓発チラシ、パンフレット、ポスター、「さっぽろ雪の絵本」など）
- 13 見たことがない

※ SNS：インターネット上で、友人・知人などとソーシャル(社会的)なコミュニケーションを取り、人とのつながりを築くことを促進するサービス。Facebook、X(旧Twitter)、LINE、Instagram など。

テーマ3 災害への備えや厳冬期の考え方、防災啓発について

札幌市では、近年の激甚化・頻発化する自然災害や社会情勢に応じた防災対策に取り組んでいます。そこで、皆さまに災害に関することについてお聞きし、今後の防災対策の参考とさせていただきます。

災害時は、まずは自分の身を守る「自助」が重要となるため、札幌市では、災害の発生に備えて、平時から家庭での備えをお願いしています。

問23 あなたのご家庭では、地震や風水害などの災害に備えてどのような対策をしていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 家具の固定や配置の工夫
- 2 家屋や塀などの補強
- 3 家族間での連絡方法や集合場所などの共有
- 4 備蓄品や非常持ち出し品の用意
- 5 食料品や飲料水などの多めの買い置き（ローリングストック）
- 6 自家用車へ早めの満タン給油（こまめな給油）
- 7 テレビや書籍、インターネットなどで災害時の心得や知識の取得
- 8 ハザードマップの確認
- 9 避難方法や最寄りの避難場所の確認
- 10 親戚や知人宅への避難の相談
- 11 地震保険、水災保険など災害関連の保険への加入
- 12 地域での防災訓練や防災イベントへの参加
- 13 所有している電子端末に防災関係アプリのインストール
- 14 その他（ ）
- 15 特に何もしていない

問24 あなたは、災害に備えて具体的にどのような備蓄品を何日分用意していますか。それぞれの項目（ア～ウ）について、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。

	1 日 分	2 日 分	3 日分以上	用意していない	わからない
ア 飲料水	1	2	3	4	5
イ 食料	1	2	3	4	5
ウ 携帯トイレ	1	2	3	4	5

問24-1 **問24**のア～ウ以外に災害に備えているものがあれば、具体的にどのような備蓄品を 何日分用意しているかご自由にお書きください。

2024年1月に能登半島地震が発生しましたが、札幌市でも、厳冬期に大地震が発生した場合が最大の被害になると想定しています。

問25 あなたは、厳冬期での災害発生に備えてどのような備蓄品を用意していますか。当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|------------------|-------------------------|
| 1 電源不要のポータブルストーブ | 2 カセットコンロ |
| 3 非常用発電機 | 4 暖かいインナーウェア（靴下、保温肌着など） |
| 5 防寒着 | 6 寝袋や毛布 |
| 7 防寒シートや段ボール | 8 使い捨てカイロ |
| 9 その他（ | 10 特に何も備えていない |

問26 **厳冬期**に大地震が発生し、自宅の被害がない、または少ない場合において、ブラックアウト※となったとき、あなたはどこに避難しますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|----------------|--------------------|
| 1 避難所 | } ⇒ 問26-1 へ |
| 2 家族・親戚・知人宅 | |
| 3 車内 | |
| 4 ホテル等宿泊施設 | |
| 5 その他（ | |
| 6 避難しない（自宅にいる） | ⇒ 問27 へ |

※ 電力会社が管轄するエリア全域に及ぶ大規模停電のことをいう

≪**問26**で「6 避難しない(自宅にいる)」と答えた方以外の方お聞きします。≫

問26-1 **厳冬期**に大地震が発生し、自宅の被害がない、または少ない場合において、ブラックアウトとなったとき、あなたが避難する理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 冷蔵庫や照明などの電化製品全般が使用できないから
- 2 暖房機器が使用できず寒いから
- 3 乾電池や懐中電灯、モバイルバッテリーなどの備蓄がない、または少ないから
- 4 停電により水が使えないから（マンションなど）
- 5 不安だから
- 6 食べ物の備蓄がない、または少ないから
- 7 余震が心配だから
- 8 避難先に友人・知人などがいるかもしれないから
- 9 避難先に何か情報があるかもしれないから
- 10 その他（
- 11 特に理由はない

《皆さまにお聞きます。》

札幌市では、ハザードマップ・各種パンフレット・防災動画・札幌市公式 X (旧 Twitter)・防災アプリ等で防災の啓発を行っています。

問27 あなたは、防災の知識や情報を何で得ていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-----------|------------|
| 1 テレビやラジオ | 2 インターネット |
| 3 雑誌や本 | 4 新聞 |
| 5 SNS | 6 ポスターや掲示板 |
| 7 その他 () | 8 何も得ていない |

問28 あなたは、過去に防災に関するセミナーやイベントに参加したことがありますか。

- | | |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問29 あなたは今後、防災にかかるセミナーやイベントに参加しようと思いますか。

- | | |
|-----------------|--------------------|
| 1 必ず参加しようと思う | } ⇒ 問30 へ |
| 2 できるだけ参加しようと思う | |
| 3 あまり参加しようと思わない | } ⇒ 問29-1 へ |
| 4 参加しようと思わない | |

《**問29**で「3 あまり参加しようと思わない」または「4 参加しようと思わない」と答えた方にお聞きます。》

問29-1 あなたが参加しようと思わない理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------------------|
| 1 時間がとれないから | 2 開催される日時や場所が分からないから |
| 3 1人では参加しにくいから | 4 会場まで行くのが大変だから |
| 5 役に立つ情報が得られないと思えないから | 6 興味・関心がないから |
| 7 インターネットや本などで
すでに必要な情報を得ているから | 8 その他 () |
| 9 特に理由はない | |

《皆さまにお聞きます。》

問30 あなたが知りたいと思う防災に関する項目は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 家庭での日頃の備え | 2 地震や風水害などの災害リスク |
| 3 避難場所や避難経路 | 4 災害時の避難生活 |
| 5 災害時の情報収集先 | 6 過去の災害事例 |
| 7 その他 () | 8 特になし |

テーマ4 第2次札幌市 ICT 活用戦略について

札幌市では、今日急速に広まっている ICT（インターネットなどの情報通信技術）を利用して、市民の皆さんがより迅速に正確な行政情報を入手できるよう、また、日常生活をより便利に送ることができるよう、様々な施策に取り組んでいます。

そこで、市民の皆さまが、ICT を利用する際の目的や、利用されていない方がどのような理由で利用されていないのかをお伺いし、今後の取組の参考とさせていただきます。

問31 あなたは、以下の行政手続、行政サービス等を利用したことがありますか。次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 札幌市公式ホームページ
- 2 札幌市コールセンター
- 3 住民票や税などの証明書のオンライン申請
- 4 大型ごみのインターネット受付
- 5 札幌市図書館の図書貸し出しの予約・検索システム
- 6 公共施設予約システム
- 7 さっぽろえきバス navi
- 8 さっぽろ子育てアプリ
- 9 札幌市公式 LINE
- 10 札幌市防災アプリ「そなえ」
- 11 札幌市ごみ分別アプリ
- 12 さっぽろ圏スマートアプリ
- 13 マイナポータル
- 14 確定申告（e-Tax、eLTAX）
- 15 その他（ ）
- 16 利用したことはない ⇒ **問31-1** へ

⇒ **問32** へ

《**問31**で「16.利用したことはない」と答えた方にお聞きます。》

問31-1 あなたが、行政手続、行政サービスを活用していない理由について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 使いたい手続、サービスがない
- 2 サービスを利用するまでの方法や、機器、アプリケーションの操作方法がわからない
- 3 セキュリティに不安がある
- 4 区役所等の職員と対話をしながら手続ができないことに不安がある
- 5 今までのやり方を変えることに抵抗がある
- 6 インターネットの手続だけで完結しないので不便だから（押印や証明書の提出など）
- 7 その他（ ）

《皆さまにお聞きます。》

問32 スマートフォンを利用する際の目的は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 通話機能の利用
- 2 SNS（無料通話機能を含む）の利用（Facebook、X(旧 Twitter)、LINE など）
- 3 電子メールのやりとり
- 4 写真や動画の撮影
- 5 健康管理（歩数、睡眠時間、体重、体温など）
- 6 電子マネー決済の利用※
- 7 各種ポイントサービスアプリの利用
- 8 ニュースアプリの利用
- 9 情報の検索・ホームページの閲覧
- 10 地図・交通情報の利用
- 11 動画共有サイト（YouTube など）や音楽系ストリーミングサービス（Spotify、Apple Music など）の利用
- 12 ゲームアプリの利用
- 13 その他（ ）
- 14 スマートフォンをもっていない

※ 電子マネー決済：paypay、楽天 pay、d 払い、suica など、現金の代わりに電子的なデータの送受信で支払いができるサービスのこと。

【市政広告】 ※この広告は、市民意識調査とは関係ありません。

札幌の旬な市政情報や魅力をお伝える 札幌市広報番組のご案内

テレビ 			
ウォッチング札幌NEXT100	札幌ふるさと再発見	サッポロスマイル	いい人、いい街 #まいにち金メダル
〈TVh〉第1/3日曜 17:15-17:20 次世代を担う学生が、札幌の「今」をレポートします。	〈STV〉毎週土曜 11:25-11:30 身近な地域で活躍する人やまちづくり活動を紹介し、札幌の魅力を再発見します。	〈HBC〉第2/4日曜 16:24-16:30 食や自然、イベントなど、札幌の「笑顔の源」となる魅力を紹介します。	〈uhb〉第1/3日曜 6:25-6:30 札幌で活躍している人やそれを支える人を「まいにち金メダリスト」として紹介します。
			
ラジオ 			
スマイルさっぽろリターンズ	じゅんきのさっぽろ世間話	突撃！サッポロッティー	Groove SAPP_RO (グルーヴサッポロスマイル)
〈HBCラジオ〉 第2/4月曜 9:35-45ごろ 「気分上昇ワイドナルミッツ」内 札幌の旬な情報を真面目な楽しさでお届けします。	〈STVラジオ〉 毎週水曜 12:18-28ごろ 「工藤じゅんきの十人十色」内 知っておきたい話題や、誰かに話したくなる情報を語り合ってお知らせします。	〈AIR-G'〉 第2/4金曜 15:35-40ごろ 「キンヨウアパートメント」内 札幌のとおっておきな場所やイベントに突撃取材して、街の魅力を引き出します。	〈NORTH WAVE〉 第2/4金曜 12:15-25ごろ 「Move on up!」内 「サッポロスマイルパートナーズ」の皆さんの活動を紹介します。
			

テーマ5 障がい者コミュニケーション条例等について

札幌市では、障がい特性に応じたコミュニケーション手段の理解及び利用を促進し、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現することを目的とした「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」に基づき、コミュニケーション手段の講座や体験イベントなどさまざまな施策を行っております。

そこで、障がいのある方が使用するコミュニケーション手段に対する認知度や意識などをお伺いし、今後の施策の参考にさせていただきます。

問33 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を知っていましたか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 条例の内容をよく知っていた | } ⇒ 問33-1 へ |
| 2 条例の内容をある程度知っていた | |
| 3 条例の名称のみ知っていた | |
| 4 知らなかった | ⇒ 問34 へ |

《**問33**で「1 条例の内容をよく知っていた」「2 条例の内容をある程度知っていた」「3 条例の名称のみ知っていた」と答えた方にお聞きします。》

問33-1 あなたは、「札幌市障がい特性に応じたコミュニケーション手段の利用の促進に関する条例」を何で知りましたか。あてはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1 広報さっぽろ | 2 ポスター・チラシ・パンフレット |
| 3 ホームページ | 4 新聞・テレビなどの報道 |
| 5 家族、知人 | 6 市役所や区役所の窓口 |
| 7 その他（ ） | 8 覚えていない |

《皆さまにお聞きします。》

問34 あなたは、障がい者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持っていますか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- | | |
|---------|----------|
| 1 持っている | 2 持っていない |
|---------|----------|

問35 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段で、あなたが知っているものは何ですか。あてはまるものに**いくつでも**○をつけてください。(ご自身でその手段の表現ができなくても構いません。知っているものに○をつけてください。)

- | | | |
|-------|--------------------------------|----------|
| 1 手話 | 2 要約筆記 | 3 触手話 |
| 4 点字 | 5 指点字 | 6 手のひら書き |
| 7 音訳 | 8 口文字 | 9 意思伝達装置 |
| 10 筆談 | 11 その他（ ） | 12 特になし |

問36 障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、あなたは学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- | | | | |
|---|--------------|---|------------------|
| 1 | そう思う | } | ⇒ 問36-1 へ |
| 2 | どちらかといえばそう思う | | |
| 3 | どちらかといえば思わない | } | ⇒ 問37 へ |
| 4 | 思わない | | |

《**問36**で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。》

問36-1 あなたは、障がいのある方が使用するコミュニケーション手段について、どの程度学んでみたい、または、知りたいと思いますか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- 1 一定期間の継続した講座などに通い、資格を取得して専門的な支援者やボランティアとして活躍したい。
- 2 通信教育やオンライン講座で自分のペースで学び、仕事や日常生活の中で活かしたい。
- 3 地域のサークルなどに加入し、趣味として学んでみたい。
- 4 単発のイベントなどで体験し、その後も機会があれば使用してみたい。
- 5 書籍やガイドブックなどで教養として知っておきたい。
- 6 その他 ()

《皆さまにお聞きします。》

問37 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、何か取り組みたいと思いますか。あてはまるものに**1つだけ**○をつけてください。

- | | | | |
|---|--------------|---|------------------|
| 1 | そう思う | } | ⇒ 問37-1 へ |
| 2 | どちらかといえばそう思う | | |
| 3 | どちらかといえば思わない | } | ⇒ テーマ6 へ |
| 4 | 思わない | | |

《**問37**で「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と答えた方にお聞きします。》

問37-1 コミュニケーションに障がいのある方が暮らしやすいまちを作るために、具体的に取り組みたいと思うことはありますか。あてはまるものに**いくつでも**○をつけてください。

- 1 メディア（テレビやSNSなど）で、障がいに関する情報があればチェックする
- 2 講座に参加するなど、障がいのある方のコミュニケーション手段を学習し、実践する
- 3 ボランティア活動へ参加する
- 4 障がいのある方が行う行事、催し物に参加する
- 5 日常生活の場面で困っている方がいたら助ける
- 6 その他 ()

テーマ6 さぽーとほっと基金について

札幌市のさぽーとほっと基金は、皆さまからの寄付を募り、町内会・ボランティア団体・NPOなどが行うまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支えています。

【さぽーとほっと基金の特長】

特長1 思いにかなう寄付の行き先を選べます
寄付の際、応援したい【さぽーとほっと基金登録団体】
【活動分野】を指定することができます

特長2 税負担が軽減されます
法人であれば法人税が、個人であれば所得税と個人住民税が軽減されます



問38 あなたは、さぽーとほつと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 よく知っている
2 ある程度知っている
3 名称は知っているが内容は知らない
4 知らない ⇒ 問39へ

⇒ 問38-1、問38-2 ∧

⇒ 問39 ^

《問38》で「1 よく知っている」、「2 ある程度知っている」、「3 名称は知っているが内容は知らない」と答えた方にお聞きます。》

問38-1 あなたが、さぼーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 札幌市が発行している冊子やパンフレット
- 2 札幌市公式ホームページ
- 3 さぼーとほっと基金に寄付している企業の活動を通じて
- 4 市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された
- 5 イベントや展示など
- 6 テレビ・ラジオ・新聞
- 7 家族や知人からの口コミ
- 8 他の窓口などで紹介された
- 9 その他（ ）

問38-2 あなたは、さぼーとほつと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 はい 2 いいえ

《皆さまにお聞きます。》

問39 あなたは、今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 寄付したい
- 2 応援したい団体や、共感する活動分野・テーマがあれば寄付したい
- 3 制度について理解を進めてから検討したい
- 4 寄付したくない

問40 あなたが、寄付をする際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

- 1 使い道の透明性が担保されている
- 2 情報発信・報告がしっかりしている
- 3 活動内容に共感できる
- 4 活動成果が具体的である
- 5 身近に活動していて親しみが持てる
- 6 寄付することで感謝状などの特典がある
- 7 その他（)
- 8 特にない

問41 あなたは、寄付をする際にどの決済方法を利用したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 現金（市窓口、銀行窓口での納付書払い）
- 2 クレジットカード、電子マネー決済
- 3 その他（)
- 4 特にない

問42 あなたが寄付をしたいと思う市民まちづくり活動※は以下のどのような分野の活動ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 保健、医療、福祉の増進を図る活動
- 2 まちづくりの推進を図る活動
- 3 文化・スポーツ・観光・経済等の振興を図る活動
- 4 子どもの健全育成を図る活動
- 5 寄付したいと思うが、分野にこだわらない
- 6 その他（)
- 7 市民まちづくり活動に寄付したいと思わない

※ 市民が営利を目的とせず、市内において町内会、自治会、ボランティア団体、特定非営利活動法人等又は個人により自発的に行う公益的な活動

SAPP_{RO}